

# 平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡 発掘調査報告書

2 0 2 0

株式会社 文化財サービス





1. 吉州窯天目茶碗



2. 青白磁托



3. 吉州窯天目茶碗出土状況（北から）



## 例 言

- 1 本書は、京都市南区東九条室町 48 で実施した、平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡の発掘調査報告書である。(京都市番号 19H589)
- 2 調査は、株式会社アスコム(代表取締役社長 山村成載)の建物建設に伴い実施した。
- 3 調査は、株式会社金澤工務店(代表取締役社長 金澤孝昭)より株式会社文化財サービス(以下、「文化財サービス」という)に委託され実施した。調査は、大西晃靖、山内伸浩(文化財サービス)が担当した。
- 4 調査期間は、令和2年7月15日～9月14日である。
- 5 調査面積は、200.0 m<sup>2</sup>である。
- 6 本文・図中の方位・座標は世界測地第Ⅵ系による。標高は、T.P.(東京湾平均海面高度)である。
- 7 土層名及び出土遺物の色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 8 本書の執筆は、大西が行った。編集は、大西、吉川絵里(文化財サービス)が行った。
- 9 遺跡の写真撮影は大西が行った。出土遺物の撮影は写真楠華堂(内田真紀子氏)に依頼した。
- 10 調査に係る資料は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が保管している。
- 11 発掘調査及び整理作業の参加者は、下記のとおりである。

〔発掘調査〕 上田智也、小林一浩、田中慎一、中 優作、吉岡創平(以上、文化財サービス)、  
作業員(株式会社京カンリ)

〔整理作業〕 赤羽 香、内牧明彦、甲田春奈、多賀摩耶、野地ますみ、溝川珠樹、  
森下直子、若山美帆(以上、文化財サービス)
- 12 出土遺物の年代観は、平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年に依った。
- 13 現地調査・整理作業において、下記の方々にご教示をいただいた。記して感謝いたします。

(敬称略)

國下多美樹(龍谷大学)、浜中邦弘(同志社大学)、徳留大輔(出光美術館)、  
狭川真一(大阪大谷大学)、佐藤亜聖(公益財団法人元興寺文化財研究所)、  
平尾政幸(関西文化財調査会)



# 目 次

## 第Ⅰ章 調査の経緯

|              |   |
|--------------|---|
| 1 調査に至る経緯    | 1 |
| 2 調査の経過      | 1 |
| 3 整理作業・報告書作成 | 2 |

## 第Ⅱ章 位置と環境

|         |   |
|---------|---|
| 1 位置と環境 | 5 |
| 2 既往の調査 | 6 |

## 第Ⅲ章 調査成果

|                |    |
|----------------|----|
| 1 基本層序         | 13 |
| 2 検出遺構         | 16 |
| (1) 第1面        | 16 |
| (2) 第2面        | 16 |
| a 第2-1面(5a層上面) | 16 |
| b 第2-2面(5b層上面) | 21 |
| (3) 第3面        | 25 |
| 3 出土遺物         | 30 |
| (1) 土器・陶磁器類    | 30 |
| a 古墳時代         | 30 |
| b 平安時代         | 31 |
| c 鎌倉時代         | 31 |
| (2) 瓦          | 40 |
| (3) 石製品        | 40 |

## 第Ⅳ章 まとめ

|          |    |
|----------|----|
| 1 平安時代   | 41 |
| 2 鎌倉時代   | 41 |
| 3 室町時代以降 | 47 |

## 図版目次

|       |                                                                                                      |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 巻頭図版  | 1. 吉州窯天目茶碗<br>2. 青白磁托<br>3. 吉州窯天目茶碗出土状況（北から）                                                         |
| 図版 1  | 第 1 面平面図（4 層上面 1 : 100）                                                                              |
| 図版 2  | 第 2 - 1 面平面図（5 a 層上面 1 : 100）                                                                        |
| 図版 3  | 第 2 - 2 面平面図（5 b 層上面 1 : 100）                                                                        |
| 図版 4  | 第 3 - 1 面平面図（6・7 層上面 1 : 100）                                                                        |
| 図版 5  | 第 3 - 2 面平面図（7 層上面 1 : 100）                                                                          |
| 図版 6  | 遺構 1. 東区 第 1 面全景（4 層上面 西から）<br>2. 西区 第 1 面全景（4 層上面 東から）                                              |
| 図版 7  | 遺構 1. 東区 第 2 面全景（5 a 層上面 西から）<br>2. 集石 107・108（西から）                                                  |
| 図版 8  | 遺構 1. 西区 第 2 - 1 面全景（5 a 層上面 東から）<br>2. 柱列 140（北から）                                                  |
| 図版 9  | 遺構 1. 土坑 117 遺物出土状況（南から）<br>2. 土坑 138 遺物出土状況（東から）                                                    |
| 図版 10 | 遺構 1. 西区 第 2 - 2 面全景（5 b 層上面 東から）<br>2. 溝 205（東から）                                                   |
| 図版 11 | 遺構 1. 井戸 200（東から）<br>2. 井戸 152（西から）<br>3. 井戸 176（南西から）<br>4. 井戸 151（東から）                             |
| 図版 12 | 遺構 1. 土坑 172 遺物出土状況（東から）<br>2. 土坑 171・175（北西から）<br>3. 土坑 171・188・189・190・191（北西から）<br>4. 土坑 199（北から） |
| 図版 13 | 遺構 1. 東区 第 3 面全景（6・7 層上面 西から）<br>2. 西区 第 3 面全景（6・7 層上面 東から）                                          |
| 図版 14 | 遺構 1. 柵 285・286、溝 237・247・270（西区 西から）<br>2. 柵 286・287（東区 西から）<br>3. 柵 288（南から）                       |
| 図版 15 | 遺構 1. 西区北半 第 3 面の状況（南東から）<br>2. 3 C 区 第 3 面の状況（北から）<br>3. 4 C・5 C 区 第 3 面の状況（南から）                    |
| 図版 16 | 遺構 1. 溝 270 天目茶碗出土状況（北から）<br>2. 柱穴 235 軒平瓦出土状況（南から）                                                  |

|      |    |                                                                               |
|------|----|-------------------------------------------------------------------------------|
|      |    | 3. 柱穴235半裁状況（南から）                                                             |
| 図版17 | 遺構 | 1. 東区第3面 流路179・280掘削後全景（西から）<br>2. 流路179（北西から）<br>3. 流路280 西区北壁付近掘削後の状況（南東から） |
| 図版18 | 遺物 | 出土遺物1（輸入陶磁器、土師器、須恵器）                                                          |
| 図版19 | 遺物 | 1. 出土遺物2（須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器）<br>2. 出土遺物3（井戸200出土遺物）                                |
| 図版20 | 遺物 | 1. 出土遺物4（井戸152出土遺物）<br>2. 出土遺物5（井戸151出土遺物）                                    |
| 図版21 | 遺物 | 1. 出土遺物6（土坑138出土遺物）<br>2. 出土遺物7（輸入陶磁器）                                        |
| 図版22 | 遺物 | 1. 出土遺物8（瓦器）<br>2. 出土遺物9（軒瓦）                                                  |

## 挿図目次

|     |                                        |    |
|-----|----------------------------------------|----|
| 図1  | 調査位置図（1：2,500）                         | 1  |
| 図2  | 調査経過写真                                 | 3  |
| 図3  | 調査区地区割・基準点配置図（1：100）                   | 4  |
| 図4  | 既往調査位置図（1：5,000）                       | 7  |
| 図5  | 3C区南壁断面写真（北から）                         | 13 |
| 図6  | 調査区北・東壁断面図（1：80）                       | 14 |
| 図7  | 調査区南・西壁断面図（1：80）                       | 15 |
| 図8  | 東区 東西セクション断面図（1：40）                    | 17 |
| 図9  | 柱列140、土坑101・102・103平面・断面図（1：40）        | 18 |
| 図10 | 土坑117・138平面・断面図（1：20）                  | 20 |
| 図11 | 井戸151・152・200平面・断面図（1：40）              | 22 |
| 図12 | 土坑171・190、土坑189・191平面・断面図（1：40）        | 24 |
| 図13 | 土坑199・172平面・断面図（土坑199 1：40、土坑172 1：20） | 25 |
| 図14 | 柵285・288平面・断面図（1：50）                   | 26 |
| 図15 | 柵286・287平面・断面図（1：50）                   | 27 |
| 図16 | 溝247、溝237・270・土坑274平面・断面図（1：40）        | 29 |
| 図17 | 出土遺物1（1：4）                             | 33 |
| 図18 | 出土遺物2（1：4）                             | 35 |
| 図19 | 出土遺物3（1：4）                             | 39 |
| 図20 | 平安時代遺構概要図（1：1,000）                     | 43 |

|     |                         |    |
|-----|-------------------------|----|
| 図21 | 鎌倉時代遺構概要図1（1：500） ..... | 44 |
| 図22 | 鎌倉時代遺構概要図2（1：500） ..... | 45 |
| 図23 | 鎌倉時代遺構概要図3（1：500） ..... | 46 |

## 表目次

|    |              |    |
|----|--------------|----|
| 表1 | 既往調査一覧 ..... | 9  |
| 表2 | 遺構概要表 .....  | 16 |
| 表3 | 遺物概要表 .....  | 30 |
| 表4 | 遺物観察表 .....  | 48 |

# 第Ⅰ章 調査の経緯

## 1 調査に至る経緯

京都市南区東九条室町 48 に建物建設が予定された。建設予定地は、平安京左京九条三坊八町跡及び烏丸町遺跡にあたる。

建設工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）により試掘調査が実施されることとなった。試掘調査は、建設予定地の 3 箇所に調査区を設定して実施された。試掘調査の結果、平安時代～江戸時代までの複数の遺構面が確認されたことから、文化財保護課は残存状態の良好な 200.0 m<sup>2</sup>の発掘調査を指導した。発掘調査は、株式会社金澤工務店から株式会社文化財サービス（以下、「文化財サービス」という）に委託された。

## 2 調査の経過

調査区は文化財保護課により敷地内北西寄りに東西 20.0 m、南北 10.0 m で設定された。調査は発生する残土の置場を確保するため調査区を東西に二分割して行うこととした。調査区はそれぞれ東区・西区とし、東区より調査を開始した。

発掘調査は、2020 年 7 月 15 日より周辺の環境整備及び資材等の搬入を行った。調査区の設定は 7 月 15 日に行い、7 月 16 日に文化財保護課に設定状況の臨検を受けた後、7 月 17 日より重機による遺構面までの掘削を開始した。室町～江戸時代の遺構面である 4 層上面まで重機で掘削し、以深は人力により調査を実施した。東区の調査は、4 層上面（室町～江戸時代）、5 層上面（鎌倉

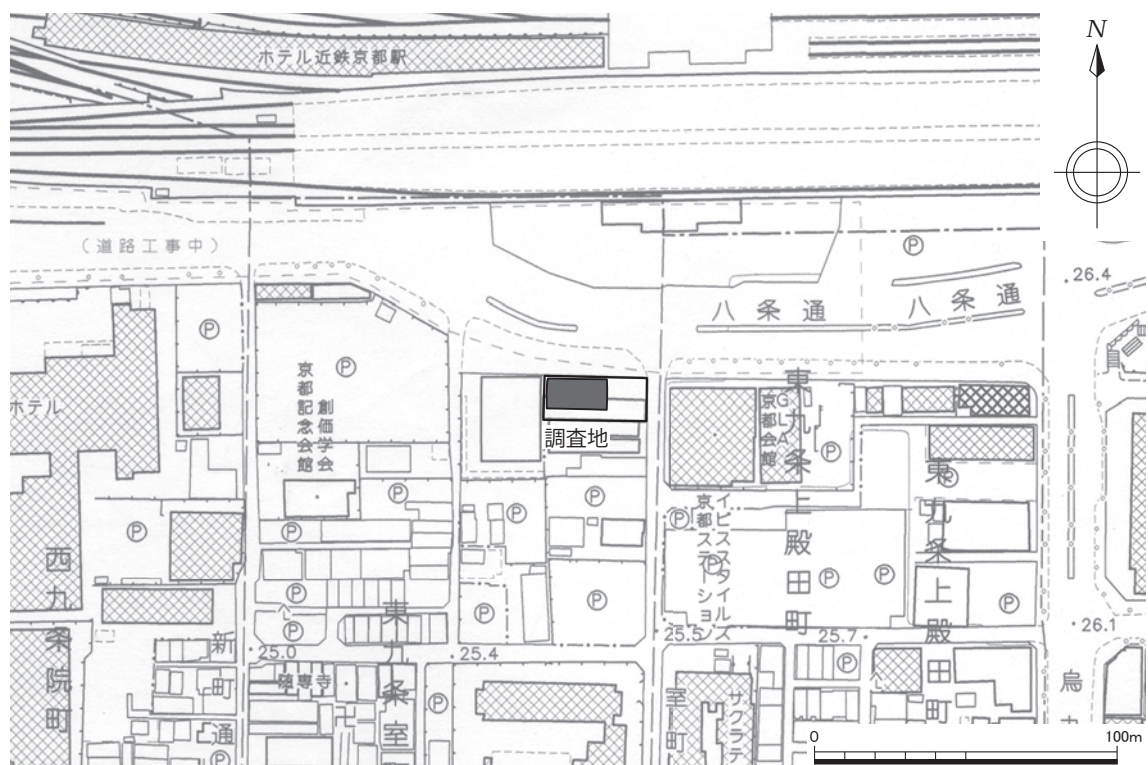


図1 調査位置図（1：2,500）

時代前半～中頃)、6・7層上面(平安～鎌倉時代前半)で行い、各面で写真撮影及び図面作成等を行った。下層確認の後、壁断面の記録作業を行い、8月14日に東区の調査を終了した。

8月14日より重機による反転作業を実施し、西区の調査を開始した。東区の調査において、鎌倉時代遺構面である5層が上下2層に細分でき(5a層、5b層)、各上面より遺構が切り込むことを確認したことから、西区では5b層上面での調査を追加し、4層、5a層、5b層、6・7層上面で調査を行った。7層上面での調査終了後に下層確認を行い、壁断面の記録作業を行った。

すべての記録作業終了後、9月10日より調査区の埋め戻しと資材等の搬出を開始した。全ての作業を終了した後、9月14日に事業者へ引き渡しを行い、発掘調査を終了した。

現地調査においては、各面の遺構検出時及び遺構完掘時に文化財保護課の検査を受け、本調査の外部検証委員である龍谷大学教授國下多美樹氏、同志社大学准教授浜中邦弘氏に現地で検証いただき、調査に対する適切な助言をいただいた。

### 測量基準点の設置と地区割

測量基準点は、VRS測量により調査地内に3点設置した。基準点測量の成果は、以下のとおりである。

K. 1      X = -112,701.173 m      Y = -22,084.169 m      H = 25.702 m

K. 2      X = -112,699.938 m      Y = -22,097.775 m      H = 25.697 m

K. 3      X = -112,700.725 m      Y = -22,106.916 m      H = 25.727 m

検出した遺構の管理や遺物取上の単位とするため、調査区に世界測地系に基づき3m四方のグリッドを設定した。Y軸にアラビア数字を西から東に、X軸にアルファベットを北から南に順に付し、数字とアルファベットの組み合わせで地区名を設定した。地区名は、3mグリッドの北西交点で設定した。

## 3 整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業及び報告書作成を行った。整理作業は、現地調査で記録した写真・図面の整理と出土遺物の整理を並行して行った。遺物の整理は、洗浄、接合、実測、トレース、写真撮影を行った後、報告書の執筆及び編集作業を行い、報告書を作成した。執筆は調査を担当した大西晃靖、編集作業は吉川絵里が担当し、その他整理業務は当社社員が分担して行った。遺物写真の撮影は、写真楠華堂(内田真紀子氏)に依頼した。



1. 調査前（南西から）



2. 重機掘削作業（西から）



3. 東区調査経過 1（南東から）



4. 東区調査経過 2（南東から）



5. 調査区反転作業（南西から）



6. 西区調査経過（北東から）



7. 埋め戻し作業（南西から）



8. 調査完了後（南西から）

図2 調査経過写真

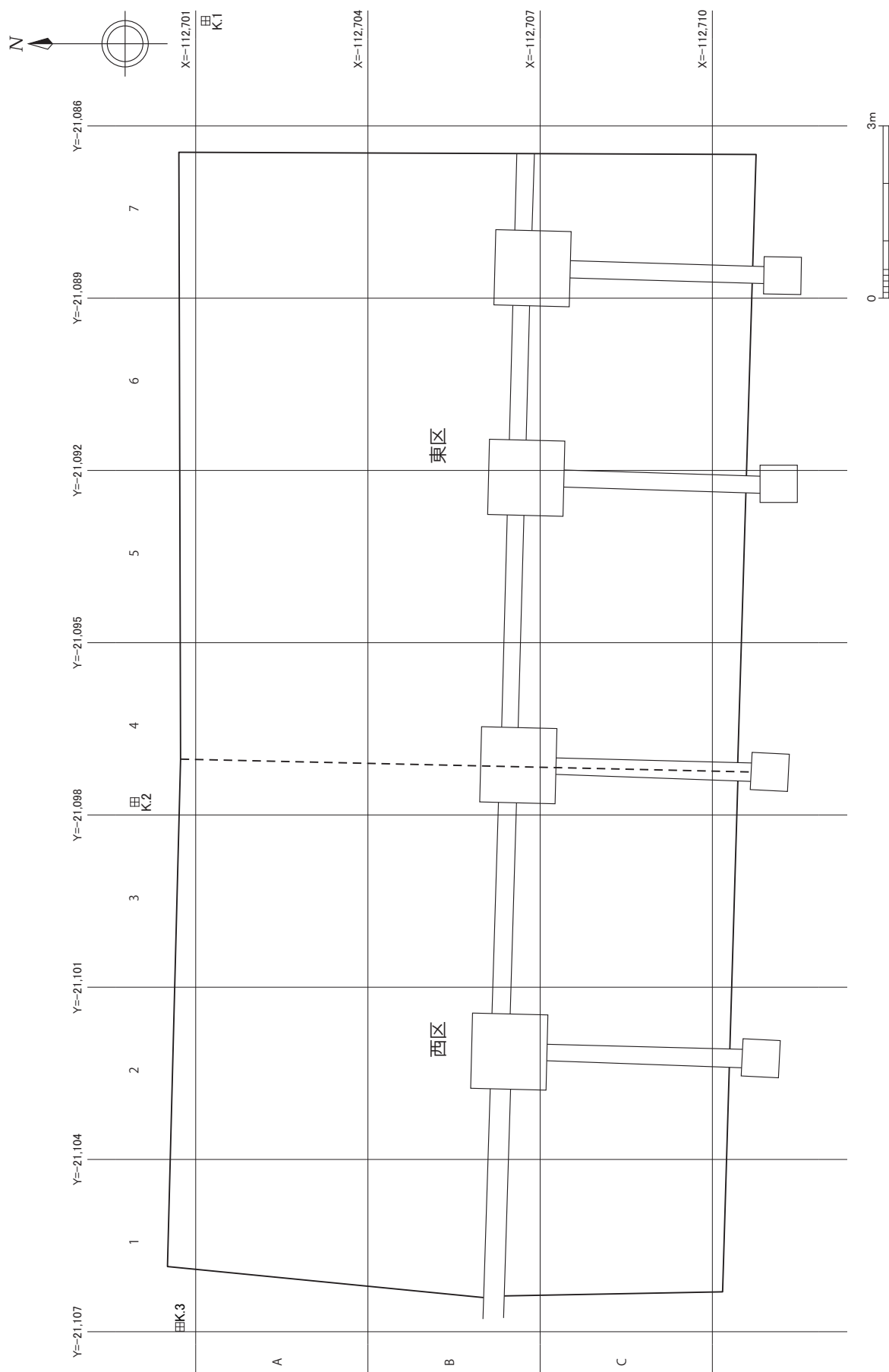


図3 調査区地区割・基準点配置図 (1 : 100)

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 1 位置と環境

調査地は八条室町交差点の南西角にあたる。調査地の基盤層は、北東から南西に張り出す鴨川扇状地の一部が削り込まれて谷となり、その谷に砂礫が堆積して形成された塩小路層と呼ばれる小規模な扇状地である。平安京遷都以前は、弥生時代から古墳時代の集落跡である烏丸町遺跡の中央北端部に位置する。

平安京遷都後は条坊が施工され、調査地は平安京左京九条三坊八町にあたり、八町の東部中央に位置する。町内の四行八門の西四行、北三・四門にあたる。

調査地の位置する九条三坊八町では平安時代～鎌倉時代にかけての文献史料は確認できないが、周辺では主に平安時代後期以降に宅地開発が進む状況が史料からみてとれる。以下に、史料にみられる調査地周辺の時代毎の様相を記述する。

#### 平安時代前～中期

九条三坊三町には施薬院が所在し（九条家本『延喜式』付図）、藤原冬嗣はみずからに与えられていた食封の一部を施薬院と勸学院に寄付し、その経営を助けていた（『続日本後紀』承和三年（836）五月二十六日条）。

平安時代中期には九条三坊六町に右大臣藤原師輔の「九条殿」が存在した（『拾芥抄』東京図）。

#### 平安時代後期

平安時代後期以降、調査地の周辺では宅地や邸宅の開発が本格的に進む。

八条三坊四町では関白藤原忠実により丈六の阿弥陀仏を安置した一間四面の堂が建立されている（『兵範記』仁安四年（1169）二月三日条）。

八条三坊五町では藤原顕隆が大治二年（1127）に「八条堂」を供養し、丈六の五大尊を安置している（『中右記』大治二年（1127）十一月二十四日条）。その後、この邸宅は平治年間（1156～1160）に美福門院藤原得子の御所として継承された（『百鍊抄』養和元年（1181）二月十七日条）。

八条三坊十三町は11世紀末に修理大夫藤原顕季の邸宅があり（『中右記』永長元年（1096）九月十八日条）、その後長男の中納言長実を引き継がれた後、先述した得子（長実の娘）の所領となる。

平安時代中期に「九条殿」が存在した九条三坊六町は、11世紀後半には藤原能長の所有となり、その娘で白河天皇女御である道子により御堂が建立され、そこに丈六の阿弥陀仏を安置している（『中右記』嘉承元年（1106）六月二十二日条）。

九条三坊十三・十四町は、11世紀後半に太政大臣藤原信長の邸宅である「九条亭」が存在した（『拾芥抄』東京図、九条家本『延喜式』付図）。この邸宅には丈六の仏像を安置した御堂が建立され、この御堂は「九条堂」と呼ばれていた。

その他、史料が無く詳細は不明であるが、九条三坊七町には「朴殿」とされる邸宅が存在している（『拾芥抄』東京図）。

## 平安時代末期～鎌倉時代

永暦元年（1160）に美福門院得子が亡くなった後は、遺領はその娘である八条院暲子内親王が引き継ぐこととなり、暲子内親王は御所が設けられた八条三坊十三町を中心として八条院領と呼ばれる広大な土地を所有した（『山槐記』文治元年（1185）八月十四日条、『拾芥抄』東京図、九条家本『延喜式』付図、『後高倉院庁下文案』（『鎌倉遺文』3095・3096号））。中核となる八条三坊十三町の暲子内親王の御所は、数回にわたって焼亡したことが史料に記されており、建暦元年（1211）に暲子内親王が亡くなった後は荒廃していったと伝えられる（『明月記』嘉禄元年（1225）十一月十一日条）。調査地東隣の九条三坊九町の北西隅の一戸主が、平安時代末～鎌倉時代にかけて八条院領となっている。周辺では八条三坊五町において権大納言平頼盛により「池殿」（『拾芥抄』東京図）もしくは「八条院室町亭」（『中右記』）と呼ばれた邸宅が新造されている。

鎌倉時代では、八条三坊十二町に左大臣藤原良輔の邸宅が存在した（『拾芥抄』東京図）。九条三坊十町は施薬院御蔵の敷地であったが、承久二年（1220）には分割されており、中央に辻子が開かれており、辻子の奥にある南北七丈五尺、東西十三丈五尺の土地は「うちのためまさ」という人物の私領であったという（『九条家文書』承久二年六月十八日付文書）。また、鎌倉時代後半の正和二年（1313）に八条三坊十三町など八条院領であった13箇所の院町が東寺に寄進されている（『鎌倉遺文』3095・25059・25060号）。

## 2 既往の調査（図4、表1）

調査地の周辺では多くの発掘調査及び試掘調査が行なわれ、多くの成果が上げられている。以下に、周辺での調査概要を時代毎に記述する。

### 平安京以前

基盤となる砂礫層や自然流路から縄文・弥生・古墳時代の遺物が出土する事例は多いが、遺構の検出事例は少ない。九条三坊九町で古墳時代の流路（調査15）、十五町で縄文時代の遺物を含む小窪み・弥生時代の流路（調査19）、十六町で飛鳥時代の井戸（調査21）が検出されている。

### 平安時代前～中期

平安時代前期では遺構数は未だ少なく、平安京遷都当初は宅地開発があまり進んでいないものと考えられる。宅地関連の遺構は、九条二坊十五・十六町で掘立柱建物（調査5）、十六町で池及び土坑（調査8）、九条三坊九町の調査では、掘立柱建物・柵・溝・井戸（調査15）などが検出されている。流路の検出事例も複数あり、九条二坊十三町（調査1）、八町（調査14）、九町（調査15）、十町（調査16）で平安時代前期の遺物を含む流路が検出されている。調査15で検出された流路は肩部が直線的であり、自然流路を整備して利用していたと想定されている。

### 平安時代後期

平安時代後期に入ると宅地や邸宅の開発が進むようになり、遺構数は増加する。条坊・区画関連の遺構は、九条二坊十三町で油小路東側溝（調査1）、十五町で北五・六門区画溝（調査4）、十六町で北四・五門区画溝（調査4）、西二・三行区画溝（調査5）、針小路両側溝（調査5）、九

条三坊二町で針小路路面・南側溝（調査11）、十三町で烏丸小路路面・東側溝（調査17・18）、十四町で烏丸小路路面・東側溝（調査19）、九条四坊三町で南北築地・内側溝・東洞院大路東側溝（調査24）がある。宅地関連遺構は、九条二坊十五・十六町で溝・柵・柱穴・土坑（調査4）、井戸・柱穴・土坑（調査6）、九条三坊一町で地業（調査10）、二町で園池・掘込・ピット（調査11）、十三町で溝・整地層（調査18）、十六町で建物・柵・溝・井戸（調査21）、八条三坊四・五町で建物・柱列・溝・井戸・土坑・池・泉（調査25）がある。また、九条二坊十三町では湿地が検出されている（調査2）。

#### 平安時代末期～鎌倉時代

前時代から遺構数はさらに増加する。条坊・区画関連の遺構は、九条二坊十五・十六町で針小路に伴う溝（調査6）、九条三坊八町で針小路路面及び北側溝（調査14）、十五町で烏丸小路東側溝・九条坊門小路北側溝（調査20）、八条三坊四・五町で町尻小路路面・東西両側溝（調査25）、八条四坊四町で東洞院大路路面・東側溝・東築地内溝、八条大路北側溝（調査26）がある。

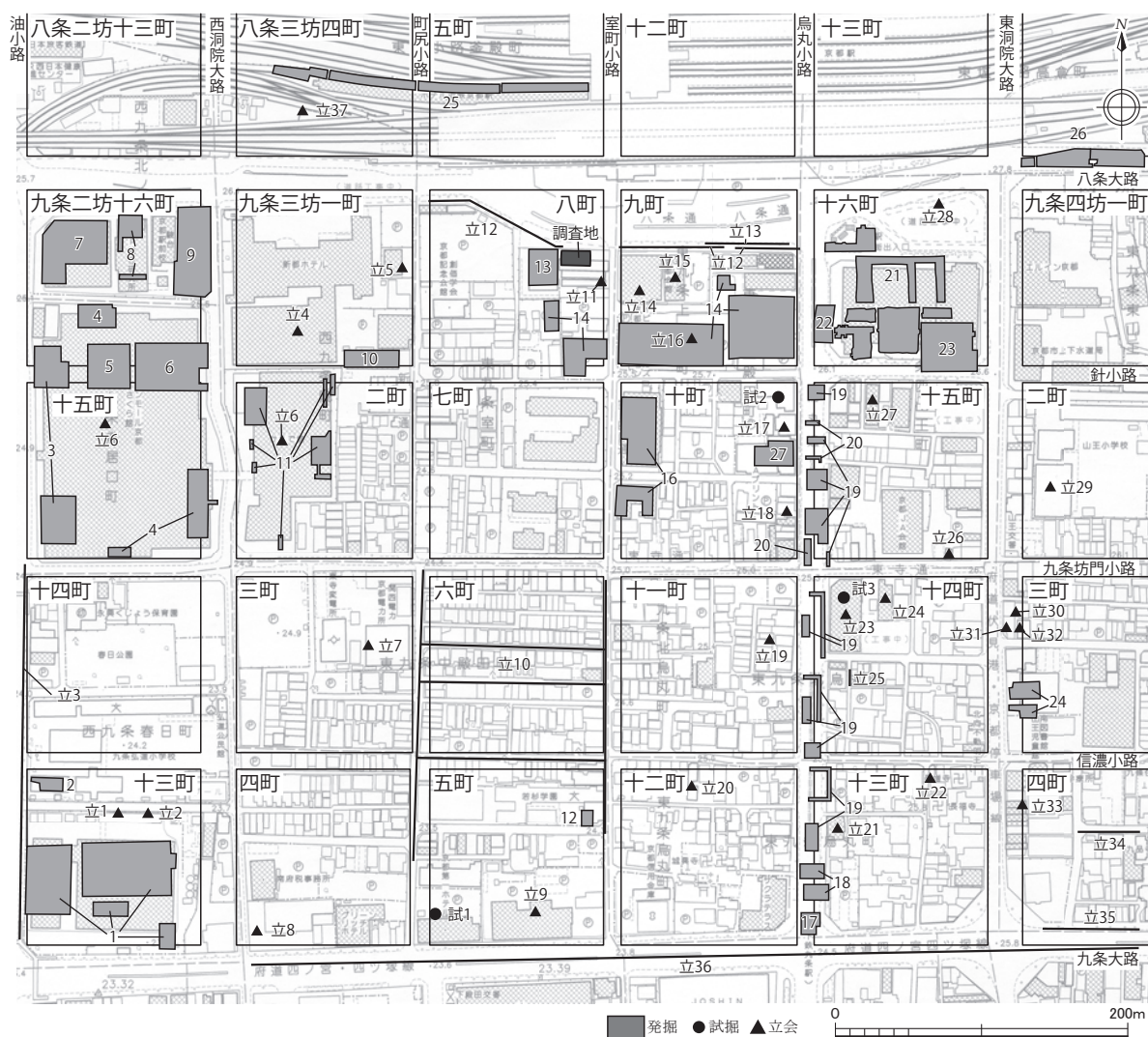


図4 既往調査位置図（1：5,000）

宅地関連の遺構は、九条二坊十六町で地業・建物・井戸・土坑（調査7）、井戸・溝・溝状遺構・土坑・石積の小園池（調査8）、井戸・土坑・池状遺構（調査9）、九条三坊一町で土器溜・柱穴・井戸・土坑・甕蔵（調査10）、二町で柱穴・井戸・土坑（調査11）、八町で建物・柵・溝・杭列・井戸・土坑・池（調査13）、掘立柱建物・礎石建物・柵・地業・井戸・土坑（調査14）、九町で建物・溝・井戸・土坑・池（調査15）、十町で建物・柵・柱穴・集石・土坑・整地層（調査16）、十三町で井戸（調査18）、柱穴・溝・井戸・土坑（調査19）、十六町で建物・柵・溝・井戸（調査21）、九条四坊三町で井戸（調査24）、八条三坊四・五町で建物・柱列・地業・井戸・土坑（調査25）、八条四坊四町で柱穴・井戸・土坑（調査26）がある。調査7・14・15では仏堂の可能性のある建物、調査8・9・13・15では池が検出されるなど、比較的規模の大きな邸宅が存在した可能性が考えられる。また、調査15では、平安時代末の遺構群や整地層からガラス製水滴・高級品を含む輸入陶磁器などとともに播磨産を中心とした搬入供膳具が出土し、輸入陶磁器の組成や搬入供膳具から、播磨ないし河尻地区から運び込まれる物資の集散地が想定されている。

### 室町時代

室町時代に入ると宅地関連の遺構は減少し、耕作溝などがみられるようになり、調査地周辺が耕地化していく状況が確認できる。宅地関連の遺構は九条二坊十五町で井戸・柱穴（調査4・5・6）、十町で建物・井戸（調査27）、十六町で建物（調査21）、井戸（調査22・23）、九条四坊三町で井戸（調査24）、八条三坊四・五町で柱穴・井戸・土坑（調査25）、八条四坊四町で柱穴・井戸・土坑（調査26）がある。耕作関連遺構は九条二坊十三町（調査2）、九条三坊二町（調査11）、八町（調査13・14）、九町（調査15）、十町（調査16・27）、十三町（調査19）、十五町（調査20）、十六町（調査21）、八条三坊四・五町（調査25）で耕作溝などを検出している。その他、調査17～19で城興寺に関すると考えられる濠が検出されている。

### 参考・引用文献

下中邦彦「京都市の地名」『日本歴史地名体系第二七巻』 平凡社 1979年

横山卓夫「京都盆地の自然環境」『平安京提要』 角川書店 1994年

山田邦和「左京全町の概要」『平安京提要』 角川書店 1994年

表1 既往調査一覧

|    | 調査位置         | 調査法 | 調査成果概要                                                                                                                                            | 掲載文献                                                       |
|----|--------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1  | 左京九条二坊十三町    | 発掘  | 平安時代の油小路東側溝、安土桃山時代の御土居の堀の検出。<br>平安時代前～中期の池状遺構、鎌倉時代の建物・井戸・土坑・溝の検出。<br>平安時代前～中期の流路の検出。                                                              | 「平安京左京九条二坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1987年                  |
| 2  | 左京九条二坊十三町    | 発掘  | 安土桃山時代の御土居の堀の検出。<br>平安時代後期の湿地、室町時代以降の耕作溝の検出。                                                                                                      | 「平安京左京九条二坊十三町」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2011年               |
| 3  | 左京九条二坊十五・十六町 | 発掘  | 安土桃山時代の御土居の堀の検出。<br>地山の砂礫層から弥生・古墳時代の土器の出土、近世末以降の耕作溝の検出。                                                                                           | 「平安京左京九条二坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1995年                   |
| 4  | 左京九条二坊十五・十六町 | 発掘  | 平安時代後期の十五町北五・六門、十六町北四・五門区画溝の検出。<br>平安時代後期の溝・柵・柱穴・土坑、鎌倉～室町時代の井戸・柱穴の検出。<br>地山の砂礫層から弥生・古墳時代の土器の出土、近世末以降の耕作溝・暗渠の検出。                                   | 「平安京左京九条二坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年                   |
| 5  | 左京九条二坊十五・十六町 | 発掘  | 平安時代後期の十六町西二・三行の区画溝、針小路両側溝の検出。<br>平安時代前期の掘立柱建物、鎌倉～室町時代の井戸・柱穴の検出。                                                                                  | 「平安京左京九条二坊1」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1995年                  |
| 6  | 左京九条二坊十五・十六町 | 発掘  | 平安時代後期～鎌倉時代の針小路に伴う溝の検出。<br>平安時代後期～鎌倉時代の井戸・柱穴・土坑の検出。<br>地山の砂礫層から弥生・古墳時代の土器の出土、近世末以降の耕作溝・暗渠の検出。                                                     | 「平安京左京九条二坊」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1996年                   |
| 7  | 左京九条二坊十六町    | 発掘  | 御土居の堀の検出。<br>平安時代末～鎌倉時代前期の地業・建物・井戸・土坑、鎌倉時代中～後半の地業・柱穴列・井戸・土坑の検出。<br>平安時代前期の流路、桃山時代以降の耕作溝の検出。                                                       | 「平安京左京九条二坊十六町跡・御土居跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-9 埋文研 2015年      |
| 8  | 左京九条二坊十六町    | 発掘  | 平安時代前期の池・土坑、平安時代末～鎌倉時代の柱穴・井戸・溝・溝状遺構・土坑・石積の小園池の検出。<br>平安時代前期の落ち込み・湿地の検出、鎌倉時代末以降に耕地化。                                                               | 「平安京左京九条二坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2000年                  |
| 9  | 左京九条二坊十六町    | 発掘  | 平安時代後期～鎌倉時代、室町時代の柱穴・井戸・土坑・池状遺構の検出。<br>地山の砂礫層から弥生・古墳時代の土器の出土、近世の耕作溝の検出。                                                                            | 「平安京左京九条二坊2」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1995年                  |
| 10 | 左京九条三坊一町     | 発掘  | 平安時代後期の地業、平安時代末～鎌倉時代の土器溜・柱穴・井戸・土坑・甕蔵の検出。<br>古墳時代の遺物を含む流路の検出。                                                                                      | 「平安京左京九条三坊一町跡」『平安京左京内5遺跡 平安京跡研究調査報告第22輯』財団法人 古代学協会 京都2008年 |
| 11 | 左京九条三坊二町     | 発掘  | 平安時代後期の針小路路面・南側溝の検出。<br>平安時代後期の園池・掘込・ピット、鎌倉時代の柱穴・井戸・土坑の検出。<br>自然流路・砂礫層より弥生～古墳時代の遺物出土、室町時代以降に耕地化。                                                  | 「平安京左京九条三坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1999年                   |
| 12 | 左京九条三坊五町     | 発掘  | 時期不明の落ち込み、近世以降の耕作溝の検出。                                                                                                                            | 「平安京左京九条三坊五町」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2012年                |
| 13 | 左京九条三坊八町     | 発掘  | 平安時代末～鎌倉時代の建物・柵・溝・杭列・井戸・土坑・池の検出。<br>室町時代以降の耕作溝・井戸・ピット・土坑の検出。                                                                                      | 「平安京左京九条三坊八町・烏丸町遺跡 室町の調査」古代文化調査会 2018年                     |
| 14 | 左京九条三坊八町     | 発掘  | 鎌倉時代前半の針小路路面・北側溝の検出。<br>鎌倉時代前半の掘立柱建物・柵・地業・井戸・土坑の検出。<br>鎌倉時代後半以降の耕作溝の検出。                                                                           | 「平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-8 埋文研 2018年      |
| 15 | 左京九条三坊九町     | 発掘  | 平安時代前期の建物・柵・井戸・溝、平安時代末～鎌倉時代の建物・溝・井戸・土坑・池、鎌倉時代後半の井戸・土坑・池の検出。<br>東播磨系・瀬戸内系・輸入陶磁器などの搬入遺物やガラス製水滴が出土、12世紀後半の中国製の可能性がある銅合金製指輪が出土、古墳時代の流路の検出、室町時代以降に耕地化。 | 「平安京左京九条三坊九町跡・烏丸町遺跡」公益財団法人元興寺文化財研究所 2019年                  |

|     | 調査位置         | 調査法 | 調査成果概要                                                                                                                                     | 掲載文献                                                           |
|-----|--------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 16  | 左京九条三坊十町     | 発掘  | 平安時代前～中期の池・泉、平安時代中～後期の柱穴・池・土坑、平安時代末～鎌倉時代の中頃の建物・柵・柱穴・集石・土坑・整地層の検出。<br>後世の包含層より弥生・古墳時代の土器出土、平安時代前～中期の流路、室町時代以降の耕作溝の検出。                       | 『平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-15 埋文研 2015 年       |
| 17  | 左京九条三坊十三町    | 発掘  | 平安時代後期の烏丸小路路面・東側溝、室町時代後半の濠（城興寺関連か）の検出。<br>近世のピット・柱穴の検出。                                                                                    | 「九条三坊（2）」『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1985 年                     |
| 18  | 左京九条三坊十三町    | 発掘  | 平安時代後期の烏丸小路路面・東側溝、室町時代後半の濠（城興寺関連か）の検出。<br>平安時代後期の溝・整地層、鎌倉時代の井戸の検出。<br>平安時代前期の窪地の検出。                                                        | 「九条三坊（1）」『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1985 年                     |
| 19  | 左京九条三坊十三～十五町 | 発掘  | 平安時代後期の烏丸小路路面・東側溝、室町時代後半の濠（城興寺関連か）の検出。<br>平安時代前期の小井戸、平安時代中期の柱穴・溝・土坑、平安時代後期～鎌倉時代前半の柱穴・溝・井戸・土坑の検出。<br>縄文土器を含む地山砂礫層上面の窪み、弥生時代の溝の検出、室町時代以降耕地化。 | 「平安京左京九条三坊」『昭和 59 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1987 年                   |
| 20  | 左京九条三坊十五町    | 発掘  | 平安時代後期～鎌倉時代前半の烏丸小路東側溝・九条坊門小路北側溝の検出。<br>平安時代前期の溝・井戸・土坑、鎌倉時代のピット・土坑の検出。<br>室町時代以降耕地化。                                                        | 「平安京左京九条三坊」『昭和 60 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1988 年                   |
| 21  | 左京九条三坊十六町    | 発掘  | 平安時代後期～鎌倉時代の建物・柵・溝・井戸の検出。<br>室町時代以降耕地化。                                                                                                    | 『平安京左京九条三坊跡 京都駅南口第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 昭和 54 年度』埋文研 1980 年 |
| 22  | 左京九条三坊十六町    | 発掘  | 平安時代後期～室町時代前半の柵・柱穴・井戸・土坑の検出。                                                                                                               | 「左京九条三坊」『昭和 56 年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』埋文研 1982 年               |
| 23  | 左京九条三坊十六町    | 発掘  | 平安時代後期～室町時代の柱穴・溝・井戸・土坑の検出。<br>地山の砂礫層から縄文土器が出土、遺構下層で北西から南東方向に流れる旧河川跡の検出。                                                                    | 『平安京左京九条三坊跡 京都駅南口第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 昭和 55 年度』埋文研 1981 年 |
| 24  | 左京九条四坊三町     | 発掘  | 平安時代後期の南北築地・内側溝・東洞院大路東側溝の検出。<br>東洞院大路路面上で平安時代後期の井戸、平安時代末～鎌倉時代初頭の井戸、室町時代の井戸の検出。                                                             | 「平安京左京九条四坊三町」『昭和 53 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2011 年                 |
| 25  | 左京八条三坊四・五町   | 発掘  | 平安時代後期～室町時代前半の町尻小路路面・東西側溝の検出。<br>平安時代後期の建物・柱列・溝・井戸・土坑・池・泉、鎌倉時代の建物・柱列・地業・井戸・土坑、室町時代の柱穴・井戸・土坑の検出。<br>平安時代後期の湿地、室町時代以降耕地化。                    | 「平安京左京八条三坊四・五町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-7 埋文研 2009 年            |
| 26  | 左京八条四坊四町     | 発掘  | 平安時代末～鎌倉時代の東洞院大路路面・東側溝・東築地内溝、八条大路北側溝の検出。<br>A 区で平安時代末～鎌倉時代の柱穴・井戸・土坑及び室町時代の柱穴・井戸・土坑を検出江戸時代の耕作土を検出。                                          | 「平安京左京八条四坊四・五町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-20 埋文研 2007 年           |
| 27  | 左京九条三坊十町     | 発掘  | 平安時代前～中期の建物・池・溝・土坑、鎌倉～室町時代の建物・堀・井戸・溝・土坑検出。<br>室町時代遺構耕地化。                                                                                   | 『平安京左京九条三坊十町』古代文化調査会 2006 年                                    |
| 試 1 | 左京九条三坊五町     | 試掘  | 平安時代の遺物を含む流れ堆積を検出。                                                                                                                         | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成 2 年度』文化観光局 1991 年                           |
| 試 2 | 左京九条三坊十町     | 試掘  | 室町時代前半の柱穴・南北溝・土墳墓・土坑の検出。                                                                                                                   | 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成 11 年度』文化市民局 2000 年                            |
| 試 3 | 左京九条三坊十四町    | 試掘  | 鎌倉時代の湿地状堆積の検出。                                                                                                                             | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 59 年度』文化観光局 1985 年                          |

|      | 調査位置            | 調査法 | 調査成果概要                                  | 掲載文献                                               |
|------|-----------------|-----|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 立 1  | 左京九条二坊十三町       | 立会  | 平安時代末～鎌倉時代初頭の土坑、鎌倉時代前半の遺物包含層、中世の落込みの検出。 | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 10 年度』文化市民局 1999 年                |
| 立 2  | 左京九条二坊十三町       | 立会  | 鎌倉時代の南北溝・落込み・遺物包含層の検出。                  | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 12 年度』文化市民局 2001 年                |
| 立 3  | 左京九条二坊十三・十四町油小路 | 立会  | 平安時代末～鎌倉時代の遺物包含層、油小路西側溝？の検出。            | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 14 年度』文化市民局 2003 年                |
| 立 4  | 左京九条三坊一町        | 立会  | 鎌倉時代中頃の包含層の検出。                          | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 15 年度』文化市民局 2004 年                |
| 立 5  | 左京九条三坊一町        | 立会  | 鎌倉時代後半の包含層の検出。                          | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 17 年度』文化市民局 2006 年                |
| 立 6  | 左京九条二坊十五町・三坊二町  | 立会  | 中世の遺物包含層、御土居の一部を検出。                     | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 14 年度』文化市民局 2003 年                |
| 立 7  | 左京九条三坊三町        | 立会  | 古墳時代の遺物を含む流れ堆積を検出。                      | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 60 年度』文化観光局 1986 年              |
| 立 8  | 左京九条三坊四町        | 立会  | 室町時代の遺物包含層、時期不明の流れ堆積を検出。                | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 61 年度』文化観光局 1987 年              |
| 立 9  | 左京九条三坊五町        | 立会  | 室町時代の東西溝を検出。                            | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 63 年度』文化観光局 1989 年              |
| 立 10 | 左京九条三坊六町        | 立会  | 平安時代末～室町時代の水田跡・水路・南北溝を検出。               | 『左京九条三坊』『昭和 56 年度 京都市埋蔵文化財調査概要（試掘・立会調査編）埋文研 1983 年 |
| 立 11 | 左京九条三坊八町        | 立会  | 鎌倉・室町時代の遺物包含層の検出。                       | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 6 年度年度』文化観光局 1995 年               |
| 立 12 | 左京九条三坊八・九町      | 立会  | 鎌倉・江戸時代の遺物包含層・落込み・路面を検出。                | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 6 年度年度』文化観光局 1995 年               |
| 立 13 | 左京九条三坊九町        | 立会  | 平安時代後期～末の落込み、鎌倉～江戸時代の遺物包含層を検出。          | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 6 年度年度』文化観光局 1995 年               |
| 立 14 | 左京九条三坊九町        | 立会  | 平安時代の土坑を検出。                             | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成 2 年度年度』文化観光局 1991 年             |
| 立 15 | 左京九条三坊九町        | 立会  | 鎌倉時代末・室町時代初頭の遺物包含層を検出。                  | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 14 年度』文化市民局 2003 年                |
| 立 16 | 左京九条三坊九町        | 立会  | 鎌倉時代前半、室町時代前・中・後半の遺物包含層を検出。             | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 12 年度』文化市民局 2001 年                |
| 立 17 | 左京九条三坊九町        | 立会  | 平安時代中期の遺物包含層、鎌倉時代前半～後半の遺物包含層を検出。        | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 16 年度』文化市民局 2005 年                |
| 立 18 | 左京九条三坊十町        | 立会  | 鎌倉時代の土坑を検出。                             | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 60 年度』文化観光局 1986 年              |
| 立 19 | 左京九条三坊十町        | 立会  | 鎌倉時代の包含層を検出。                            | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 60 年度』文化観光局 1986 年              |
| 立 20 | 左京九条三坊十二町       | 立会  | 平安時代後期の落込み・遺物包含層、室町・江戸時代の遺物包含層を検出。      | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 9 年度』文化市民局 1998 年                 |
| 立 21 | 左京九条三坊十三町       | 立会  | 平安後期～鎌倉時代の落込み・遺物包含層の検出。                 | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 8 年度』文化市民局 1997 年                 |

|      | 調査位置          | 調査法 | 調査成果概要                                         | 掲載文献                                                 |
|------|---------------|-----|------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 立 22 | 左京九条三坊十四町     | 立会  | 平安～室町時代の遺物包含層・土坑の検出、弥生土器出土。                    | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 57 年度』文化観光局 1983 年                |
| 立 23 | 左京九条三坊十四町     | 立会  | 平安後期の湿地状堆積の検出。                                 | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 22 年度』文化市民局 2011 年                  |
| 立 24 | 左京九条三坊十四町     | 立会  | 鎌倉～室町時代の遺物包含層を検出。                              | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 7 年度』文化市民局 1996 年                   |
| 立 25 | 左京九条三坊十四町     | 立会  | 室町時代の遺物包含層、時期不明の土坑を検出。                         | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 62 年度』文化観光局 1988 年                |
| 立 26 | 左京九条三坊十五町     | 立会  | 平安時代末の遺物包含層の検出。                                | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 56 年度』文化観光局 1982 年                |
| 立 27 | 左京九条三坊十五町     | 立会  | 平安時代後期～鎌倉時代の土坑、鎌倉時代の落込み、時期不明の柱穴を検出。            | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 12 年度』文化市民局 2001 年                  |
| 立 28 | 左京九条三坊十六町     | 立会  | 平安～室町時代の遺物包含層を検出。                              | 『平安京左京八条大路跡 八条通地下横断歩道建設に伴う立会調査概報 昭和 55 年度』埋文研 1981 年 |
| 立 29 | 左京九条四坊二町      | 立会  | 室町時代の遺物包含層を検出。                                 | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 61 年度』文化観光局 1987 年                |
| 立 30 | 東洞院大路         | 立会  | 中世の遺物包含層を検出。                                   | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 17 年度』文化市民局 2006 年                  |
| 立 31 | 東洞院大路         | 立会  | 中世の遺物包含層を検出。                                   | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 20 年度』文化市民局 2009 年                  |
| 立 32 | 東洞院大路         | 立会  | 平安時代後期の土坑、室町時代前半の遺物包含層を検出。<br>下層は湿地状堆積。        | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 9 年度』文化市民局 1998 年                   |
| 立 33 | 左京九条四坊四町東洞院大路 | 立会  | 鎌倉時代の遺物包含層を検出。                                 | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 13 年度』文化市民局 2002 年                  |
| 立 34 | 左京九条四坊四町      | 立会  | 平安時代後期の落込みを検出。                                 | 『京都市内立会調査概報 平成 23 年度』文化市民局 2012 年                    |
| 立 35 | 左京九条四坊四町九条大路  | 立会  | 弥生～古墳時代・平安時代後期の遺物包含層、鎌倉時代後半～室町時代の遺物包含層・落込みを検出。 | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 10 年度』文化市民局 1999 年                  |
| 立 36 | 九条大路          | 立会  | 弥生時代の遺物包含層、室町時代の井戸・土坑、近世の九条大路側溝を検出。            | 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 60 年度』文化観光局 1986 年                |
| 立 37 | 左京八条三坊四町      | 立会  | 中世の遺物包含層を検出。                                   | 『京都市内遺跡立会調査概報 平成 20 年度』文化市民局 2009 年                  |

埋文研→公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、文化市民局→京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課、文化観光局→京都市文化観光局文化部文化財保護課

### 第Ⅲ章 調査成果

#### 1 基本層序（図5～8）

基本層序は現代整地土も含め、上位から7層に区分した。

- 1層 碎石・煉瓦片・コンクリート片などを含むにぶい黄褐色砂泥による現代整地層である。層厚0.5～0.9 mで調査区全域に分布する。
- 2層 灰黄褐色砂泥による近代整地層である。層厚0.3～0.4 mで調査区全域に分布する。
- 3層 暗褐色泥砂による近代整地層である。層厚0.2 m前後で調査区全域に分布する。
- 4層 黄灰色泥砂による室町時代以降の耕作土層である。層厚0.2～0.3 mで調査区全域に分布する。今回の調査は4層上面から実施した。4層上面では、室町時代～明治時代初頭の耕作溝などを検出した。
- 5層 5層は上下2層に細分され、上位を5 a層、下位を5 b層とした。東区では5 a層上面の調査後に6層上面まで掘り下げたが、調査区壁面及びセクションの土層観察により5 b層上面から切り込む遺構が確認されたため、西区では5 b層上面でも調査を実施した。5 a層は黒褐色泥砂による整地層である。層厚0.1～0.15 mで、調査区全域に分布する。主に鎌倉時代前半の遺物を包含する。5 b層は黒褐色砂泥による整地層である。層厚0.15～0.2 mで、調査区全域に分布する。5 a層と同様に主に鎌倉時代前半の遺物を包含する。5 a層上面では鎌倉時代前半～中頃、5 b層では鎌倉時代前半の遺構を検出した。
- 6層 暗灰黄色泥砂による整地土である。層厚0.1～0.15 mで、調査区中央～東部に分布する。遺物の出土はわずかで、何れも細片のため時期の特定は難しい。6層上面では、鎌倉時代前半の遺構を検出した。
- 7層 褐色砂礫による地山層である。旧堀川の河川堆積層と考えられる。

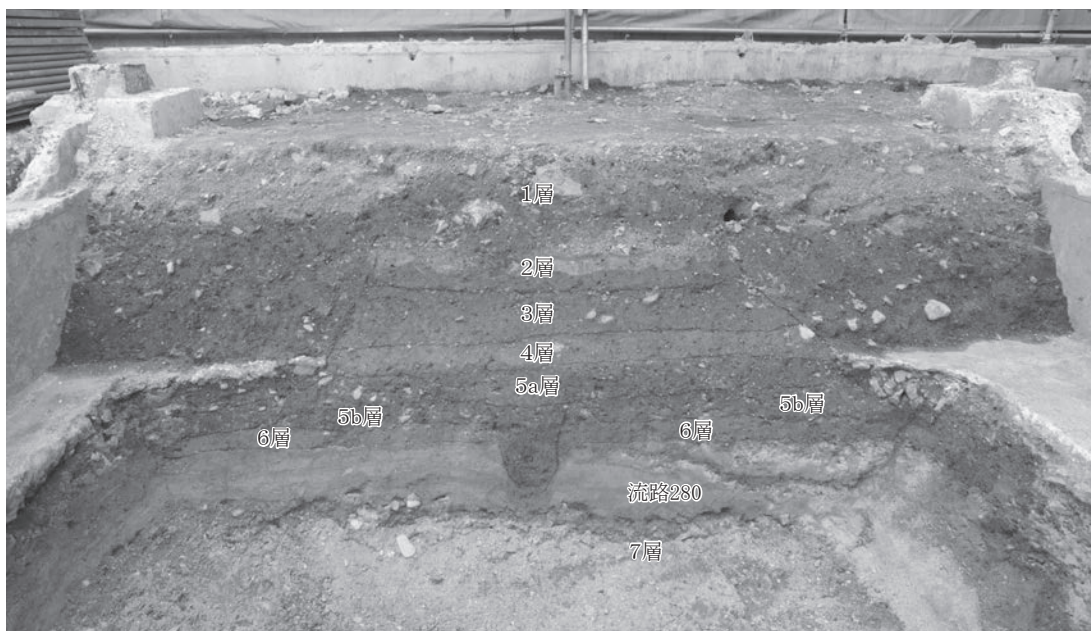


図5 3C区南壁断面写真（北から）

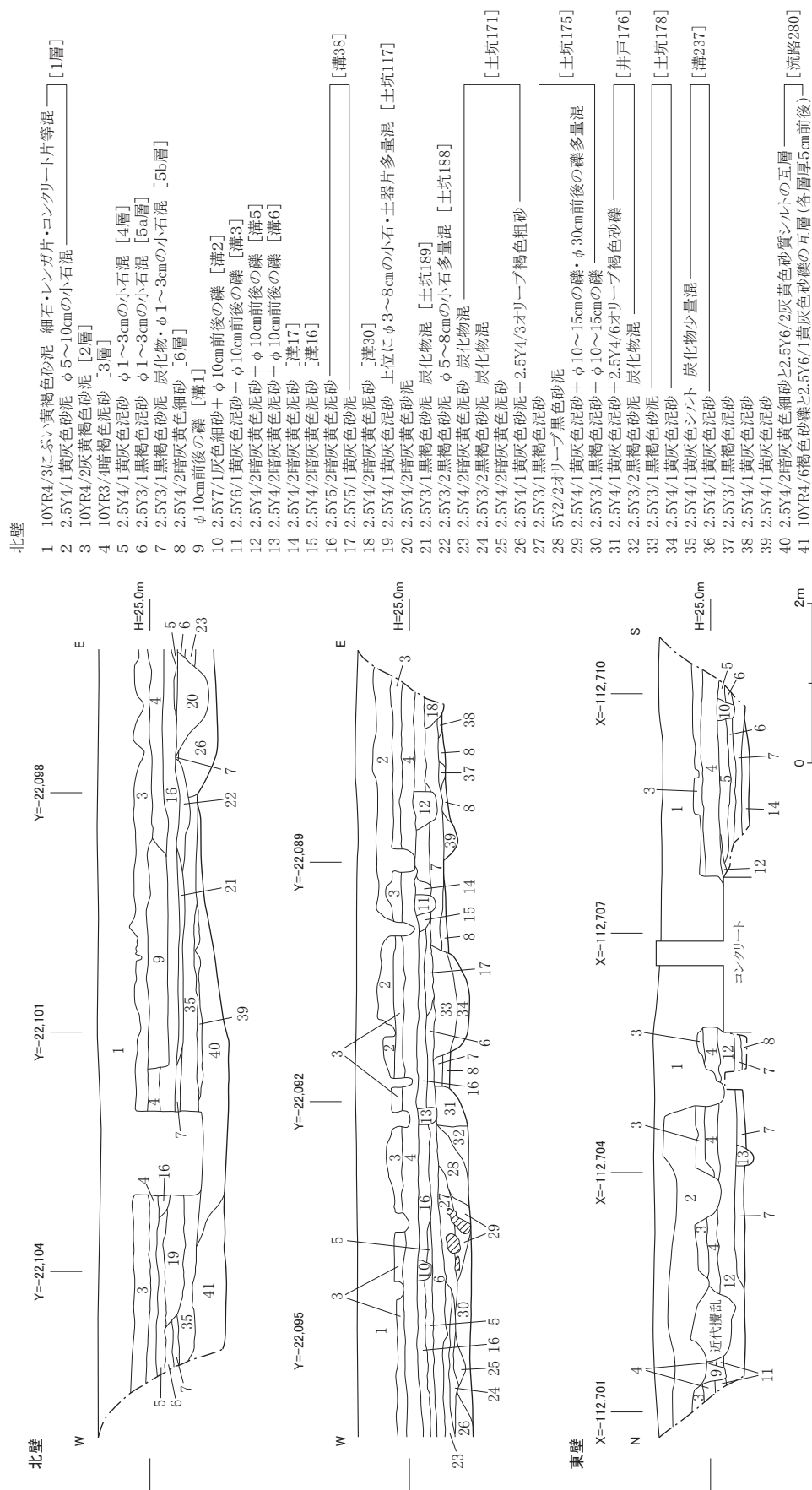


図6 調査区北・東壁断面図 (1 : 80)

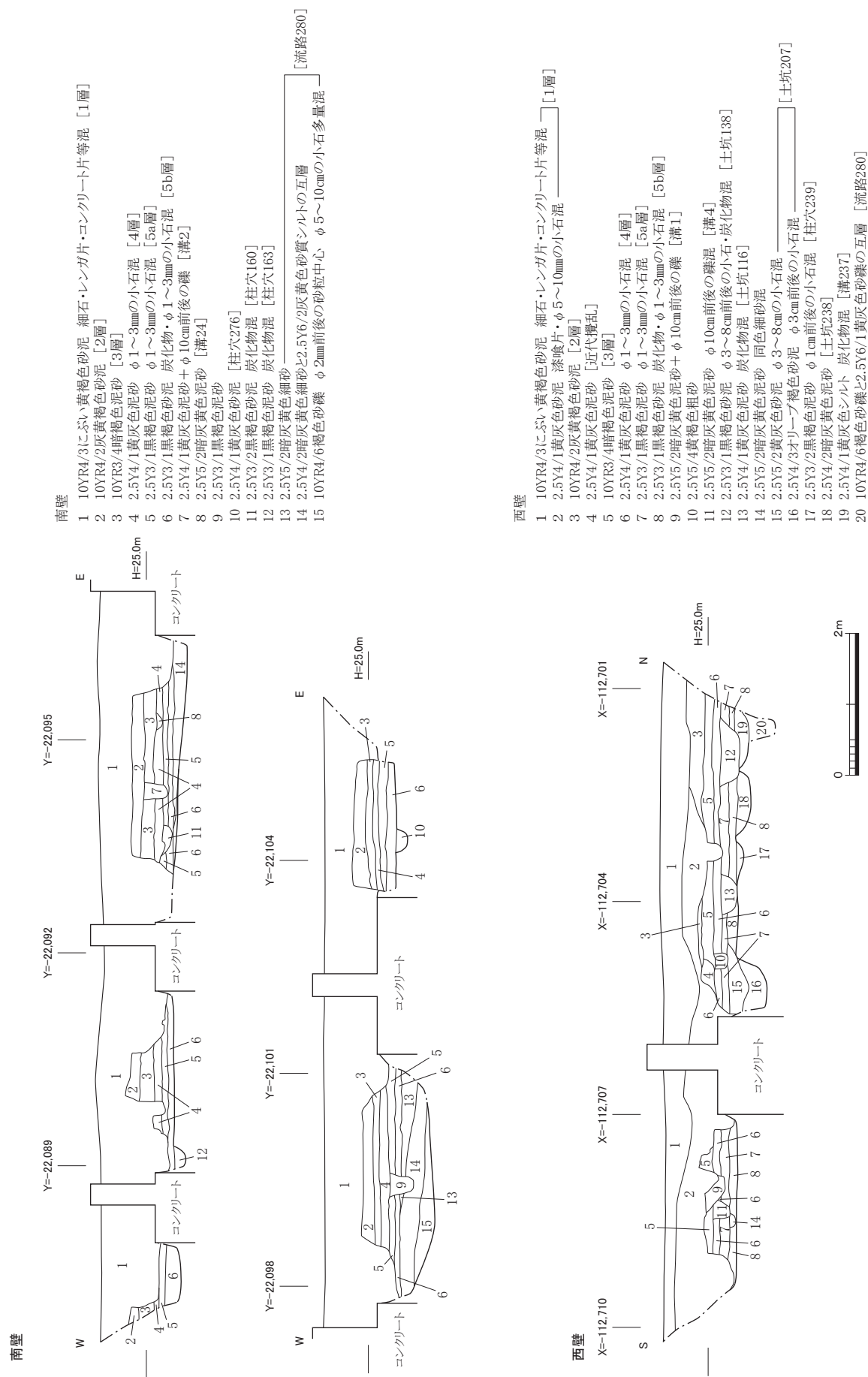


図7 調査区南・西壁断面図 (1 : 80)

## 2 検出遺構

今回の調査では、4層上面（第1面）、5a層上面（第2-1面）、5b層上面（第2-2面）、6・7層上面（第3面）で遺構を検出した。第3面では、6・7層上面で鎌倉時代前半の遺構を調査した後、部分的に堆積する6層を除去した後に平安時代の流路の全容を検出した。

以下、各面での検出遺構について記述する。

### （1）第1面（4層上面 図版1）

室町時代～明治時代初頭に属する遺構を検出した。いずれも耕作に関するものと考えられる。

#### 暗渠

溝1～6は、幕末～明治時代初頭の遺物を含む暗渠溝である。主に拳大の礫により埋め戻される。

#### 素掘り溝

溝7～33・35～37・115・136は東西もしくは南北方向に延びる耕作溝である。幅0.2～0.3m、検出面からの深さ0.05～0.15mを測る。埋土は暗灰黄色泥砂である。

#### 溝34

3A～3C区で検出した南北溝である。幅0.96mで調査区を南北方向に縦断する。検出面からの深さは0.15mを測り、底面は平坦である。埋土は暗灰黄色泥砂である。遺物は小片が多く詳細な時期は不明であるが、室町時代の所産と考えられる土師器、焼締陶器、瓦質土器、瓦が出土した。

### （2）第2面（5a層・5b層上面 図版2・3）

第2面では鎌倉時代前半～中頃の遺構を検出した。東区の調査では、5a層上面の調査後に6・7層上面まで掘り下げたが、断面観察により5a層と6・7層の間に5b層が堆積することを確認し、5b層上面から遺構が切り込むこと状況がみられたことから、西区では5b層上面での調査も実施した。

#### a 第2-1面（5a層上面 図版2）

5a層上面では、鎌倉時代前半～中頃の柱列、土坑、集石を検出した。

〔柱列〕

#### 柱列140（図9）

3C・4C区で検出した柱列である。柱穴129・130・131からなり、柱間は1.2mである。柱穴129・131は埋土に3～10cm大の礫を多く含む。礎石建物の根固めの可能性を考えたが、他の柱穴

表2 遺構概要表

| 時代        | 遺構                                                                                                                        | 備考 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 平安時代      | 流路179・280                                                                                                                 |    |
| 鎌倉時代      | 柵285・286・287・288、柱列140・溝205・237・247・270、井戸151・152・176・200、集石107・108、土坑101・102・103・104・171・175・178・188・189・190・191・199・269 |    |
| 室町時代～明治時代 | 耕作溝、暗渠                                                                                                                    |    |

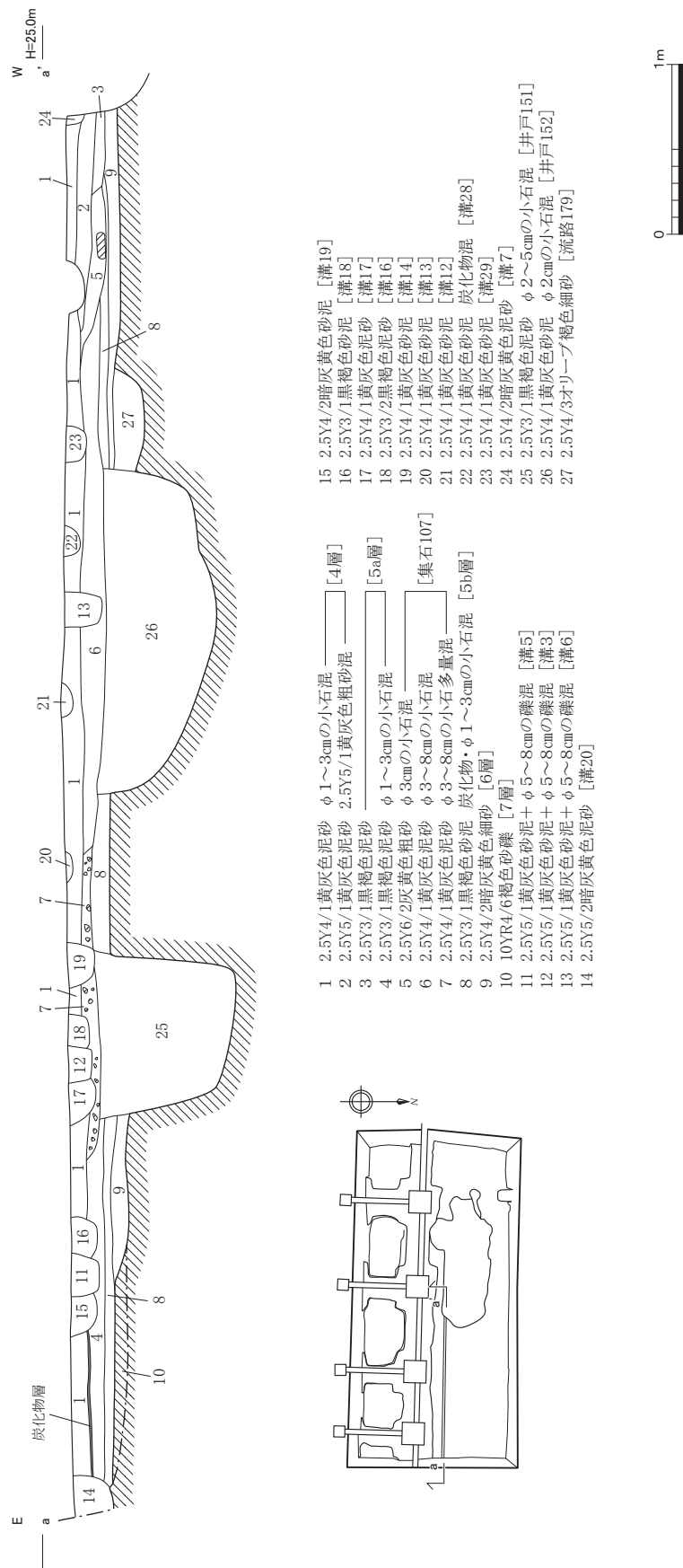
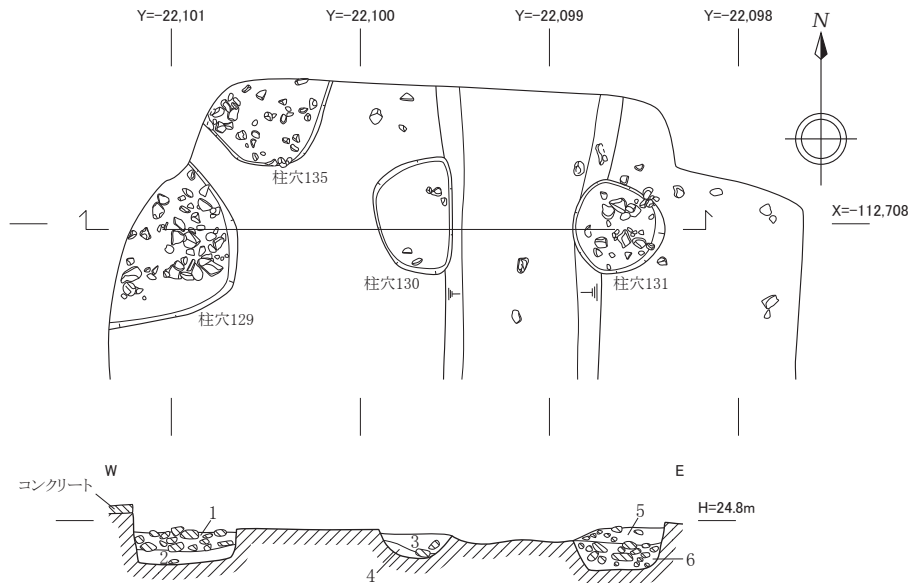


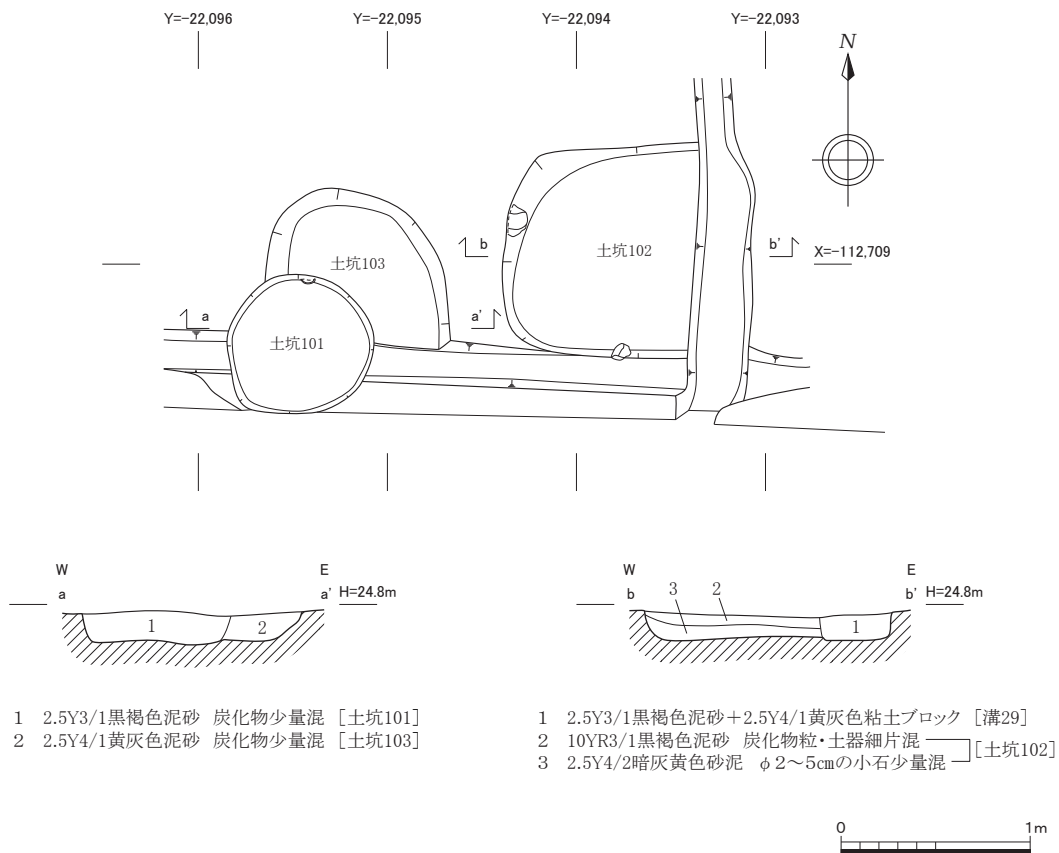
図8 東区 東西セクション断面図 (1:40)

柱列140



- |   |               |                                                      |         |
|---|---------------|------------------------------------------------------|---------|
| 1 | 2.5Y5/1黄灰色泥砂  | 2.5Y7/1灰白色細砂・ $\phi$ 3~10cmの小石混                      | [柱穴129] |
| 2 | 10YR3/2黒褐色泥砂  |                                                      |         |
| 3 | 2.5Y5/1黄灰色泥砂  | 2.5Y7/1灰白色細砂多量混                                      | [柱穴130] |
| 4 | 2.5Y3/1黒褐色砂泥  |                                                      |         |
| 5 | 2.5Y5/1黄灰色泥砂  | 2.5Y7/1灰白色細砂混<br>$\phi$ 1~3cmの小石・ $\phi$ 5cm前後の小石多量混 | [柱穴131] |
| 6 | 2.5Y4/2灰黄褐色泥砂 | $\phi$ 3~8cmの小石多量混                                   |         |

土坑101・102・103



- |   |              |        |         |
|---|--------------|--------|---------|
| 1 | 2.5Y3/1黒褐色泥砂 | 炭化物少量混 | [土坑101] |
| 2 | 2.5Y4/1黄灰色泥砂 | 炭化物少量混 | [土坑103] |

- |   |                               |                    |         |
|---|-------------------------------|--------------------|---------|
| 1 | 2.5Y3/1黒褐色泥砂+2.5Y4/1黄灰色粘土ブロック | [溝29]              |         |
| 2 | 10YR3/1黒褐色泥砂                  | 炭化物粒・土器細片混         |         |
| 3 | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥                 | $\phi$ 2~5cmの小石少量混 | [土坑102] |

図9 柱列140、土坑101・102・103平面・断面図（1：40）

等は調査地内では検出できなかった。柱穴 129 から土師器、須恵器、瓦器、柱穴 130 から土師器、須恵器、瓦器、柱穴 131 から土師器、須恵器、瓦器、瓦が出土した。これらの遺物は 7 A 段階に属する。

〔土坑〕

#### 土坑 117 (図 10)

1 A・2 A 区で検出した土坑である。土坑の南、東側を攪乱に切られ、北側は調査区外に位置する。検出長 1.62 m を測り、平面形は不明である。検出面からの深さは 0.25 m を測る。肩口からなだらかに傾斜し、底面は平坦である。埋土は黄灰色砂泥である。上位に 6 C 段階の土師器片が集中する。土師器の他には須恵器、青磁、白磁、瓦器、瓦が出土した。

#### 土坑 138 (図 10)

1 A 区で検出した土坑である。遺構の西側は調査区外に延びるため正確な規模は不明であるが、長さ 1.05 m で丸みを帯びた方形を呈する。検出面からの深さは 0.26 m を測る。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈する。埋土は黒褐色砂泥で、埋土に径 3～8 cm 大の石や炭化物を含む。6 C 段階の土師器や東播系須恵器鉢などが出土し、完形やそれに近いものが多いことから廃棄土坑と考えられる。

#### 土坑 101 (図 9)

4 C 区で検出した土坑である。土坑 103 を切る。径 0.72～0.75 m の円形を呈する。検出面からの深さは 0.15 m を測る。底面は平坦である。埋土は黒褐色泥砂である。遺物は、6 C～7 A 段階に属する土師器とともに、瓦が出土した。

#### 土坑 102 (図 9)

5 C 区で検出した土坑である。第 1 面からの耕作溝 29 に東面を切られる。長さ 1.1 m、残存幅 1.01 m の方形を呈する。検出面からの深さは 0.13 m を測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。埋土は黒褐色泥砂、暗灰黄色砂泥である。土坑 102 からは 6 C～7 A 段階の土師器とともに青磁、瓦器、瓦が出土した。

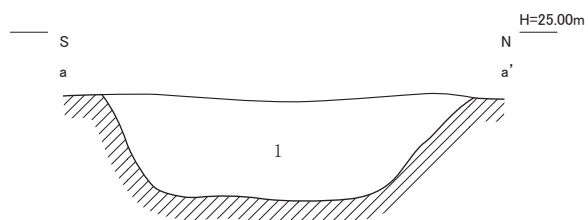
#### 土坑 103 (図 9)

4 C 区で検出した土坑である。西側を土坑 101 に、南側を第 1 面からの溝 4 に切られる。長さ 0.95 m、残存幅 0.85 m の不正方形を呈する。検出面からの深さは 0.11 m を測る。埋土は黄灰色泥砂である。遺物は 7 A 段階に属する土師器とともに、須恵器、瓦器が出土した。

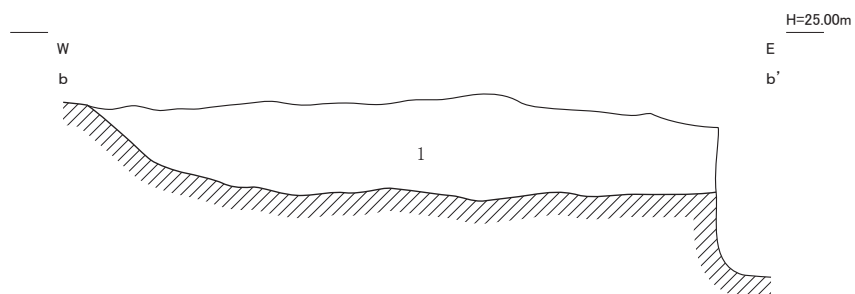
〔集石〕

#### 集石 107

5 A・6 A・5 B・6 B・5 C・6 C 地区で検出した拳大の礫を中心とした集石である。検出範囲は東西 4.7 m、南北 4.8 m であり、礫の分布には粗密がみられる。検出面からの深さは 0.1～0.15 m を測り、5 a 層の厚さとほぼ同様である。下層となる 5 b 層で検出した井戸 152 の上位に礫が多く集中し、5 a 層と明確な切合いはあまり見られないことから、5 a 層による整地が行なわれる際に沈下防止を目的として礫を投入したものとする。集石 107 からは、6 C～7 A 段



1 2.5Y3/1黒褐色砂泥  $\phi$  3~8cm前後の小石・炭化物混 [土坑138]



1 2.5Y4/1黄灰色泥砂 上位に $\phi$  3~8cmの小石・土器片多量混 [土坑117]



図10 土坑117・138平面・断面図 (1 : 20)

階に属する土師器とともに、須恵器、青磁、瓦器、瓦が出土した。

#### 集石 108

6 B 地区で検出した拳大の礫を中心とした集石である。検出範囲は東西 0.7 m、南北 0.9 m である。検出面からの深さは 0.1 ～ 0.15 m を測り、5 a 層の厚さとはほぼ同様である。5 b 層上面で検出した井戸 151 の上位に位置し、集石 107 と同様に 5 a 層による整地が行なわれる際に、沈下防止を目的として礫を投入したものとする。

#### b 第 2－2 面（5 b 層上面 図版 3）

5 b 層上面では鎌倉時代前半の柱穴、溝、井戸、土坑を検出した。

〔柱穴〕

柱穴は主に西区の南半で検出した（柱穴 202 ～ 204・210）。径 0.2 ～ 0.3 m を測り、検出面からの深さは 0.2 m 程度のものが中心である。3 C 区で検出した柱穴 210 は、10 cm 前後の礫を多く含む。

〔溝〕

#### 溝 205

1 C ～ 3 C 区で検出した東西溝である。検出長 5.95 m、幅 0.26 m 前後を測る。検出面からの深さは 0.12 m を測り、断面形は U 字を呈する。埋土は暗灰黄色泥砂である。遺物は 6 B ～ 6 C 段階に属する土師器とともに須恵器、瓦器、瓦が出土した。

〔井戸〕

#### 井戸 151（図 11）

6 A・6 B・7 A・7 B 区で検出した井戸である。平面形は長軸 2.01 m、短軸 1.56 m の東西に長い楕円形を呈する。井戸枠は残存しないが、湧水面である砂礫層まで掘り込まれ、埋土に井戸枠と考えられる木片が含まれていたことから井戸であると判断した。5 b 層上面からの深さは 0.71 m を測る。埋土は黒褐色泥砂、褐色砂礫、黄灰色砂質シルトである。遺物は、6 C 段階に属する土師器とともに、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、青磁、白磁、青白磁、瓦器、瓦が出土した。

#### 井戸 152（図 11）

5 A・5 B・6 A・6 B 区で検出した井戸である。掘方は径 2.35 ～ 2.48 m の不正円形を呈する。井戸枠は木枠を方形に組む。井戸枠は一辺 0.62 ～ 0.67 m の方形を呈し、縦板横棧組である。井戸枠の遺存状況は悪く、痕跡のみ残る箇所が多い。5 b 層上面からの深さは 0.57 m を測る。埋土は井戸枠内は黒褐色砂泥・泥砂、掘方は黄灰色砂泥、黒褐色砂泥、暗灰黄色砂泥である。遺物は 6 B ～ 6 C 段階に属する土師器とともに、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、青磁、白磁、瓦器、焼締陶器、瓦が出土した。

#### 井戸 176

5 A・6 A 区で検出した井戸である。北半部は調査区外であり、西側は土坑 175 に切られる。井戸枠は木枠を方形に組む。別遺構に切られ、井戸枠の規模は不明である。木枠は痕跡のみ残る。5 b 層上面からの深さは 0.38 m を測る。埋土は井戸枠内は黒褐色砂泥、掘方は黄灰色泥砂と褐色砂礫の混合土である。遺物の出土が無く、詳細な時期は不明である。

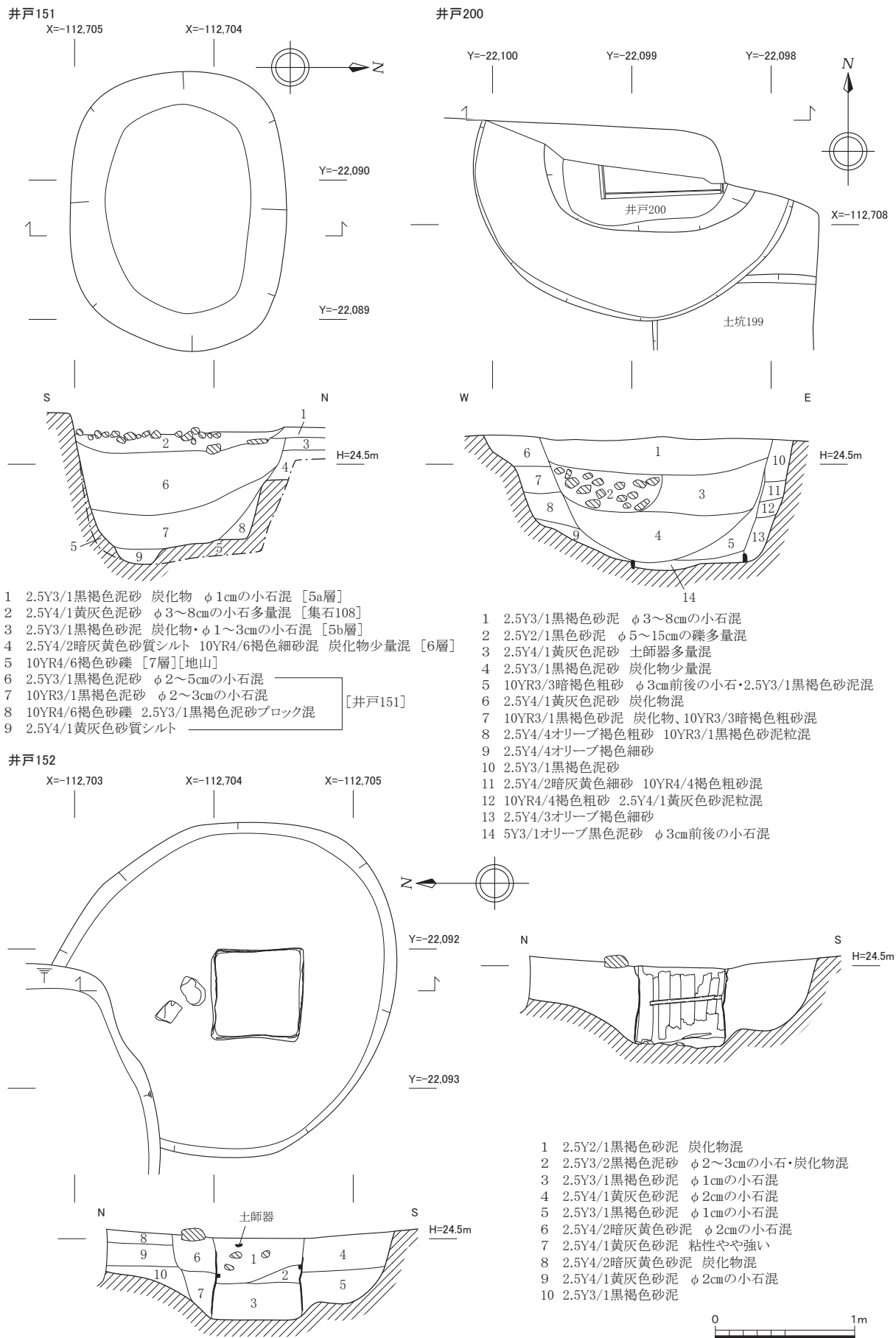


図11 井戸151・152・200平面・断面図 (1:40)

#### 井戸 200 (図 11)

3 C 区で検出した井戸である。井戸の南半部を検出し、北半部はコンクリート基礎の下に位置する。掘方は径 2.32 m の円形を呈する。井戸枠は底面の横桟のみ残り、一辺 0.92 m を測る。井戸枠の位置に検出面からの掘り込みが確認でき、井戸の廃絶時に板材が抜き取られたと考えられる。埋土は井戸枠抜き取跡に黒褐色砂泥、黒色砂泥、黄灰色砂泥、掘方に黄灰色・黒褐色泥砂、オリーブ褐色粗砂、暗灰黄色細砂である。遺物は 6 B ～ 6 C 段階に属する土師器とともに須恵器、青磁、白磁、瓦器が出土した。遺物は大半が井戸枠抜き取跡から出土している。

〔土坑〕

#### 土坑 171 (図 12)

4 A 区で検出した土坑である。土坑 175 を切り、土坑 188・190 に西側及び南東側を切られる。土坑北側は調査区外に位置する。長さ 2.95 m、検出幅 0.92 m を測り、平面形は方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは 0.44 m を測る。底面は平坦で、箱形を呈する。埋土は黒褐色砂泥、黄灰色砂泥とオリーブ褐色粗砂の混合土、暗灰黄色細砂で、上位に炭化物が薄く層状に堆積する。遺物は 6 B 段階に属する土師器とともに須恵器、青磁、白磁、瓦器、焼締陶器、瓦が出土した。

#### 土坑 175

5 A 区で検出した土坑である。井戸 176 を切り、土坑 171 に西側を切られる。土坑北側は調査区外に位置する。検出長 1.96 m、検出幅 1.21 m を測り、不正方形を呈する。埋土は黒褐色泥砂、オリーブ黒色砂泥、黄灰色砂泥で、底面付近に 10 ～ 15 cm 及び 30 cm 前後の礫を多く含む。遺物は 6 B 段階に属する土師器とともに、須恵器、瓦器、瓦が出土した。

#### 土坑 188

3 A 区で検出した土坑である。土坑 171 を切り、土坑 189 に西側を切られる。長さ 1.59 m、検出幅 0.35 m を測り、方形を呈する。検出面からの深さは 0.18 m を測り、底面はやや丸みを帯びる。遺物は 6 C 段階に属する土師器とともに、須恵器、瓦器が出土した。

#### 土坑 189 (図 12)

3 A 区で検出した土坑である。土坑 188 を切り、北側は調査区外に位置する。検出長 2.13 m、検出幅 0.71 m を測り、円形を呈する。検出面からの深さは 0.14 m を測り、底面は平坦である。埋土は黒褐色砂泥である。6 B ～ 6 C 段階に属する土師器とともに、須恵器、白磁、瓦が出土した。

#### 土坑 190 (図 12)

3 A・4 A 区で検出した土坑である。南側を攪乱により切られる。検出長 2.52 m、検出幅 0.38 m を測り、不正方形を呈する。検出面からの深さは 0.16 m を測り、底面は平坦である。埋土は黄灰色泥砂である。遺物は 6 B ～ 6 C 段階の土師器とともに、須恵器、緑釉陶器、瓦器が出土した。

#### 土坑 191 (図 12)

3 A 区で検出した土坑である。遺構の大半を攪乱に切れ、北側の一部のみのみが残る状況と考え

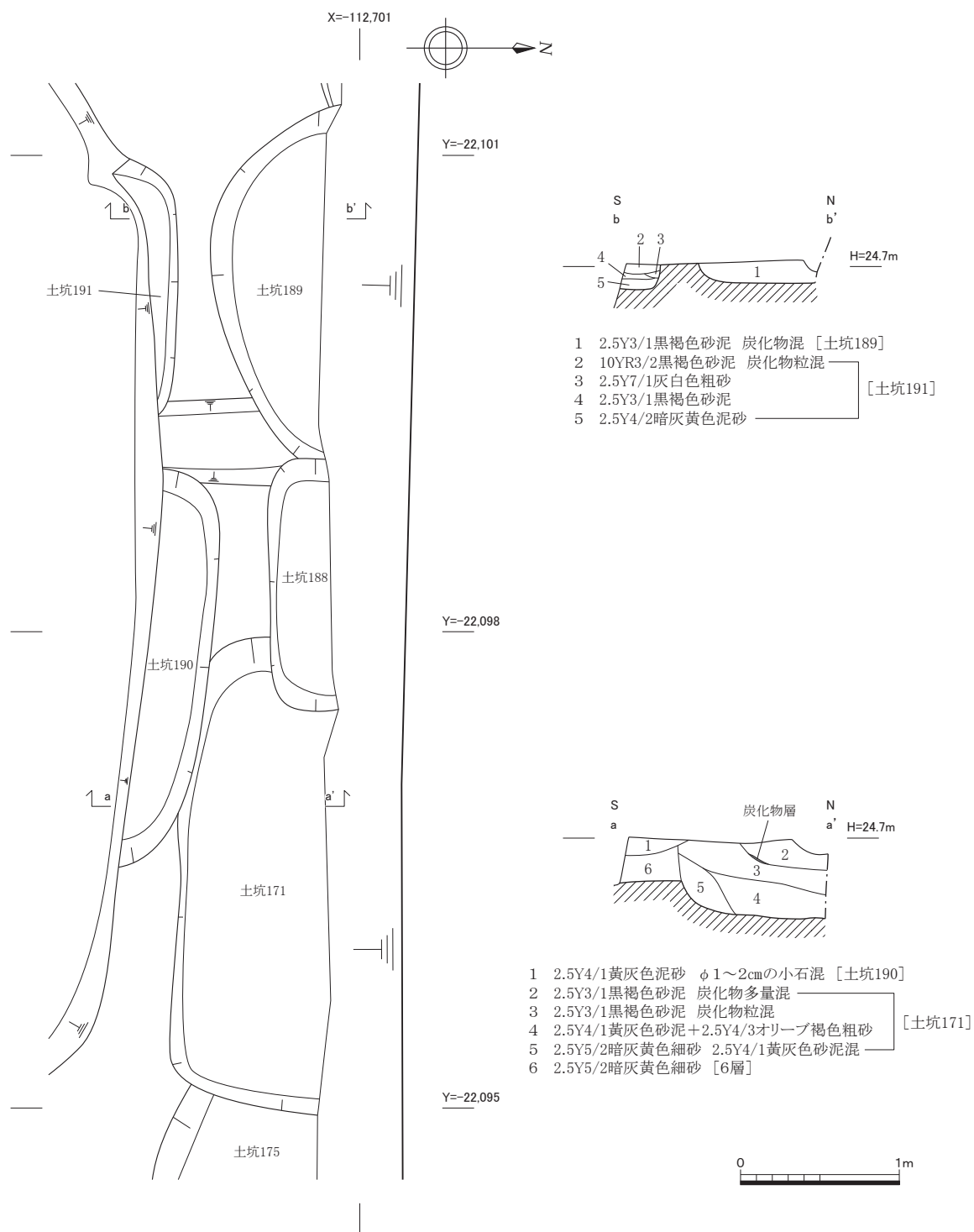


図12 土坑171・190、土坑189・191平面・断面図（1：40）

られる。検出長 1.58 m、検出幅 0.18 mを測る。検出面からの深さは 0.15 mを測り、底面は平坦と考えられる。埋土は黒褐色砂泥、灰白色粗砂、暗灰黄色泥砂である。遺物は 6 B～6 C 段階に属する土師器とともに、須恵器、瓦器が出土した。

#### 土坑 199 (図 13)

3 C 区で検出した土坑である。土坑の東側はコンクリート基礎により切られる。検出長 1.16 m、幅 1.05 m の方形を呈する。検出面からの深さは 0.11 m を測り、断面形は箱形を呈する。埋土は黄

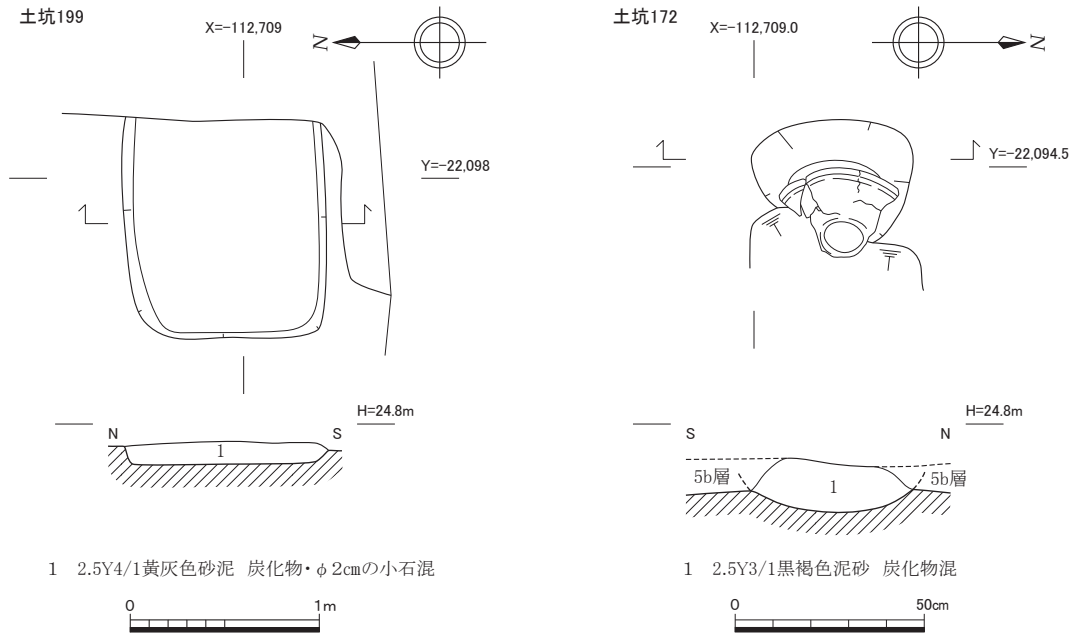


図13 土坑199・172平面・断面図（土坑199 1:40、土坑172 1:20）

灰色砂泥である。遺物は6 C段階に属する土師器とともに、須恵器、瓦器が出土した。

#### 土坑172（図13）

5 C区で検出した土坑である。第3面調査時に検出したが、5層掘り下げ作業時に5 b層上面から切り込むことを確認したことから当該面の遺構と判断した。7層上面で検出していることから遺構の正確な規模は不明であるが、0.6 m前後の円形を呈する土坑と想定される。5 b層上面からの深さは0.15 mを測る。埋土は黒褐色砂泥である。土坑内から13世紀後半の東播系須恵器鉢が出土した。

#### （3）第3面（6・7層上面 図版4・5）

第3面では平安時代～鎌倉時代前半の遺構を検出した。

〔柵〕

#### 柵285（図14）

1 A～3 A区で検出した東西方向の柵である。検出長4.8 mで、2間分検出した。軸方向は正方位から北東－南西方向に1.9° 振る。柱間は2.4 mである。柱穴の掘方は径0.45～0.60 mの楕円形を呈し、深さは0.15 m前後を測る。柱穴235は柱の痕跡が残り、柱の太さは0.15 mである。柱穴235から平安時代後期の軒平瓦が出土したが、他の柱穴から遺物の出土が無く、詳細な時期は不明である。

#### 柵286（図15）

3 A～6 A地区で検出した東西方向の柵である。検出長は10.5 mを測り5間分と想定されるが、攪乱等により東側では複数の柱穴が消失している。軸方向は正方位から北東－南西方向に0.5° 振る。柱間は2.1 mである。柱穴の掘方は0.4 m前後の円形ないし楕円形を呈し、深さは0.15 m前後である。柱痕の規模から、柱の太さは0.2 m前後と考えられる。柱穴179から須恵器、柱穴225

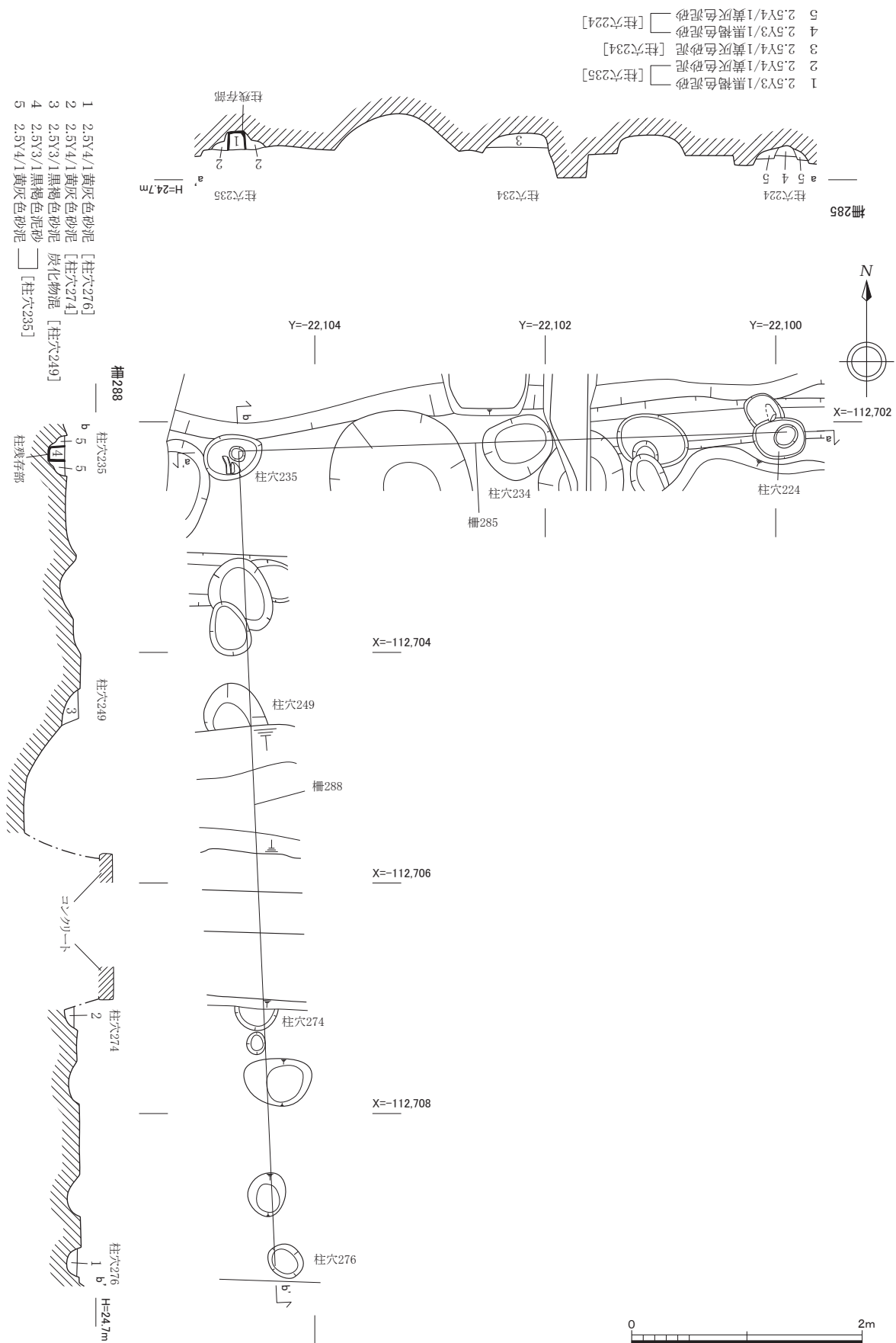


図14 柵285・288平面・断面図 (1 : 50)

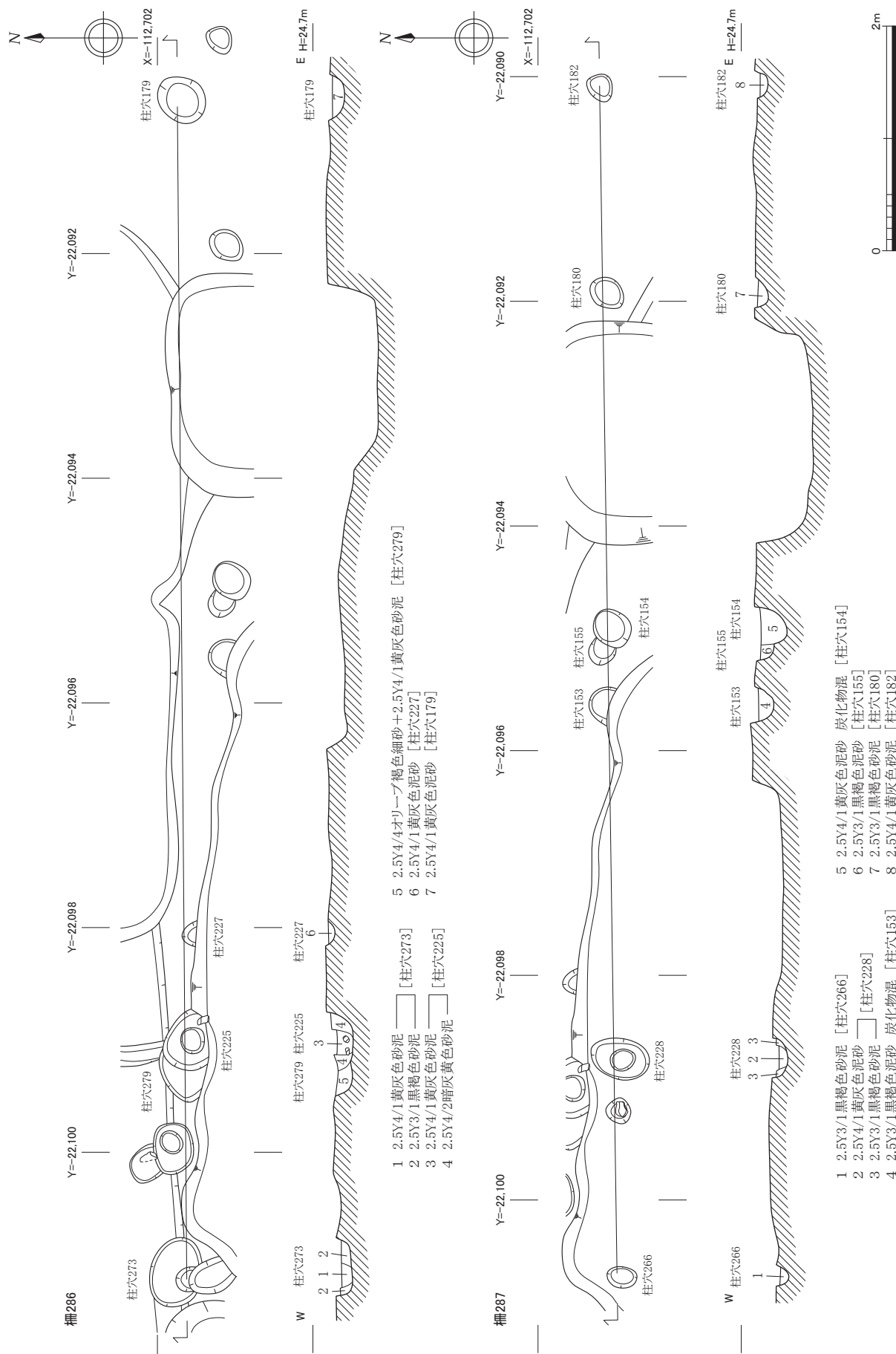


图15 柵286・287平面・断面图 (1 : 50)

から鎌倉時代前半と想定される土師器が出土したが、小片であるため詳細な時期は不明である。

#### 柵 287 (図 15)

3 A ～ 6 A 地区で検出した東西方向の柵である。柵 286 の約 0.4 m 南に位置する。検出長は 10.6 m を測り 6 間と想定されるが、攪乱により 2 基の柱穴が消失する。軸方向は正方位から北東 - 南西方向に  $0.8^{\circ}$  振る。柱間は 1.5 ～ 1.8 m であるが、柱穴 154・155 は切り合いがあり、柱穴 153・154 は柱間が非常に狭いことから、幾度か建替えが行なわれた可能性がある。柱穴の掘方は径 0.2 ～ 0.35 m の円形ないし楕円形を呈し、深さは 0.15 m 前後を測る。柱穴 154・228 から 6 B 段階に属する土師器が出土した。

#### 柵 288 (図 14)

1 A ～ 3 A 区で検出した南北方向の柵である。検出長は 7.2 m を測り、3 間分検出した。最北の柱穴 235 は柵 285 と共有する形で復元をしている。軸方向は正方位から北西 - 南東方向に  $2.6^{\circ}$  振る。柱間は 2.4 m である。柱穴の掘方は径 0.3 ～ 0.45 m の円形ないし楕円形を呈し、深さは 0.10 ～ 0.15 m を測る。

〔溝〕

#### 溝 237 (図 16)

1 A ～ 4 A 区で検出した東西溝である。溝の北肩は調査区外に位置する。溝の東は土坑 171 に切られ、西は調査区外に延びる。検出長 6.9 m、検出幅 0.67 m を測る。軸方向は正方位から北東 - 南西方向に  $3.8^{\circ}$  振る。検出面からの深さは 0.28 m を測り、断面形は箱形を呈する。埋土は黄灰色シルト、黄灰色砂泥で炭化物を含む。6 B 段階の土師器とともに、須恵器、瓦器、青磁が出土した。

#### 溝 247 (図 16)

1 A ・ 2 A 区で検出した東西溝である。検出長 2.35 m、幅 0.31 m 前後を測る。軸線は正方位から北東 - 南西方向に  $2.8^{\circ}$  振る。検出面からの深さは 0.12 m を測り、底面は丸みを帯びる。埋土は黄灰色砂泥である。6 B 段階の土師器とともに、須恵器、瓦器が出土した。

#### 溝 270 (図 16)

2 A ・ 3 A 区で検出した東西溝である。柵 285・286 を構成する柱穴、溝 237、土坑 274 に切られる。Y = -22,102 m 付近に設定したセクションより西側では、後世の遺構による攪乱を受け消失している。検出長 3.56 m、幅 0.37 m 前後を測る。検出面からの深さは 0.09 m を測り、断面形は船底形を呈する。埋土は黄灰色泥砂である。溝 270 からは吉州窯産の天目茶碗が出土した。

〔土坑〕

#### 土坑 269

2 A 区で検出した土坑である。径 1.2 m の円形を呈する。検出面からの深さは 0.37 m を測り、底面は丸みを帯びる。埋土は黄灰色泥砂である。遺物の出土が無く、時期の詳細は不明である。

#### 土坑 271

2 A ・ 2 B 区で検出した土坑である。径 0.75 ～ 0.86 m の円形を呈する。検出面からの深さは

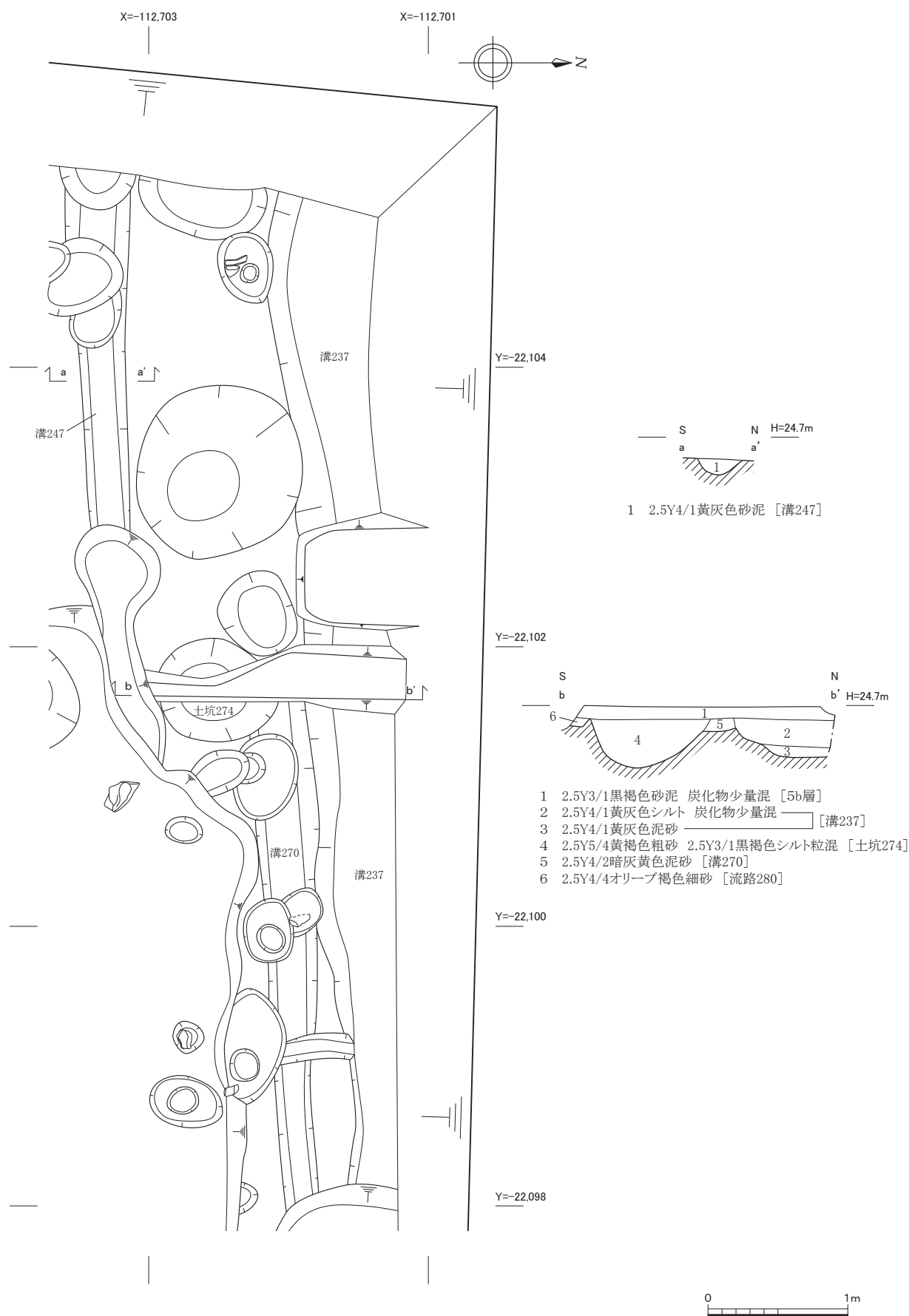


図16 溝247、溝237・270・土坑274平面・断面図（1：40）

0.23 mを測り、底面はやや丸みを帯びる。埋土は黒褐色砂泥である。遺物は6 A～6 B段階に属する土師器とともに瓦が出土した。

〔流路〕

#### 流路 179

調査区東半で検出した北西－南東方向の流路である。検出長 4.12 m、幅 0.64 m前後を測る。検出面からの深さは 0.18 mである。埋土は暗灰黄色細砂である。遺物は出土しなかった。

#### 流路 280

調査区西半で検出した北西－南東方向の流路である。流路の東肩のみを検出し、西肩は調査区外に位置する。調査区西壁付近での深さは 0.38 mを測る。埋土は東肩付近では暗灰黄色細砂と灰黄色砂質シルトの互層（図6 調査区北壁断面の 40 層）、調査区西壁付近では褐色砂礫と黄灰色砂礫の互層（図6 調査区北壁断面の 41 層）である。当初 41 層の砂礫層は基盤層と考えていたが、平安時代前期の遺物が含まれることを確認したため、流路埋土と判断した。

### 3 出土遺物

今回の調査では、コンテナ 25 箱分の遺物が出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、瓦類、金属製品、石製品等がある。遺物の時期は古墳時代～明治時代までに及ぶ。時期別の出土数は鎌倉時代前半の遺物が最も多い。江戸時代末～明治時代初頭の遺物が次ぎ、この2時期で大半を占める。古墳時代～平安時代の遺物は少数出土しているが、鎌倉時代後半～室町時代の遺物はほぼみられない。

#### (1) 土器・陶磁器類

##### a 古墳時代（図 17 1）

1 は古式土師器高杯の脚柱部である。杯部、裾部は欠損する。表面は磨滅している。外面にナ

表3 遺物概要表

| 時代                | 内容                                      | コンテナ数 | A ランク点数                                                                                      | B ランク点数 | C ランク箱数 |
|-------------------|-----------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|
| 古墳時代              | 古式土師器                                   |       | 古式土師器 1 点                                                                                    |         |         |
| 平安時代              | 土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、軒瓦、丸瓦、平瓦      |       | 須恵器 3 点、緑釉陶器 1 点、緑灰釉陶器 3 点、軒丸瓦 1 点、軒平瓦 3 点                                                   |         |         |
| 鎌倉時代              | 土師器、須恵器、瓦器、青磁、白磁、瓦質土器、焼締陶器、軒瓦、丸瓦、平瓦、石製品 |       | 土師器 62 点、土師質土器 1 点、須恵器 11 点、青磁 9 点、白磁 9 点、青白磁 2 点、輸入陶器 3 点、瓦器 19 点、焼締陶器 3 点、白色土器 3 点、石製品 1 点 |         |         |
| 江戸時代<br>～<br>明治時代 | 土師器、施釉陶器、染付、焼締陶器、瓦質土器、土製品、棧瓦、金属製品、貝     |       |                                                                                              |         |         |
| 合計                |                                         | 29 箱  | 135 点（5 箱）                                                                                   |         | 24 箱    |

\*コンテナ箱数は、整理段階で遺物の抽出を行い 4 箱増加した。

デの痕跡が残る。集石 107 より出土。

## b 平安時代

### 流路 280 (図 17 2)

流路 280 からは平安時代前期の遺物が少数出土したが、図示できたものは 1 点のみである。2 は須恵器杯 B 底部である。底径 10.8 cm。底部外端に断面方形の高台を貼り付ける。高台の接地面はナデにより段が付く。

### その他遺構・包含層 (図 17 3～8)

須恵器 (3・4)、緑釉陶器 (5)、灰釉陶器 (6～8) がある。

須恵器は杯 B (3)、椀 (4) がある。3 は高台径 7.6 cm。底部外端に外に踏ん張る角高台を貼り付ける。底部外面は糸切り後ナデ調整を行う。井戸 152 掘方から出土。4 は底径 7.0 cm。外側に張り出す断面逆三角形の高台を貼り付ける。内面は使用により平滑である。5 層から出土。

緑釉陶器 (5) は椀底部である。近江産である。高台径 8.4 cm。高台接地面の内側にナデによる段が付く。底部外面には糸切痕が残る。明緑灰色の釉薬を全体に施す。井戸 152 掘方から出土。

灰釉陶器は椀・皿がある。7・8 は底部片である。6 は口径 16.8 cm、高台径 8.4 cm、器高 5.1 cm。三日月高台である。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は水平方向に外反する。施釉方法は漬け掛けである。折戸 53 号窯式。井戸 151 から出土。7 は高台径 6.8 cm。高台接地面がやや変形するが、三日月高台である。施釉方法は漬け掛けと思われる。折戸 53 号窯式か。5 b 層から出土。8 は高台径 7.2 cm。三日月高台である。残存部に釉薬がみられず、施釉方法は不明。黒笹 90 号窯式か。5 層から出土。

## c 鎌倉時代

### 井戸 152 (図 17 9～22)

井戸の掘方からは土師器 (9)、瓦器 (10)、井戸枠内からは土師器 (11～17)、青磁 (18)、白磁 (19)、瓦器 (20)、焼締陶器 (21・22) が出土した。

#### 掘方出土遺物

土師器 (9) は皿 S である。口径 12.7 cm、器高 2.9 cm。口縁部は丸みを持って立ち上がり、口縁端部は上方に突出する。胎土は精良でにぶい黄橙色を呈する。瓦器 (10) は楠葉型瓦器椀である。口縁端部内側に沈線が 1 条巡る。内面に横方向のミガキを密に施す。

#### 井戸枠内出土遺物

土師器は皿 N がある。小型皿 (11・12) と大型皿 (13～17) に区分される。小型皿は、11 が口径 7.8 cm、器高 1.6 cm、12 が口径 8.0 cm、器高 1.5 cm。口縁端部は上方に僅かに突出する。大型皿は、口径 12.2～13.7 cm、器高 2.2～2.6 cm。口縁端部は上方に突出し、断面三角形を呈する。

青磁 (18) は椀底部である。幅約 1 cm の断面方形を呈する高台を削り出す。体部内面に劃花文がみられる。内面及び体部外面に明オリーブ灰色の釉薬を施す。龍泉窯産か。

白磁 (19) は椀口縁部である。口径は復元できなかった。体部から口縁部は丸みを持って立ち上がり、口縁端部は面を持つ。胎土は灰白色を呈し、灰白色の釉薬を施す。

瓦器（20）は鉢である。口径は復元できなかった。口縁端部は内側に肥厚し、上端にナデによりやや凹んだ面を持つ。

焼締陶器は壺（21）、甕（22）がある。21・22 いずれも常滑産である。21 は底径 6.8 cm、22 は底径 10.8 cm。21 の底部外面には付着物がある。

井戸 152 出土遺物は、掘方・井戸枠内共に時期差はほぼ確認できず 6 B 段階に属し、13 世紀前半の所産と考えられる。

#### 土坑 171（図 17 23～28）

土師器（23・24）、青磁（25・26）、白磁（27・28）がある。

土師器は皿 N がある。口縁端部は上方に突出し断面三角を呈する。23 は口径 13.2 cm、器高 2.4 cm、24 は口径 13.8 cm、器高 2.1 cm。

青磁は碗がある。25 は口径 16.0 cm。龍泉窯産か。内面に細かな線で劃花文を施す。オリーブ黄色の釉薬を施す。26 は口径 16.8 cm。同安窯産。内面に劃花文、外面に櫛目文が施される。オリーブ灰色の釉薬を施す。

白磁は碗（27）、壺（28）がある。碗（27）は口径 15.4 cm。体部は直線的に外上方に立ち上がり、口縁部は水平に短く外反し、上端に面を持つ。灰白色の胎土に白磁釉を施す。壺（28）は四耳壺の体部片である。

土坑 171 出土遺物は 6 B 段階に属し、13 世紀前半の所産と考えられる。

#### 井戸 200（図 17 29～44）

土師器（29～36）、須恵器（41・42）、青磁（37・38）、青白磁（39）、白磁（40）、瓦器（43・44）がある。

土師器は皿 A c（29）、皿 S（30）、皿 N（31～36）がある。皿 A c は、口径 5.0 cm、器高 1.0 cm。胎土は精良で灰白色を呈する。皿 S は口径 8.3 cm、器高 2.3 cm。底部は平坦で、口縁部は丸みを持ち立ち上がる。口縁端部は尖り気味に上方に突出する。皿 N は小型皿（31・32）と大型皿（34～36）がある。小型皿は、口径 8.2～8.4 cm、器高 1.3～1.4 cm。口縁端部は上方に僅かにつまみ上げる。大型皿は、口径 11.9～12.6 cm、器高 2.0～2.5 cm。口縁端部は上方に突出し、断面三角形を呈する。36 は口縁部がナデによりやや屈曲する。

須恵器は鉢（41）、甕（42）がある。いずれも口径は復元できなかった。鉢（41）は東播系である。口縁部は上下に拡張し断面三角形を呈し、外端面はナデにより僅かに凹む。甕（42）は口縁部片である。口縁端部は面を持ち、ナデにより僅かに凹む。体部外面にタタキの痕跡が残り、口縁部はナデ調整を施す。

青磁は皿（37）、碗（38）がある。いずれも龍泉窯系である。皿（37）は平底で体部は屈曲して立ち上がり、口縁部は緩く外反する。見込みに劃花文を施す。胎土は灰白色を呈し、オリーブ灰色の釉薬を施す。底部外面は露胎である。碗（38）は高台径 6.8 cm。断面方形の高台を削り出す。体部は丸みを持ち立ち上がる。体部内面に劃花文を施す。高台接地面に 4 箇所が目跡が残る。胎土は灰白色を呈し、オリーブ黄色の釉薬を施す。高台及び底部外面は露胎である。

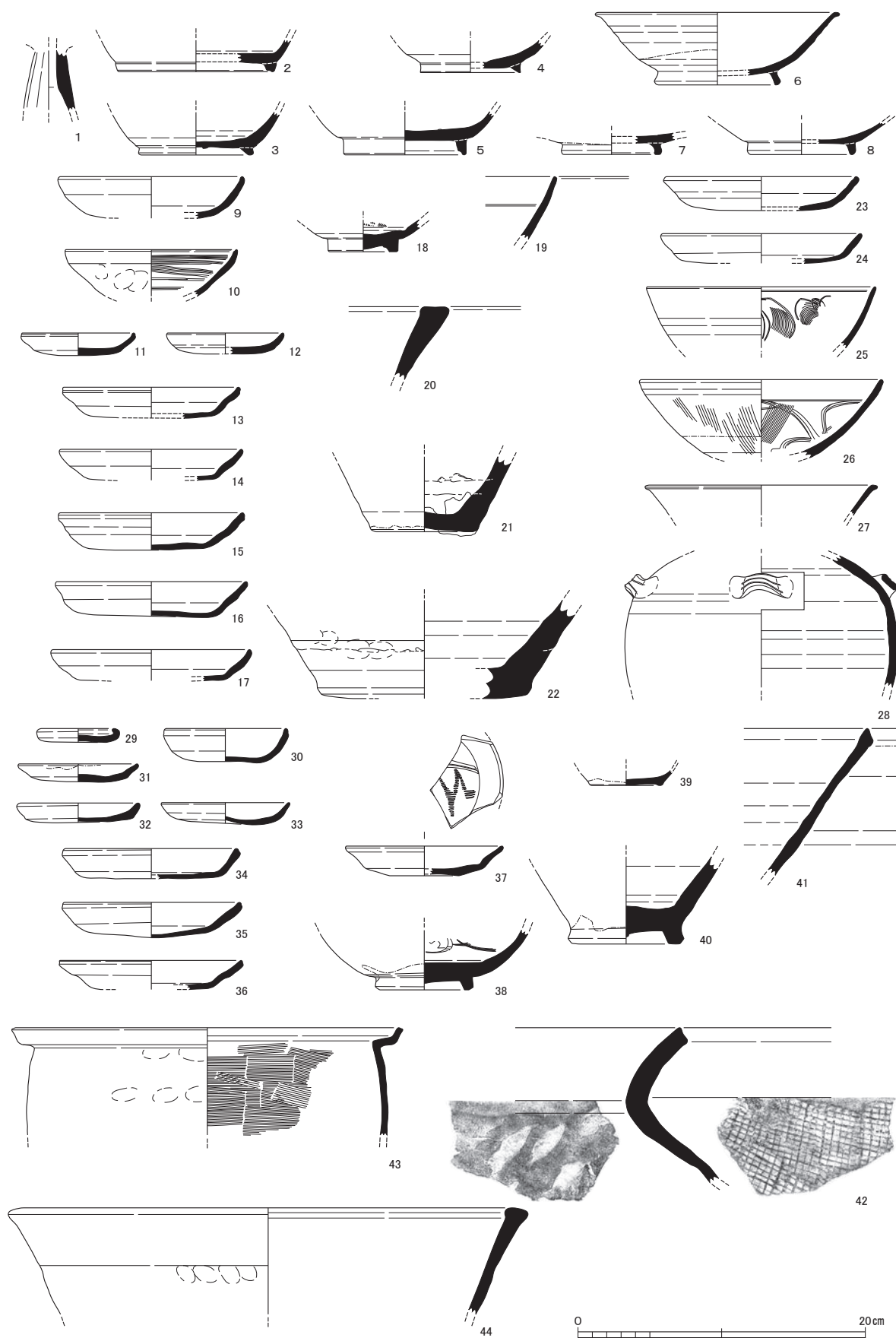


図17 出土遺物1 (1 : 4)

青白磁（39）は椀もしくは皿の底部である。背の低い高台を削り出す。高台径 5.0 cm。底部内面に印刻を施すが、小片のため文様は不明である。

白磁は壺（40）である。四耳壺の底部と考えられる。高台径 7.5 cm。断面方形の高台を削り出し、外端面は面取りする。体部外面に白磁釉を施し、底部外面は露胎である。

瓦器は鍋（43）、鉢（44）がある。鍋（43）は口径 26.6 cm。口縁部は L 字状に屈曲する。口縁部はナデ、体部外面はオサエ、体部内面はハケ調整を施す。鉢（44）は口径 34.0 cm。体部～口縁部は直線的に外上方に立ち上がり、口縁端部は内側に肥厚し上端に面を持つ。

井戸 200 出土遺物は 6 B～6 C 段階に属し、13 世紀前半～中頃の所産と考えられる。

#### 井戸 151（図 18 45～52）

土師器（45～49）、須恵器（52）、輸入陶器（50）、青白磁（51）がある。

土師器は皿 N（45～47）、皿 S（48）、ミニチュア羽釜（49）がある。皿 N は小型皿（45・46）と大型皿（47）に区分される。小型皿は 45 が口径 8.5 cm、器高 1.8 cm、46 が口径 8.9 cm、器高 1.8 cm。口縁端部は上方に突出する。大型皿（47）は口径 10.8 cm、器高 1.9 cm。口縁端部は上方に僅かに突出し丸みを帯びる。皿 S（48）は口径 10.8 cm、器高 2.3 cm。口縁部は丸みを持って立ち上がり、口縁端部は上方で丸く収める。ミニチュア羽釜（49）は口径 5.4 cm、器高 2.8 cm。幅 5 mm 程度の鐳を貼り付ける。全体をナデ調整で仕上げる。胎土は精良で浅黄橙色を呈する。

須恵器（52）は東播系の片口鉢である。口径 29.3 cm、底径 10.2 cm、器高 10.8 cm。底部及び体部内面は使用により磨滅する。口縁部は断面三角形を呈し、端部外面はナデ調整により僅かに凹む。

輸入陶器（50）は盤である。底径は復元できなかった。平底で、体部は丸みを持ち立ち上がる。内面に灰色の釉薬を施し、鉄釉で文様（草文か）を描く。

青白磁（51）は托である。花卉をあしらった皿の中央に小椀状の受けを接合させる。受け部の口径 4.6 cm、皿部の口径 9.0 cm、高台径 2.7 cm、全体の器高 3.0 cm。底部は焼成後に穿孔する。器壁は薄く、釉薬の発色も良好である。12 世紀の所産か。

井戸 151 出土遺物は 6 C 段階に属し、13 世紀中頃～後半の所産と考えられる。

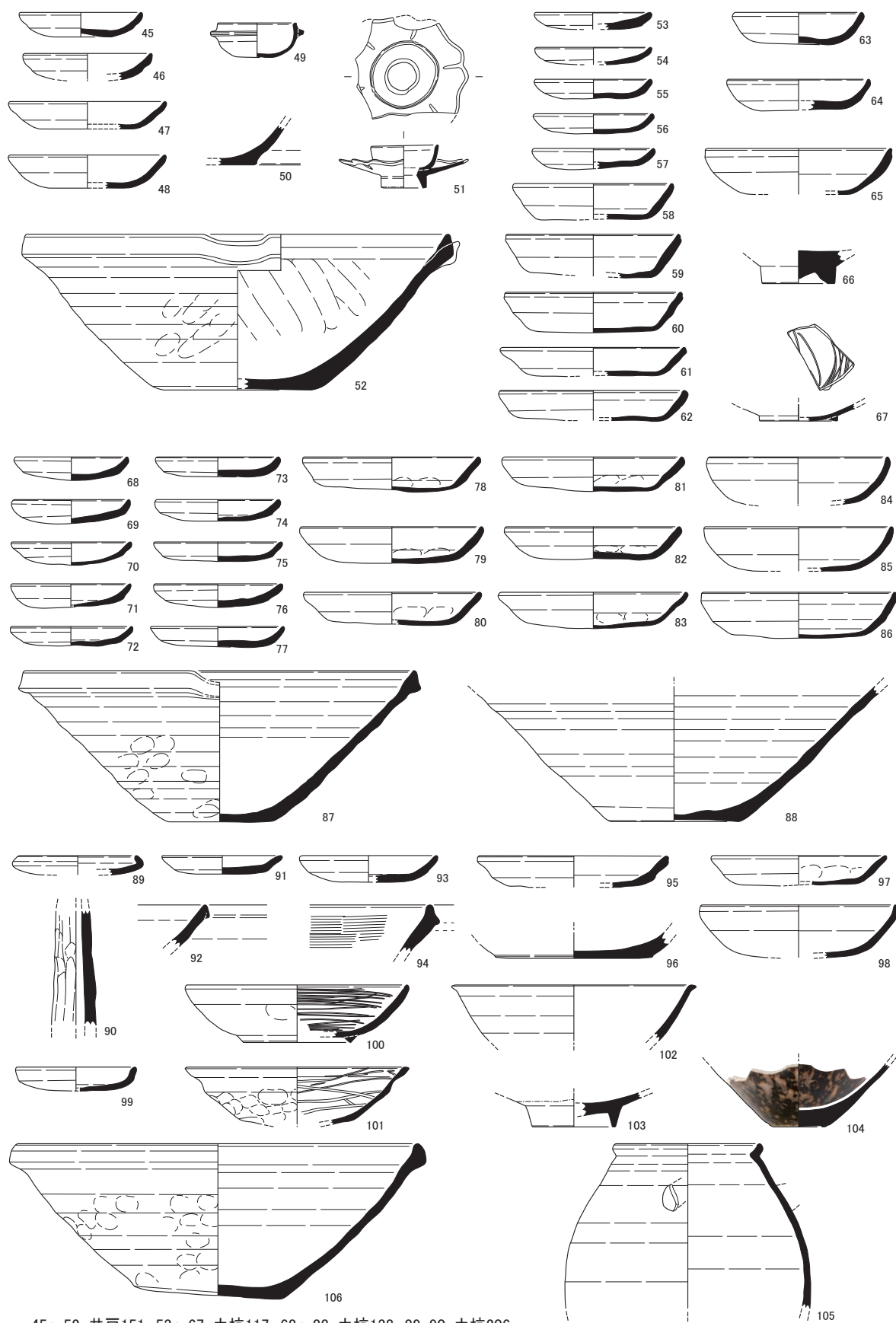
#### 土坑 117（図 18 53～67）

土師器（53～65）、青磁（66）、瓦器（67）がある。

土師器は皿 N（53～62）、皿 S（63～65）がある。皿 N は小型皿（53～57）、大型皿（58～62）に区分される。小型皿は、口径 8.0～8.3 cm、器高 1.2～1.4 cm。口縁部は丸みを持ち、端部は上方にわずかにつまみ上げる。大型皿は、口径 11.0～12.8 cm、器高 2.0～3.0 cm。口縁端部は上方につまみ上げる。皿 S は 63 が口径 8.8 cm、器高 2.2 cm、64 が口径 9.8 cm、器高 2.2 cm、65 が口径 12.8 cm、器高 3.2 cm。いずれも口縁部は丸みを持って立ち上がり、端部は上方につまみ上げる。胎土は精良で灰白色を呈する。

青磁（66）は椀底部片である。高台径 5.0 cm。幅の広い角高台を削り出す。

瓦器（67）は椀底部である。高台径 5.2 cm。底部に断面三角形の高台を貼り付ける。体部内面に横方向のミガキ、底部内面に螺旋状と思われる暗文を施す。楠葉型椀である。



45~52:井戸151 53~67:土坑117 68~88:土坑138 89~90:土坑206  
 91~92:土坑221 93~94:溝237 95~96:溝247 97:柱穴130 98:柱穴272  
 99:柱穴112 100:柱穴187 101:土坑190 102:土坑222 103:土坑189  
 104:溝270 105:柱穴179 106:土坑172

図18 出土遺物2 (1:4)

土坑 117 出土遺物は、6 C 段階に属し 13 世紀中頃の所産と考えられる。

#### 土坑 138 (図 18 68～88)

土師器 (68～86)、須恵器 (87・88) がある。

土師器は皿 N (68～83)、皿 S (84～86) がある。皿 N は、小型皿 (68～77)、大型皿 (78～83) に区分される。小型皿は、口径 7.7～9.2 cm、器高 1.4～2.0 cm。口縁部は丸みを持って立ち上がり、端部は上方にわずかにつまみ上げる。76 には内面にナデによる段が残る。大型皿は、口径 12.0～12.9 cm、器高 2.3～2.6 cm。口縁端部は上方につまみ上げ、丸みを帯びる。皿 S は、口径 12.3～13.3 cm、器高 3.1～3.3 cm。底部は平坦で、口縁部は丸みを持って立ち上がる。口縁端部は尖り気味に上方に突出する。胎土は灰白色を呈し精良である。

須恵器は東播系片口鉢である。いずれも底部及び体部内面が使用により磨滅する。87 は口径 17.0 cm、底径 7.0 cm、器高 11.5 cm。底部は平坦で、体部は直線的に外上方に立ち上がる。口縁部は上下に拡張し、断面三角形を呈する。口縁端部はナデにより僅かに凹む。88 は口縁部を欠損する。底径 9.0 cm。底部は平坦で、体部は直線的に外上方に立ち上がる。

土坑 138 出土遺物は 6 C 段階に属し、13 世紀中頃の所産と考えられる。

#### 土坑 206 (図 18 89・90)

89 は土師器皿 A c である。口径 8.0 cm、器高 1.3 cm。底部はやや丸みを持ち、口縁部は内側に折り曲げる。6 A 段階に属する。90 は白色土器高杯脚柱部である。心棒作りで、表面を面取りする。

#### 土坑 221 (図 18 91・92)

91 は土師器皿 N である。口径 8.2 cm、器高 1.3 cm。口縁部はナデにより緩く外反し、端部は丸く収める。6 C 段階に属する。92 は東播系須恵器鉢である。口径は復元できなかった。口縁部は下外方にわずかに拡張し、断面三角形を呈する。12 世紀後半の所産か。

#### 溝 237 (図 18 93・94)

93 は土師器皿 N である。口径 9.4 cm、器高 1.9 cm。口縁端部は上方に僅かに突出する。6 B 段階に属する。94 は土師質の鍋である。口径は復元できなかった。口縁端部は上下に拡張し、外端面はナデにより凹む。内面に横方向のハケ調整を施す。

#### 溝 247 (図 18 95・96)

95 は土師器皿 N である。口径 13.0 cm、器高 2.2 cm。口縁端部は上方に突出し、断面三角形を呈する。6 B 段階に属する。96 は東播系須恵器鉢の底部である。底径 11.0 cm。底部外面に糸切痕が残る。

#### 柱穴 130 (図 18 97)

97 は土師器皿 N である。口径 12.0 cm、器高 2.1 cm。口縁端部は上方に僅かに突出する。7 A 段階に属する。

#### 柱穴 272 (図 18 98)

98 は土師器皿 S である。口径 13.4 cm、器高 3.7 cm。底部は平坦で、口縁部は丸みを持って立ち上がる。口縁端部は尖り気味に上方に突出する。6 B 段階に属する。

#### 柱穴 112 (図 18 99)

99 は楠葉型瓦器皿である。口径 8.2 cm、器高 1.7 cm。ミガキは無く、底部外面はオサエ、口縁部内外面及び底部内面はナデを施す。13 世紀後半の所産。

#### 柱穴 187 (図 18 100)

100 は楠葉型瓦器碗である。口径 15.3 cm、高台径 7.6 cm、器高 7.4 cm。断面逆三角形の高台を貼り付ける。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁端部は丸く収める。口縁端部内面に沈線が 1 条巡る。内面に横方向のミガキを密に施す。13 世紀前半の所産。

#### 土坑 190 (図 18 101)

101 は和泉型瓦器碗口縁部～体部片である。口径 15.4 cm。口縁部はヨコナデが 2 段に施され、端部は上方に面を持つ。内面に横方向のミガキを荒く施す。13 世紀前半の所産。

#### 土坑 222 (図 18 102)

102 は白磁碗である。口径 16.4 cm。体部は緩く湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外反する。口縁端部は尖り気味に収める。13 世紀初頭の所産か。

#### 土坑 189 (図 18 103)

103 は白磁碗底部である。高台径 5.8 cm。幅が狭く背の高い高台を削り出す。内面及び体部外面にくすんだ白磁釉を施し、高台及び底部外面は露胎である。

#### 溝 270 (図 18 104)

104 は天目茶碗である。口縁部を欠くが、体部から口縁部が直線的に外上方に立ち上がる平碗状と考えられる。鉄釉と灰釉の二重掛けにより表面が斑模様を呈しており、吉州窯産の鼈甲手といわれる玳皮天目茶碗である<sup>(1)</sup>。高台径 3.7 cm。高さ 1 mm 程度の短い高台を削り出す。内面及び体部外面に釉薬を施し、底部外面は露胎である。体部下方及び高台の一部に成形時と考えられる傷が残る。12 世紀後半の所産か。

#### 柱穴 179 (図 18 105)

105 は輸入陶器壺である。双耳壺もしくは四耳壺と考えられる。口径 10.0 cm。体部は丸みを持ち内上方に立ち上がり、口縁部は短く外反し断面方形を呈する。胎土は黑色粒子を含み灰色を呈する。外面に施釉の痕跡がみられるが、色調は退色しているため不明である。

#### 土坑 172 (図 18 106)

106 は東播系須恵器鉢である。口径 27.8 cm、底径 10.3 cm、器高 10.8 cm。底部は平坦で、体部はやや丸みを持ち立ち上がる。口縁部は上下に拡張し、端部外面は丸みを帯びる。内面は使用により磨滅する。13 世紀後半の所産。

#### 集石 107 (図 19 107～112)

土師器 (107)、須恵器 (110～112) 白色土器 (108)、瓦器 (109) がある。

土師器 (107) は皿 A c である。口径 4.5 cm、器高 0.8 cm。口縁部を短く内側に折り曲げる。胎土は精良で灰白色を呈する。

須恵器 (110～112) は鉢 (110・112)、甕 (111) がある。110 は鉢底部である。高台径 13.8 cm。

底部は平坦で、外側に張り出す断面三角形の高台を貼り付ける。111は甕口縁部から体部片である。口径15.7 cm。口縁端部は面を持つ。口縁部外面及び体部外面にタタキ、肩部外面にケズリを施す。112は東播系鉢である。口径は復元できなかった。口縁端部は上下方に拡張し、外端面はナデにより凹む。

白色土器(108)は底部片である。皿の底部か。底径3.2 cm。底部外面に糸切痕が残る。

瓦器(109)は鍋である。口径は復元できなかった。体部は外上方に立ち上がり、口縁部の張り出しはやや窪み、端部は尖り三角形を呈する。

集石107出土遺物は、6C～7A段階に属し13世紀後半の所産のものが中心であるが、瓦器鍋(109)は7C段階(14世紀前半)のものと考えられる。

#### 5層(図19 113～128)

113は白色土器高杯である。脚柱部片である。心棒作りで、表面を面取りする。胎土は精良で灰白色を呈する。

114・115は青磁碗である。いずれも龍泉窯系である。114は高台径4.4 cm。断面方形の高台をケズリ出し、外端面は面取りする。胎土は灰黄色を呈し、底部内面及び体部内外面に灰オリーブ色の釉薬を施す。高台より内側は露胎である。内面に劃花文を施す。115は高台径5.5 cm。断面方形の高台を削り出す。胎土は灰白色を呈し、オリーブ灰色の釉薬を施す。高台接地面及び高台内側は露胎である。見込みに劃花文を施す。

116～118は白磁である。116は皿である。口径10.0 cm、器高2.2 cm。見込みに劃花文を施す。胎土は灰白色を呈し、黄味を帯びる灰白色の釉薬を施す。117は碗口縁部である。口径15.1 cm。口縁部は断面三角形の玉縁を呈する。118は碗底部である。高台径6.8 cm。胎土は灰白色を呈し、灰白色の釉薬を内面及び体部外面に施す。高台接地面より内側は露胎である。

119～128は瓦器である。119は楠葉型碗である。口径15.2 cm、高台径5.8 cm、器高4.2 cm。底部に断面逆三角形の高台を貼り付ける。口縁端部内面に沈線が1条巡る。体部内面に横方向のミガキを密に施し、見込みに螺旋状の暗文を施す。120は三足羽釜である。口径11.6 cm。鐳の端部は欠損するが、1 cm程度の幅と考えられる。口縁部はナデにより段が付く。体部内面には横方向のハケ調整を施す。121～123は羽釜である。121・123は幅1 cm程度、122は幅2 cm程度の鐳を貼り付ける。体部外面にオサエの指頭痕が残り、口縁部はナデ調整、口縁部及び体部内面は横方向のハケ調整を施す。124・125は鍋である。124は口径26.8 cm、125は口径を復元できなかった。いずれも口縁部はL字状を呈し、端部上面はナデにより僅かに凹む。126～128は鉢である。いずれも口径は復元できなかった。口縁端部は内外に拡張し、上端に面を持つ。

これら図示した5層の遺物の大半は6B～6C段階に属し、13世紀前半～中頃の所産と考えられる。

#### 4層(図19 129・130)

129は青磁碗底部である。龍泉窯系と考えられる。高台径5.4 cm。断面方形の高台を削り出す。胎土は灰白色を呈し、灰オリーブ色の釉薬を施す。高台接地面及び高台内側は露胎である。

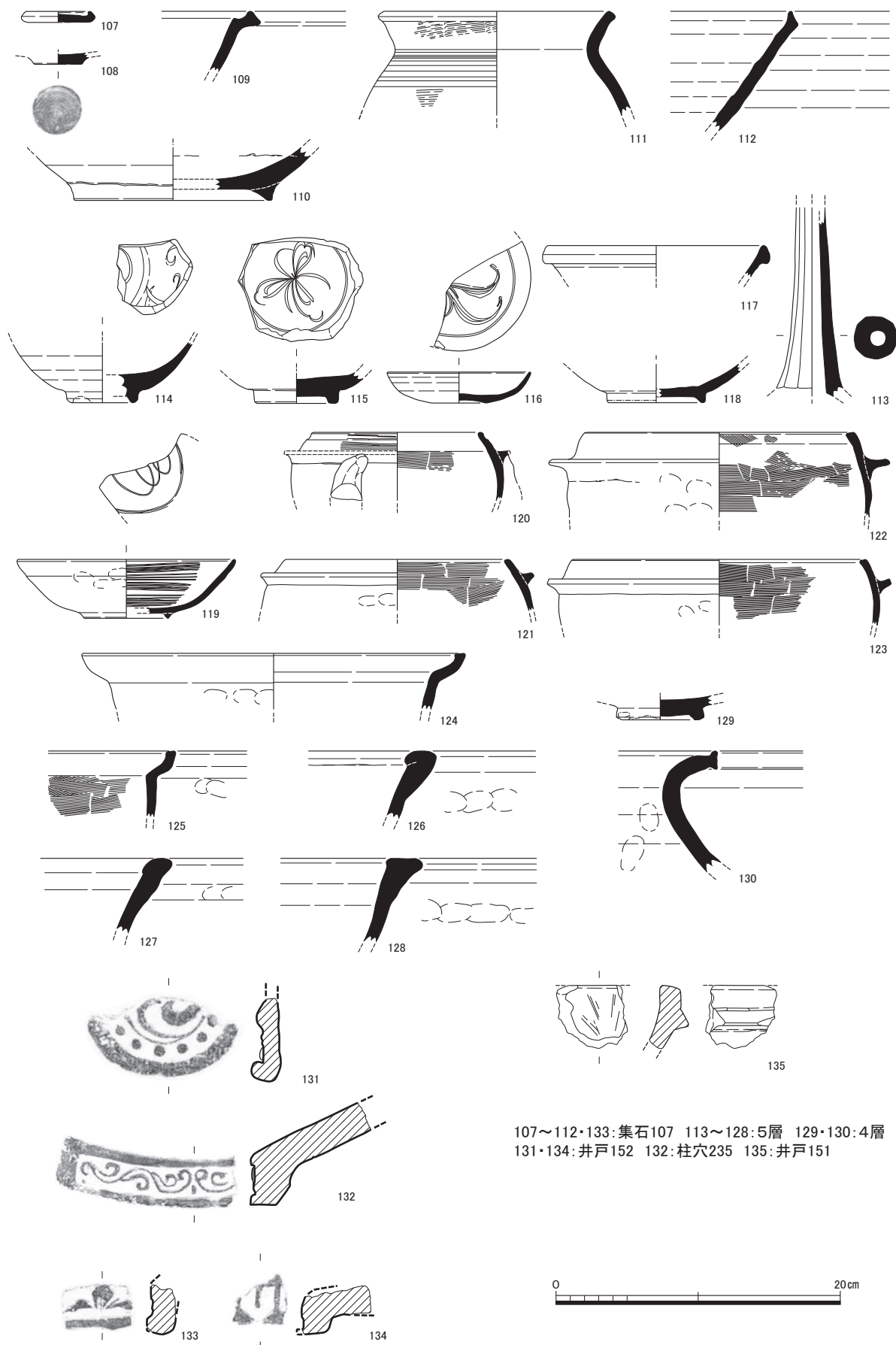


図19 出土遺物3 (1:4)

130 は焼締陶器甕である。常滑産である。口縁部は短く外反し、端部は上下に拡張する。13 世紀後半の所産。

## (2) 瓦 (図 19 131 ~ 134)

### 軒丸瓦 (131)

131 は右巻き三巴文軒丸瓦である。巴頭部はやや尖り、尾部は長く伸び互いに接する。外区に珠文が巡る。鎌倉時代の所産か。井戸 152 から出土。

### 軒平瓦 (132 ~ 134)

132 は均整唐草文軒平瓦である。瓦当部形成は折り曲げ技法。平瓦部凹面は布目が残る。顎部は横方向にヘラケズリし、顎部は横方向のナデを施す。平瓦部凸面はオサエの後工具によるナデを施す。平安時代後期の所産で中央官衛系。柱穴 235 から出土。133 は半裁花文軒平瓦である。顎部は横方向のナデを施す。集石 107 から出土。平安時代後期の所産で播磨産か。134 は剣頭文軒平瓦である。瓦当部形成は折り曲げ技法。顎部は横方向のナデを施す。平安時代末～鎌倉時代初頭の所産で中央官衛系。

## (3) 石製品 (図 19 135)

135 は滑石鍋である。口径は復元できなかった。断面三角形の鏝を削り出す。内面は使用によりなめらかになる。

### 註

(1) 徳留大輔氏 (出光美術館) のご教示による。

### 参考文献

『平安京提要』角川書店 1994 年

『古代の土器研究 平安時代の緑釉陶器－生産地の様相を中心に－』古代の土器研究会 2003 年

『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会 真陽社 1995 年

『京から出土する土器の編年的研究』小森俊寛 2005 年

「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究 13・14』上原真人 元興寺文化財研究所考古学研究室 1978 年

「平安後期の軒瓦に関する基礎的研究」『考古学論考 - 小林行雄博士古稀記念論考 -』上原真人 1982 年

## 第Ⅳ章 まとめ

今回の調査では、平安時代～近代初頭までの遺構を検出した。中心となるのは鎌倉時代前半の遺構群である。

本調査地が位置する平安京左京九条三坊八町（以下、「平安京左京九条三坊」を省略）ではこれまでに、宅地の南東角において2017年に公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下、「埋文研2017年調査」という）、本調査地の西隣において2018年に古代文化調査会（以下、「古代文化2018年調査」という）により調査が実施されている。また、東隣の九町において2017年に公益財団法人元興寺研究所（以下、「元興寺2017年調査」という）、南東の十町において2013年に京都市埋蔵文化財研究所（以下、「埋文研2013年調査」という）により調査が実施されている。以下に、これら既往調査と本調査で得られた成果を基に、八町内の土地利用の変遷を記述する。

### 1 平安時代（図20）

この時期の遺構は、流路179・280がある。共に北西から南東方向に流れる流路で、流路280からは9～10世紀の遺物が出土した。調査地周辺においても埋文研2013年・2017年調査、元興寺2017年調査において北西から南東方向にやや蛇行しながら流れる流路が検出されている。今回検出した流路179・280は、流下方向から元興寺の調査で検出されたSD1750に接合もしくは合流する可能性が考えられる。埋文研2017年調査では、流路の方向に規制された耕作に伴うとみられる素掘り溝も検出され、八町の宅地内及びその周辺では自然地形を基とした土地利用であったことが確認されている。本調査においても同時期の流路が検出され、10世紀に流路が埋没する以前には宅地の開発は自然地形に即したものであったと考えられる。

### 2 鎌倉時代

鎌倉時代に入ると遺構数が激増し、本調査での検出遺構の大半が当該期に属する。鎌倉時代前半（13世紀代）に複数回の整地が行なわれており、本調査では5 a層上面、5 b層上面、6・7層上面の3面で当該期の遺構を検出した。6層は部分的に分布する状況であったが、5 a・5 b層は調査区の全域に存在している。各上面での遺構の時期は、5 a層上面で13世紀後半（6 C～7 A段階）、5 b層上面で13世紀前半～中頃（6 B～6 C段階）、6・7層上面で13世紀前半（6 B段階）である。埋文研2017年調査や古代文化2018年調査においても鎌倉時代の検出遺構は3期に細分されることが確認されている。以下に、本調査で検出した鎌倉時代の各遺構面を既往調査で区分された3時期に当てはめ、変遷と各時期の様相を記述する。

#### 1 期（図21）

本調査では6・7層上面の遺構群にあたる。周辺調査での主な検出遺構は、埋文研2017年調査では井戸3基（井戸700・801・883）、古代文化2018年調査では溝1条（溝140）があり、宅地の利用が始まったと推定される時期である。本調査では柵4条（柵285～288）、溝3条（溝237・247・

270)、建物の可能性がある複数の柱穴があり、宅地内の区割と想定される遺構が多い。本調査で検出した東西方向の柵 285～287 及び溝 237・270 は北三・四門境界から 1～2 m 北に位置し、北三・四門境界推定ラインに近い位置で検出している。後述する 2 期以降は、検出された針小路北側溝が条坊推定ラインから南にずれる状況が確認されているが、宅地利用の始まった 13 世紀前半の段階では四行八門推定ラインに近い区割であった可能性を考える。柵 285～287、溝 270 は近接する位置で検出しており、何度かの建替えなどが行なわれたと考えられる。溝 270 の埋没後に柵を構成する柱穴が掘られており、溝から柵へと変更されたものと考えられる。これらの柵や溝は宅地内を区画するものの可能性はあるが、敷地の規模はこれまでの調査成果からは不明である。調査区の南半で建物の可能性のある柱穴を複数検出したが、検出した柱穴の大きさからは比較的小規模な建物が想定される。既往の調査において、埋文研の調査では井戸が検出されているのみで、建物は検出されていない。

これまでの調査で検出された遺構からは、宅地利用が始まったと想定される当該期で広範囲の宅地利用を示す状況は確認できないが、溝 270 から出土した吉州窯産天目茶碗からは、経済力を持った有力者の存在が想起される。この天目茶碗が本宅地居住者の所有であるとすれば小規模な区割りの土地所有は考えにくく、溝 270 は同一の敷地内に設けられた区画溝の可能性も考えられる。しかしながら、天目茶碗の所有者が本宅地居住者であったとする判断は現時点では難しく、今後、周辺での調査により、当該期における本宅地の利用状況を示す成果の増加が望まれる。

## 2 期 (図 22)

本調査では 5 b 層上面の遺構群にあたり、本格的に宅地の開発が進む時期である。周辺調査での主な検出遺構は、埋文研 2017 年調査では針小路路面 (道路 640) 及び同北側溝 (溝 593 a)、仏堂の可能性のある礎石建物 (建物 4)、柵 2 列 (柵 4・5) があり、古代文化 2018 年調査では掘立柱建物 2 がある。本調査では主な遺構として井戸 4 基 (井戸 151・152・176・200)、溝 1 条 (溝 205)、複数の土坑があり、建物や柵は検出されなかった。井戸は、井戸 152 が 6 B 段階、井戸 200 が 6 B～6 C 段階、井戸 151 が 6 C 段階と時期差がみられる。

1 期では北三・四門境界の北側に複数の柵や溝、西三・四行の東側に柵が検出されたが、2 期ではそれらが無くなっており宅地内の区割りが変化したものと考えられる。埋文研 2017 年調査で検出された仏堂の可能性のある礎石建物や、本調査において井戸 151 から出土した青白磁托から当該期の本宅地居住者は経済力を持つ有力者が想起され、宅地内を広域に利用していた可能性が想定される。宅地内での敷地占有規模や敷地内の利用状況の復元は今後の課題である。

また、埋文研 2017 年調査で検出された針小路北側溝は築地推定ラインより約 4 m 南で検出されており、宅地の南限が下がる状況が確認されている。宅地内の四行八門制の地割も同様に南にずれる可能性も想定されるが、これまでの調査では宅地内の地割に関する遺構は検出されていない。宅地内の地割がどのように規制されていたかの検証も、今後の課題であろう。

## 3 期 (図 23)

本調査では 5 a 層上面の遺構群にあたる。周辺調査での主な検出遺構は、埋文研 2017 年調査で

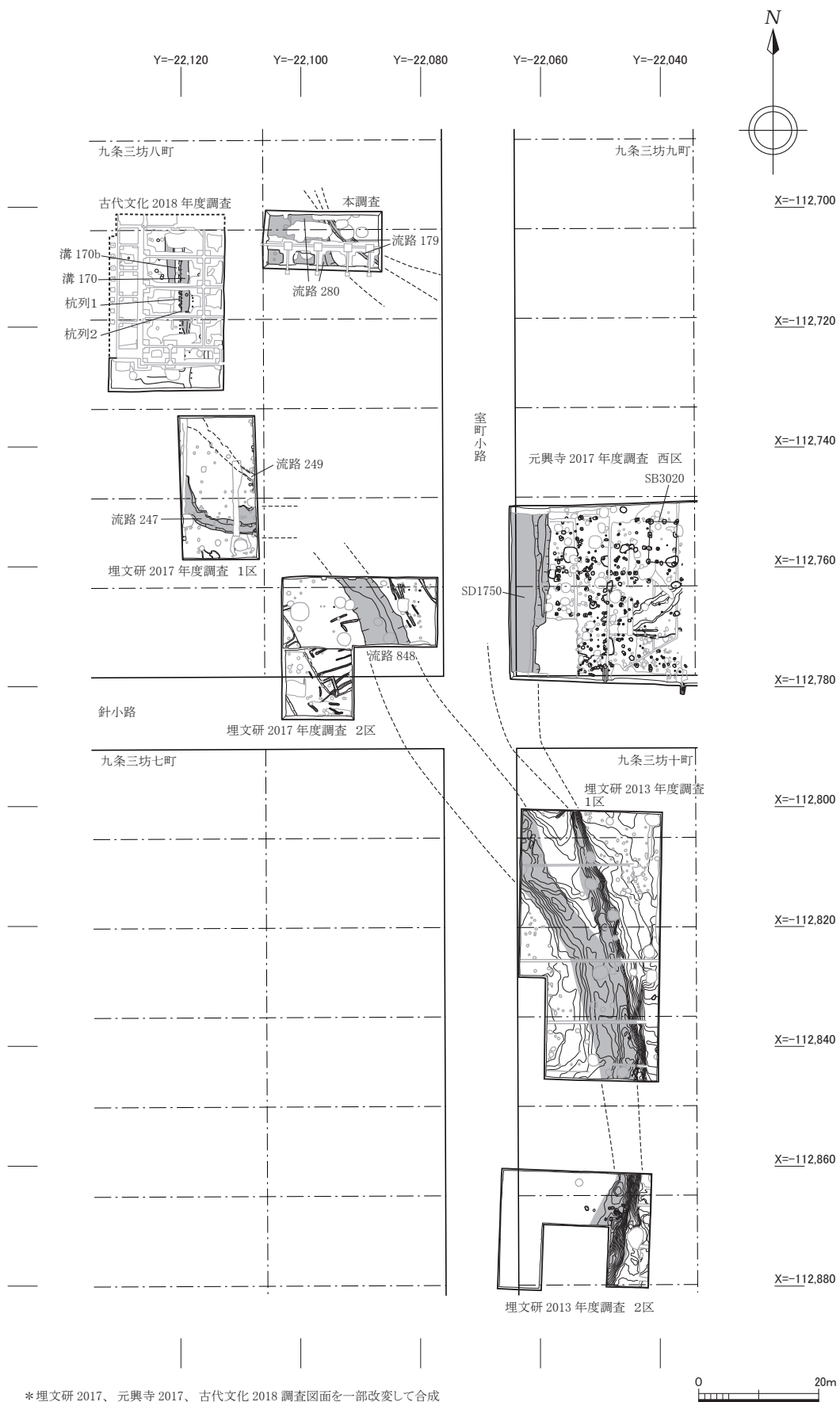


図20 平安時代遺構概要図 (1 : 1,000)

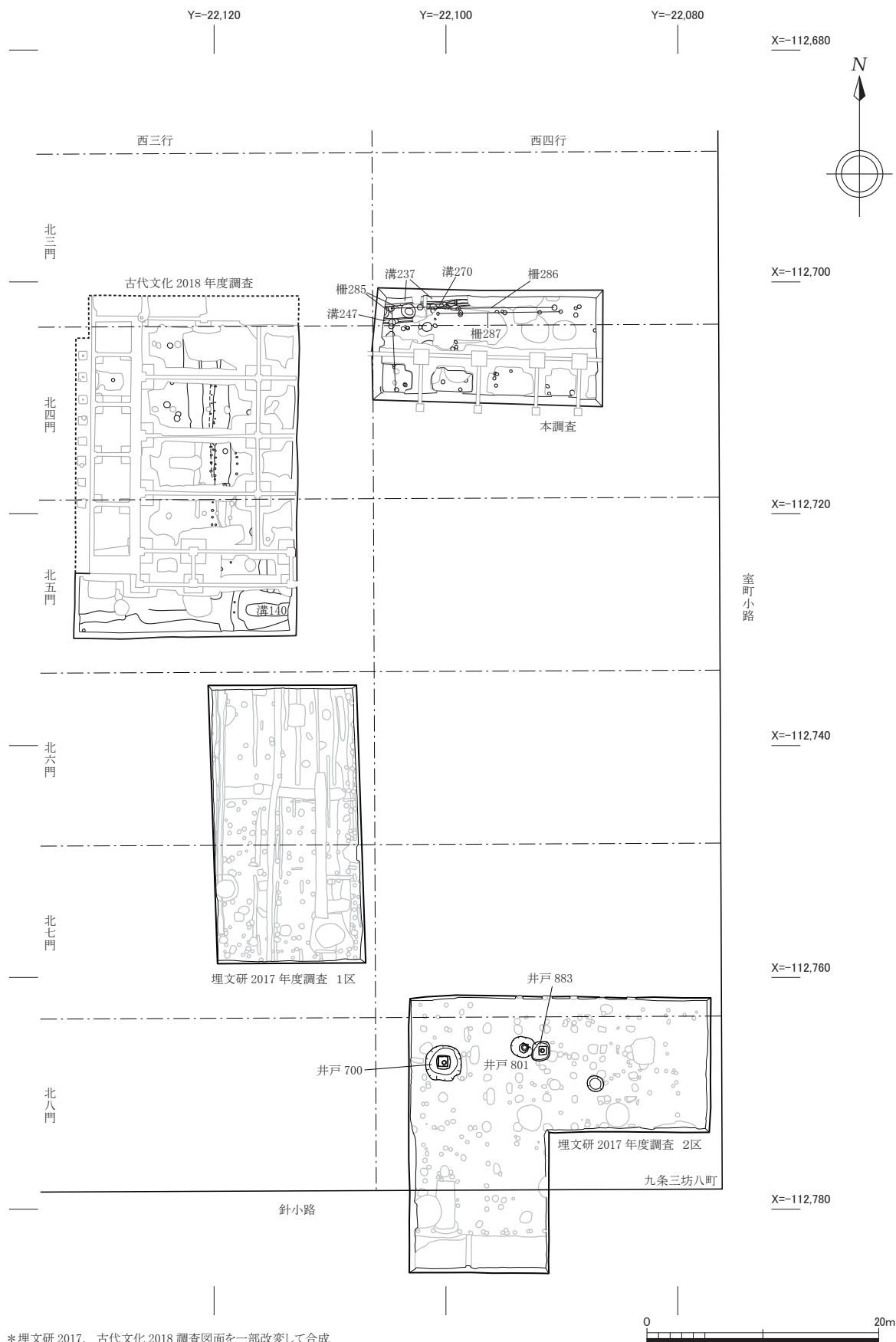


図21 鎌倉時代遺構概要図1 (1 : 500)

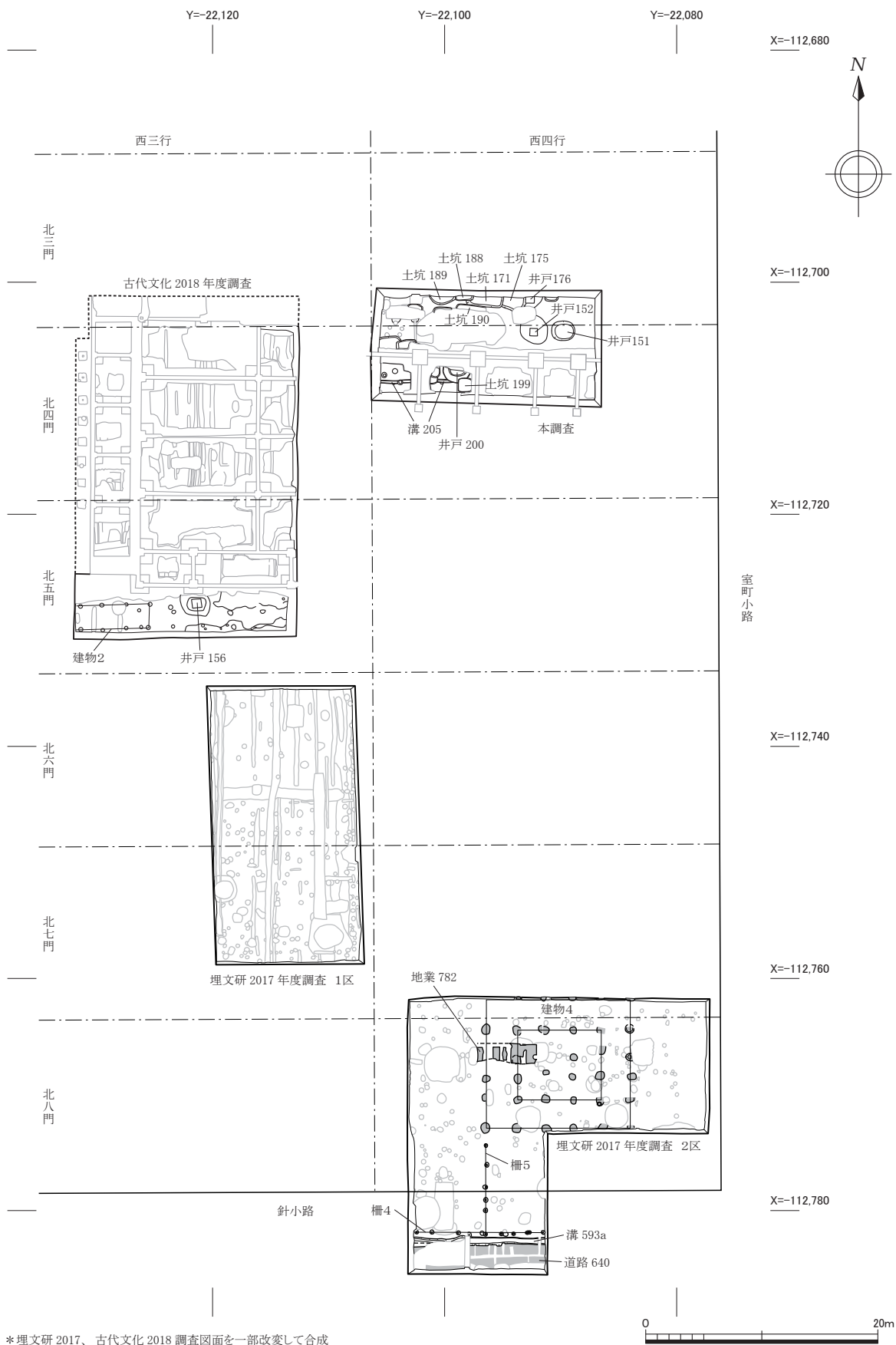
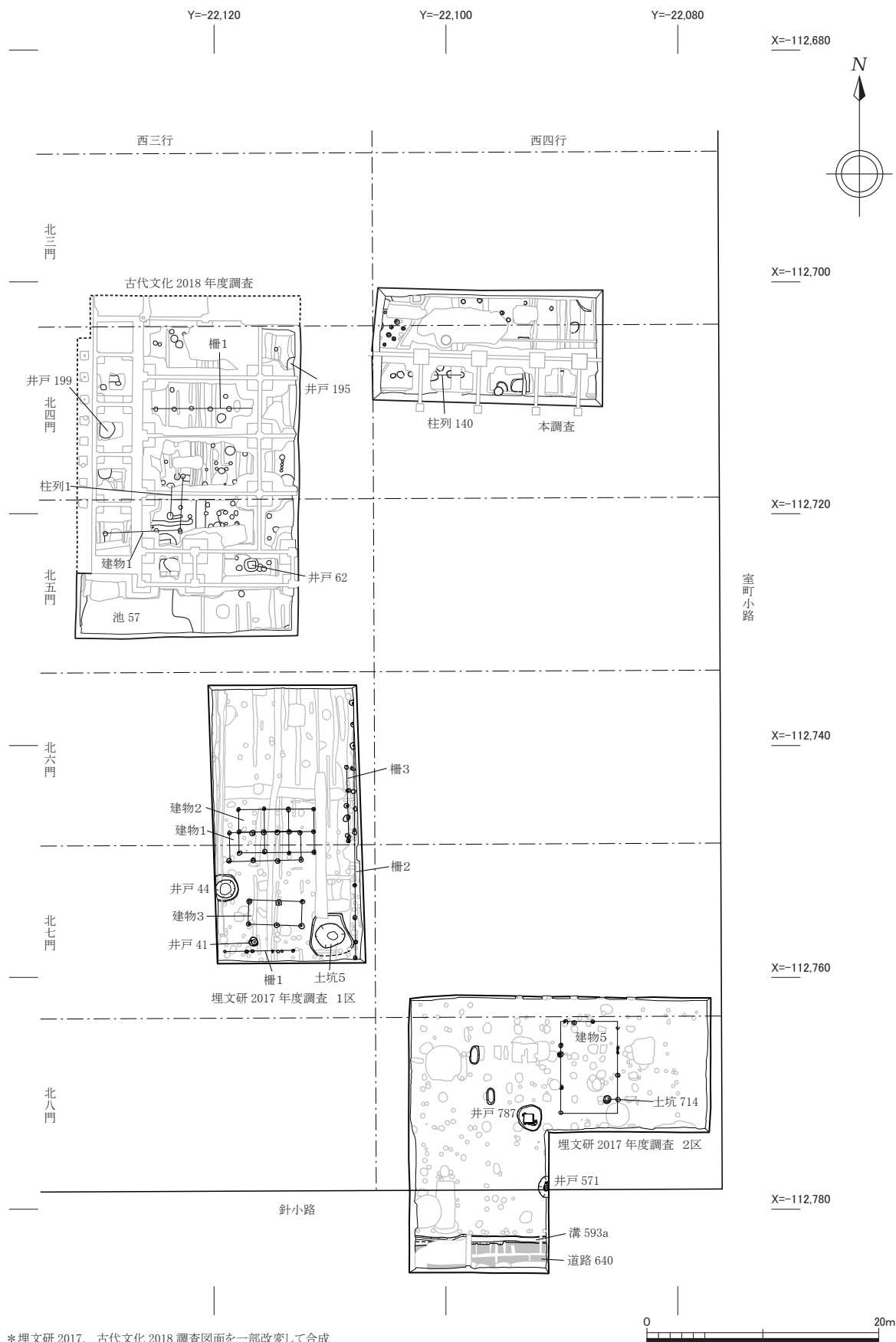


図22 鎌倉時代遺構概要図2 (1 : 500)



\*埋文研 2017、古代文化 2018 調査図面を一部改变して合成

図23 鎌倉時代遺構概要図3 (1 : 500)

は掘立柱建物4棟（建物1～3・5）、柵2列（柵2・3）井戸4基（井戸5・44・571・787）、古代文化2018年調査では建物1棟（建物1）、柵1列（柵1）柱列1列（柱列1）、井戸2基（井戸62・199）がある。本調査では柱列140と複数の柱穴がある。調査地の東半には整地の一環と考える集石107・108を検出している。柱列140は礎石建物の基礎の可能性を考えたが、他に同様の柱穴は検出できず詳細は不明である。その他の検出した柱穴は径0.3m前後の大きさであり、埋文研・古代文化の調査において検出された掘立柱建物と同様の小規模な建物が想定される。

3期では、2期での宅地を広域に利用する状況から、柵により宅地を細分して利用する状況へと変化している。埋文研2017年調査では小規模な掘立柱建物とそれに付随する井戸が検出され、古代文化2018年調査では西三行、北四・五門で柵1、建物1、池57が検出され、柵1を敷地の北限とした2戸主単位の敷地が想定されている。本調査では宅地の区割を示す遺構は検出されなかったが、古代文化2018年調査で検出された柵1が東に延長するとすれば、調査区南壁付近を敷地南限とした1ないし2戸主の敷地が想定できるであろうか。また、この柵1は北三・四門境界推定ラインより南に約7mずれており、四行八門制の地割が宅地南限と同様に南に移動している可能性が高い。

### 3 室町時代以降

室町時代にはそれまで存在した居住関連の遺構は姿を消し、耕作に関連する溝が中心となる。東隣の九町では鎌倉時代末～室町時代初頭（14世紀中葉）まで屋敷が存在することが確認されているが、八町ではそれよりも早い時期に耕地化している。以降は、本調査地周辺は明治初頭まで耕作地として利用されている。

#### 参考・引用文献

鈴木康高・松吉祐希「平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡」 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2017年  
小松武彦「平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡」 古代文化調査会 2018年  
佐藤亜聖・坂本俊・川本耕三・上井佐妃・渡邊緩子・隅 英彦・平尾良光「平安京左京九条三坊九町跡・烏丸町遺跡」 公益財団法人元興寺文化財研究所 2019年

表4 遺物観察表

( )は残存値

| 掲載番号 | 器種    | 器形    | 出土遺構      | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 色調                                 | 備考      |
|------|-------|-------|-----------|------------|------------|------------|------------------------------------|---------|
| 1    | 古式土師器 | 高杯    | 集石 107    | -          | (4.3)      | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                      |         |
| 2    | 須恵器   | 杯B    | 流路 280    | -          | (2.2)      | 10.8       | 5Y7/1 灰白                           |         |
| 3    | 須恵器   | 杯B    | 井戸 152 掘方 | -          | (3.0)      | 7.6        | 5Y6/1 灰                            |         |
| 4    | 須恵器   | 杯B    | 5 層       | -          | (2.3)      | 7.0        | N7/0 灰白                            |         |
| 5    | 緑釉陶器  | 椀     | 井戸 152 掘方 | -          | (3.0)      | 8.3        | (釉) 明緑灰<br>(胎) 2.5Y7/1 灰白          |         |
| 6    | 灰釉陶器  | 椀     | 井戸 151    | 16.8       | 5.1        | 8.4        | (釉) 5Y7/2 灰白<br>(胎) 5Y7/1 灰白       |         |
| 7    | 灰釉陶器  | 椀     | 5 b 層     | -          | (1.5)      | 6.8        | (釉) 5Y7/2 灰白<br>(胎) 5Y8/1 灰白       |         |
| 8    | 灰釉陶器  | 椀     | 5 層       | -          | (2.2)      | 7.2        | N7/0 灰白                            |         |
| 9    | 土師器   | 皿 S   | 井戸 152 掘方 | 12.7       | 2.9        | -          | 7.5YR7/4 にぶい橙                      |         |
| 10   | 瓦器    | 椀     | 井戸 152 掘方 | 11.9       | (3.3)      | -          | N3/0 暗灰                            |         |
| 11   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 152    | 7.8        | 1.6        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                      |         |
| 12   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 152    | 8.0        | 1.5        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                      |         |
| 13   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 152    | 12.2       | 2.2        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                      |         |
| 14   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 152    | 12.6       | 2.2        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                      |         |
| 15   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 152    | 12.8       | 2.6        | -          | 7.5YR8/4 浅黄橙                       |         |
| 16   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 152    | 13.2       | 2.5        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                      |         |
| 17   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 152    | 13.7       | 2.2        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                      |         |
| 18   | 青磁    | 椀     | 井戸 152    | -          | (2.2)      | 4.7        | (釉) 2.5GY7/1 明オリーブ灰<br>(胎) N7/0 灰白 |         |
| 19   | 白磁    | 椀     | 井戸 152    | -          | (4.4)      | -          | (釉) 7.5Y7/2 灰白<br>(胎) N7/0 灰白      |         |
| 20   | 瓦器    | 鉢     | 井戸 152    | -          | (5.0)      | -          | N3/0 暗灰                            |         |
| 21   | 焼締陶器  | 甕     | 井戸 152    | -          | (5.2)      | 6.8        | 5Y8/1 灰白                           | 常滑      |
| 22   | 焼締陶器  | 甕     | 井戸 152    | -          | (6.9)      | 10.8       | 10YR5/1 褐灰                         | 常滑      |
| 23   | 土師器   | 皿 N   | 土坑 171    | 13.2       | 2.4        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                      |         |
| 24   | 土師器   | 皿 N   | 土坑 171    | 13.8       | 2.1        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                      |         |
| 25   | 青磁    | 椀     | 土坑 171    | 16.0       | (4.2)      | -          | (釉) 5Y6/4 オリーブ黄<br>(胎) 5Y7/1 灰白    |         |
| 26   | 青磁    | 椀     | 土坑 171    | 16.8       | (5.4)      | -          | (釉) 2.5GY6/1 オリーブ灰<br>(胎) N 6/0 灰  |         |
| 27   | 白磁    | 椀     | 土坑 171    | 15.4       | (2.1)      | -          | (釉) 5Y7/2 灰<br>(胎) 5Y8/1 灰白        |         |
| 28   | 白磁    | 壺     | 土坑 171    | -          | (9.2)      | -          | (釉) 7.5Y7/2 灰白<br>(胎) N 8/0 灰白     | 四耳壺     |
| 29   | 土師器   | 皿 A c | 井戸 200    | 5.0        | 1.0        | -          | 10YR8/2 灰白                         |         |
| 30   | 土師器   | 皿 S   | 井戸 200    | 8.3        | 2.3        | -          | 10YR8/3 浅黄橙                        |         |
| 31   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 200    | 8.2        | 1.3        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                      | 口縁部に煤付着 |
| 32   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 200    | 8.4        | 1.4        | -          | 7.5YR7/3 にぶい橙                      |         |
| 33   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 200    | 8.9        | 1.5        | -          | 10YR8/3 浅黄橙                        |         |
| 34   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 200    | 11.9       | 2.1        | -          | 7.5YR7/4 にぶい橙                      |         |
| 35   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 200    | 12.2       | 2.5        | -          | 7.5YR7/4 にぶい橙                      |         |
| 36   | 土師器   | 皿 N   | 井戸 200    | 12.6       | 2.0        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                      |         |
| 37   | 青磁    | 皿     | 井戸 200    | 10.9       | 2.1        | 4.9        | (釉) 10Y6/2 オリーブ灰<br>(胎) N 7/0 灰白   |         |
| 38   | 青磁    | 椀     | 井戸 200    | -          | (4.2)      | 6.8        | (釉) 5Y6/3 オリーブ黄<br>(胎) 5Y7/1 灰白    |         |
| 39   | 青白磁   | 皿     | 井戸 200    | -          | (1.1)      | 5.0        | (釉) 10GY7/1 明緑灰<br>(胎) N 7/0 灰白    |         |

| 掲載番号 | 器種   | 器形      | 出土遺構   | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 色調                                  | 備考  |
|------|------|---------|--------|------------|------------|------------|-------------------------------------|-----|
| 40   | 白磁   | 壺       | 井戸 200 | -          | (6.1)      | 7.5        | (釉) 10Y8/1 灰白<br>(胎) N 8/0 灰白       |     |
| 41   | 須恵器  | 鉢       | 井戸 200 | -          | (10.2)     | -          | N6/0 灰                              | 東播系 |
| 42   | 須恵器  | 甕       | 井戸 200 | -          | (10.8)     | -          | N6/0 灰                              |     |
| 43   | 瓦器   | 鍋       | 井戸 200 | 26.6       | (7.5)      | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 44   | 瓦器   | 鉢       | 井戸 200 | 34.0       | (7.2)      | -          | N2/0 黒                              |     |
| 45   | 土師器  | 皿N      | 井戸 151 | 8.5        | 1.8        | -          | 7.5YR7/4 にぶい橙                       |     |
| 46   | 土師器  | 皿N      | 井戸 151 | 8.9        | 1.8        | -          | 7.5YR6/4 にぶい橙                       |     |
| 47   | 土師器  | 皿N      | 井戸 151 | 8.9        | 1.8        | -          | 7.5YR7/4 にぶい橙                       |     |
| 48   | 土師器  | 皿S      | 井戸 151 | 10.8       | 1.9        | -          | 2.5Y8/2 灰白                          |     |
| 49   | 土師器  | ミニチュア羽釜 | 井戸 151 | 5.4        | 2.8        | -          | 10YR8/3 浅黄橙                         |     |
| 50   | 輸入陶器 | 盤       | 井戸 151 | -          | (2.7)      | -          | (釉) 10YR8/1 灰白<br>(胎) 7.5YR6/4 にぶい橙 |     |
| 51   | 青白磁  | 托       | 井戸 151 | 4.6        | 3.0        | 2.7        | (釉) 10Y8/1 灰白<br>(胎) N 8/0 灰白       |     |
| 52   | 須恵器  | 鉢       | 井戸 151 | 29.3       | 10.8       | 10.2       | N6/0 灰                              | 東播系 |
| 53   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 8.0        | 1.2        | -          | 7.5YR7/3 にぶい橙                       |     |
| 54   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 8.0        | 1.2        | -          | 10YR8/2 灰白                          |     |
| 55   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 8.0        | 1.4        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 56   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 8.2        | 1.4        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 57   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 8.3        | 1.4        | -          | 7.5YR7/3 にぶい橙                       |     |
| 58   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 11.0       | 2.5        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 59   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 12.0       | 3.0        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 60   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 12.2       | 2.8        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 61   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 12.6       | 2.0        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 62   | 土師器  | 皿N      | 土坑 117 | 12.8       | 2.1        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 63   | 土師器  | 皿S      | 土坑 117 | 8.8        | 2.2        | -          | 10YR8/2 灰白                          |     |
| 64   | 土師器  | 皿S      | 土坑 117 | 9.8        | 2.2        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 65   | 土師器  | 皿S      | 土坑 117 | 12.8       | 3.2        | -          | 10YR8/2 灰白                          |     |
| 66   | 青磁   | 碗       | 土坑 117 | -          | (2.3)      | 5.0        | (胎) N 8/0 灰白                        |     |
| 67   | 瓦器   | 碗       | 土坑 117 | -          | (1.2)      | 5.2        | N4/0 灰                              |     |
| 68   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 7.7        | 1.7        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 69   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.0        | 1.7        | -          | 7.5YR7/3 にぶい橙                       |     |
| 70   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.2        | 1.6        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 71   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.2        | 1.7        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 72   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.3        | 1.4        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 73   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.4        | 1.4        | -          | 7.5YR7/4 にぶい橙                       |     |
| 74   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.4        | 1.4        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 75   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.8        | 1.4        | -          | 10YR6/2 灰黄褐                         |     |
| 76   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 8.8        | 1.7        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 77   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 9.2        | 2.0        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                       |     |
| 78   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 12.0       | 2.3        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                       |     |
| 79   | 土師器  | 皿N      | 土坑 138 | 12.1       | 2.3        | -          | 7.5YR7/3 にぶい橙                       |     |

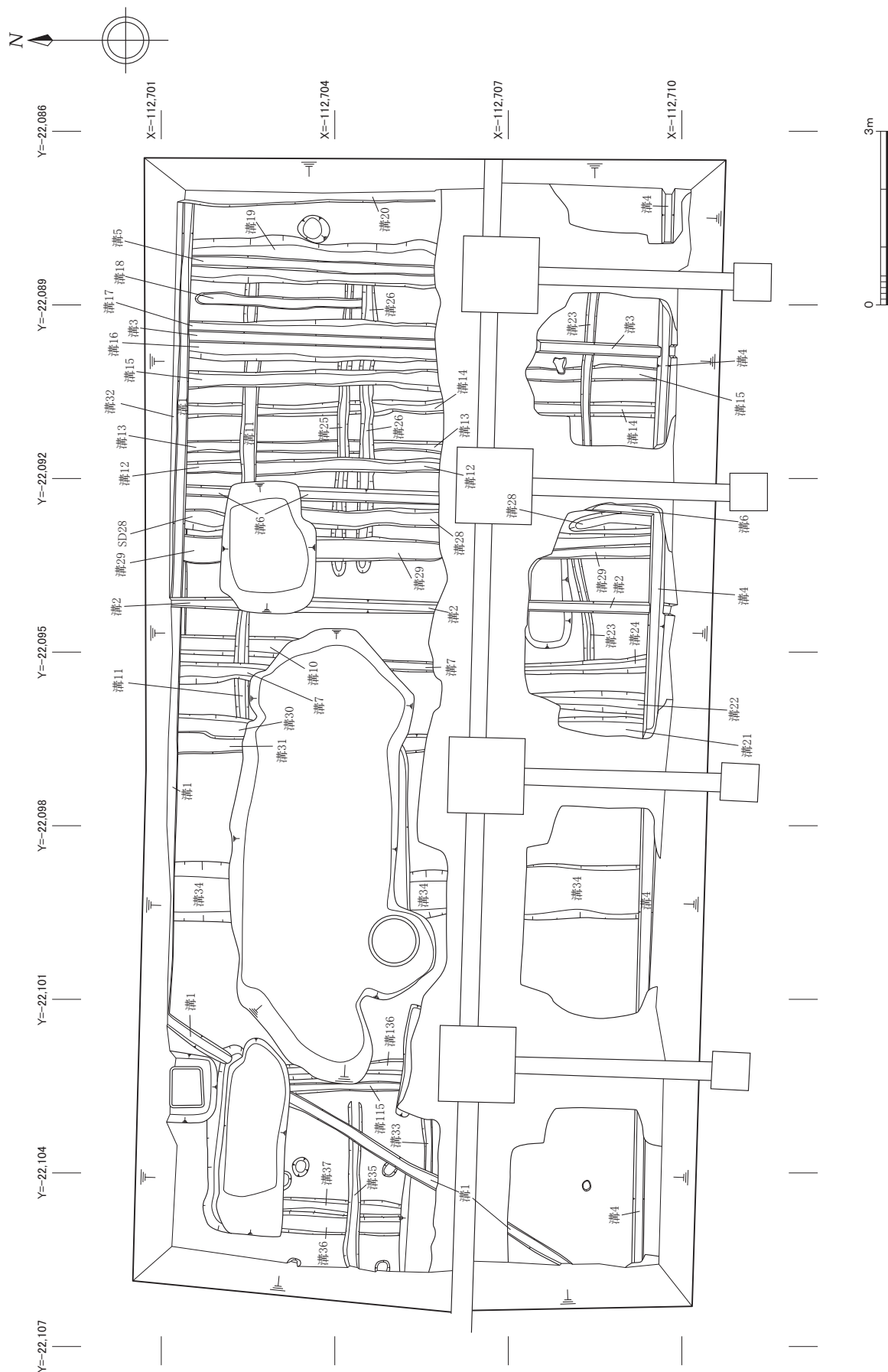
| 掲載番号 | 器種   | 器形    | 出土遺構   | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 色調                                | 備考   |
|------|------|-------|--------|------------|------------|------------|-----------------------------------|------|
| 80   | 土師器  | 皿 N   | 土坑 138 | 12.1       | 2.4        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                     |      |
| 81   | 土師器  | 皿 N   | 土坑 138 | 12.4       | 2.4        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                     |      |
| 82   | 土師器  | 皿 N   | 土坑 138 | 12.5       | 2.6        | -          | 10YR7/4 にぶい黄橙                     |      |
| 83   | 土師器  | 皿 N   | 土坑 138 | 12.9       | 2.5        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                     |      |
| 84   | 土師器  | 皿 S   | 土坑 138 | 12.3       | 3.3        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 85   | 土師器  | 皿 S   | 土坑 138 | 13.0       | 3.1        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 86   | 土師器  | 皿 S   | 土坑 138 | 13.3       | 3.2        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 87   | 須恵器  | 鉢     | 土坑 138 | 17.0       | 11.5       | 7.0        | N5/0 灰                            | 東播系  |
| 88   | 須恵器  | 鉢     | 土坑 138 | -          | (9.4)      | 9.0        | 2.5Y7/2 黄灰                        | 東播系  |
| 89   | 土師器  | 皿 A c | 土坑 206 | 8.0        | 1.3        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 90   | 白色土器 | 高杯    | 土坑 206 | -          | (7.9)      | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                     |      |
| 91   | 土師器  | 皿 N   | 土坑 221 | 8.2        | 1.3        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 92   | 須恵器  | 鉢     | 土坑 221 | -          | (2.9)      | -          | N5/0 灰                            | 東播系  |
| 93   | 土師器  | 皿 N   | 溝 237  | 9.4        | 1.9        | -          | 10YR7/3 にぶい黄橙                     |      |
| 94   | 陶器   | 鉢     | 溝 237  | -          | (3.3)      | -          | 10YR5/3 にぶい黄橙                     |      |
| 95   | 土師器  | 皿 N   | 溝 247  | 13.0       | 2.2        | -          | 10YR7/2 にぶい黄橙                     |      |
| 96   | 須恵器  | 鉢     | 溝 247  | -          | (1.8)      | 11.0       | N4/0 灰                            | 東播系  |
| 97   | 土師器  | 皿 N   | 柱穴 130 | 12.0       | 2.1        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 98   | 土師器  | 皿 S   | 柱穴 272 | 13.4       | 3.7        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 99   | 瓦器   | 皿     | 柱穴 112 | 8.2        | 1.7        | -          | N3/0 暗灰                           |      |
| 100  | 瓦器   | 椀     | 柱穴 187 | 15.3       | 7.4        | 7.4        | 2.5Y7/2 黄灰                        |      |
| 101  | 瓦器   | 椀     | 土坑 190 | 15.4       | (4.0)      | -          | N4/0 灰                            | 和泉型  |
| 102  | 白磁   | 椀     | 土坑 222 | 16.4       | (3.9)      | -          | (釉) 5Y7/2 灰白<br>(胎) 2.5Y8/1 灰白    |      |
| 103  | 白磁   | 椀     | 土坑 189 | -          | (2.4)      | 5.8        | (釉) 2.5Y8/1 灰白<br>(胎) N8/0 灰白     |      |
| 104  | 輸入陶器 | 天目茶碗  | 溝 270  | -          | (4.4)      | 3.7        | (釉) 7.5YR3/2 黒褐<br>(胎) 10YR8/2 灰白 | 吉州窯  |
| 105  | 輸入陶器 | 壺     | 柱穴 179 | 10.0       | (11.4)     | -          | N6/0 灰                            | 四耳壺か |
| 106  | 須恵器  | 鉢     | 土坑 172 | 27.8       | 10.8       | 10.2       | N7/0 灰白                           | 東播系  |
| 107  | 土師器  | 皿 A c | 集石 107 | 4.5        | 0.8        | -          | 10YR8/2 灰白                        |      |
| 108  | 白色土器 | 椀・皿   | 集石 107 | -          | (0.8)      | 3.2        | 2.5Y8/2 灰白                        |      |
| 109  | 瓦器   | 鍋     | 集石 107 | -          | (4.2)      | -          | N2/0 黒                            |      |
| 110  | 須恵器  | 鉢     | 集石 107 | -          | (3.8)      | 13.8       | 2.5Y6/1 黄灰                        |      |
| 111  | 須恵器  | 甕     | 集石 107 | 15.7       | (7.3)      | -          | N4/0 灰                            |      |
| 112  | 須恵器  | 鉢     | 集石 107 | -          | (8.4)      | -          | N6/0 灰                            | 東播系  |
| 113  | 白色土器 | 高杯    | 5 層    | -          | (13.0)     | -          | 2.5Y8/2 灰白                        |      |
| 114  | 青磁   | 椀     | 5 層    | -          | (4.2)      | 4.4        | (釉) 5Y5/3 灰オリーブ<br>(胎) 2.5Y7/2 灰黄 |      |
| 115  | 青磁   | 椀     | 5 層    | -          | (2.2)      | 5.5        | (釉) 2.5GY6/1 オリーブ灰<br>(胎) N8/0 灰白 |      |
| 116  | 白磁   | 皿     | 5 b 層  | 10.0       | 2.2        | 3.8        | (釉) 5Y7/1 灰白<br>(胎) N8/0 灰白       |      |
| 117  | 白磁   | 椀     | 5 a 層  | 15.1       | (2.2)      | -          | (釉) 5Y7/2 灰白<br>(胎) 5Y8/1 灰白      |      |
| 118  | 白磁   | 椀     | 5 層    | -          | (2.7)      | 6.8        | (釉) N8/0 灰白<br>(胎) N8/0 灰白        |      |
| 119  | 瓦器   | 椀     | 5 b 層  | 15.2       | 4.2        | 5.8        | N5/0 灰                            |      |

| 掲載番号 | 器種   | 器形  | 出土遺構   | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 色調                             | 備考   |
|------|------|-----|--------|------------|------------|------------|--------------------------------|------|
| 120  | 瓦器   | 羽釜  | 5 a 層  | 11.6       | (4.8)      | -          | N3/0 暗灰                        | 三足羽釜 |
| 121  | 瓦器   | 羽釜  | 5 層    | 15.6       | (3.6)      | -          | 10YR6/2 灰黄褐                    |      |
| 122  | 瓦器   | 羽釜  | 5 b 層  | 18.6       | (6.0)      | -          | N4/0 灰                         |      |
| 123  | 瓦器   | 羽釜  | 5 層    | 20.5       | (4.7)      | -          | N5/0 灰                         |      |
| 124  | 瓦器   | 鍋   | 5 層    | 26.8       | (4.0)      | -          | N3/0 暗灰                        |      |
| 125  | 瓦器   | 鍋   | 5 層    | -          | (4.6)      | -          | N5/0 灰                         |      |
| 126  | 瓦器   | 鉢   | 5 a 層  | -          | (4.7)      | -          | 2.5Y4/1 黄灰                     |      |
| 127  | 瓦器   | 鉢   | 5 層    | -          | (5.3)      | -          | N5/0 灰                         |      |
| 128  | 瓦器   | 鉢   | 5 a 層  | -          | (5.8)      | -          | N5/0 灰                         |      |
| 129  | 青磁   | 椀   | 4 層    | -          | (1.7)      | 5.4        | (釉) 5Y6/2 灰オリーブ<br>(胎) N8/0 灰白 |      |
| 130  | 焼締陶器 | 甕   | 4 層    | -          | (8.5)      | -          | 5YR4/2 灰褐                      | 常滑   |
| 131  | 瓦    | 軒丸瓦 | 井戸 152 | (長) (2.7)  | (瓦当径) 12.7 | -          | 10YR8/1 灰白                     |      |
| 132  | 瓦    | 軒平瓦 | 柱穴 235 | (長) (9.5)  | (幅) (11.0) | (瓦当厚) 3.4  | 2.5Y6/1 黄灰                     |      |
| 133  | 瓦    | 軒平瓦 | 集石 107 | (長) (9.2)  | (幅) (13.1) | (瓦当厚) 3.9  | N4/0 灰                         |      |
| 134  | 瓦    | 軒平瓦 | 井戸 152 | (長) (2.8)  | (幅) (6.5)  | (瓦当厚) 4.1  | 2.5Y8/2 灰白                     |      |
| 135  | 石製品  | 石鍋  | 井戸 151 | -          | (4.5)      | -          |                                |      |

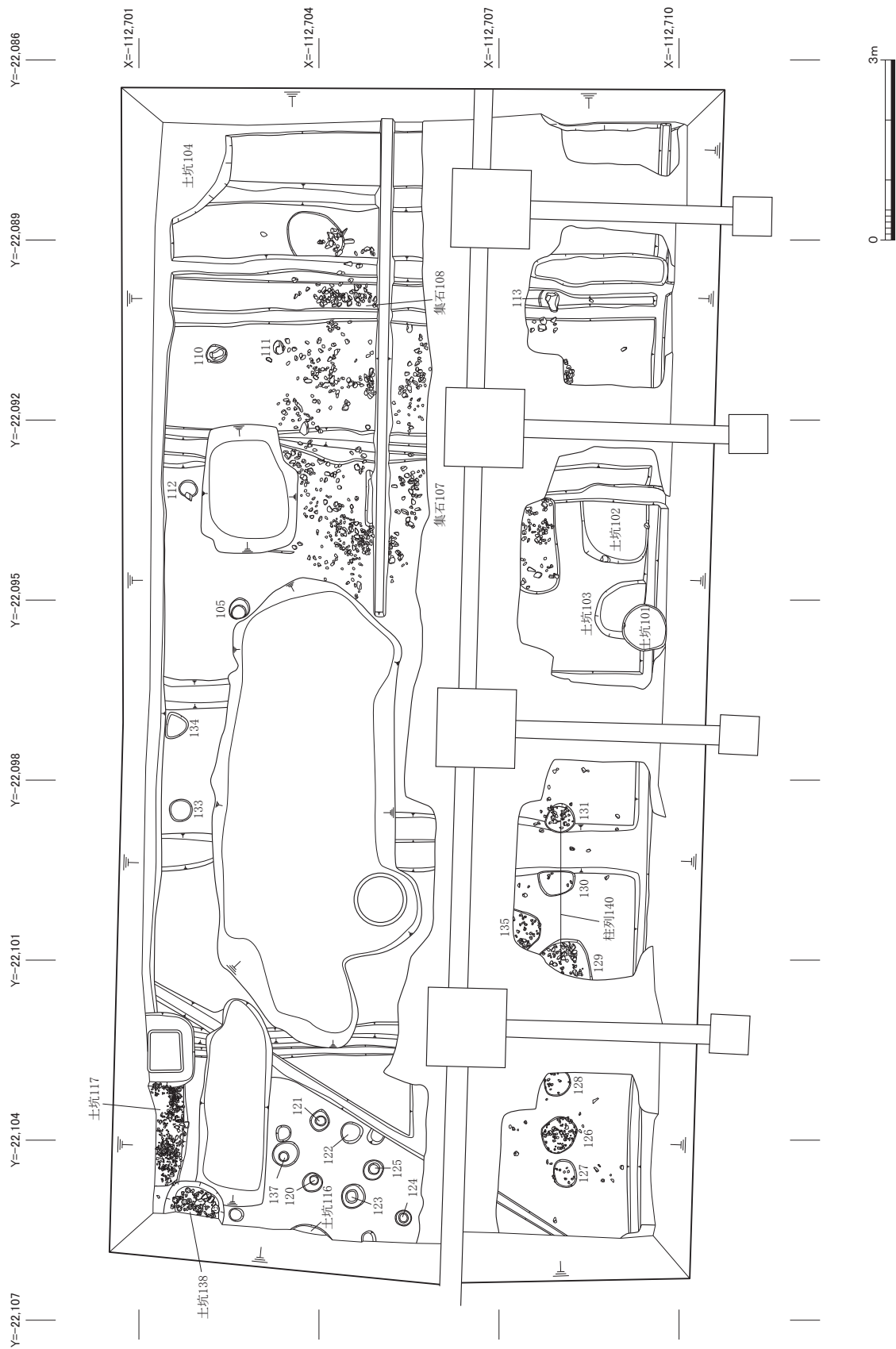
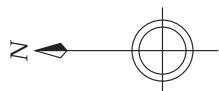


# 図 版

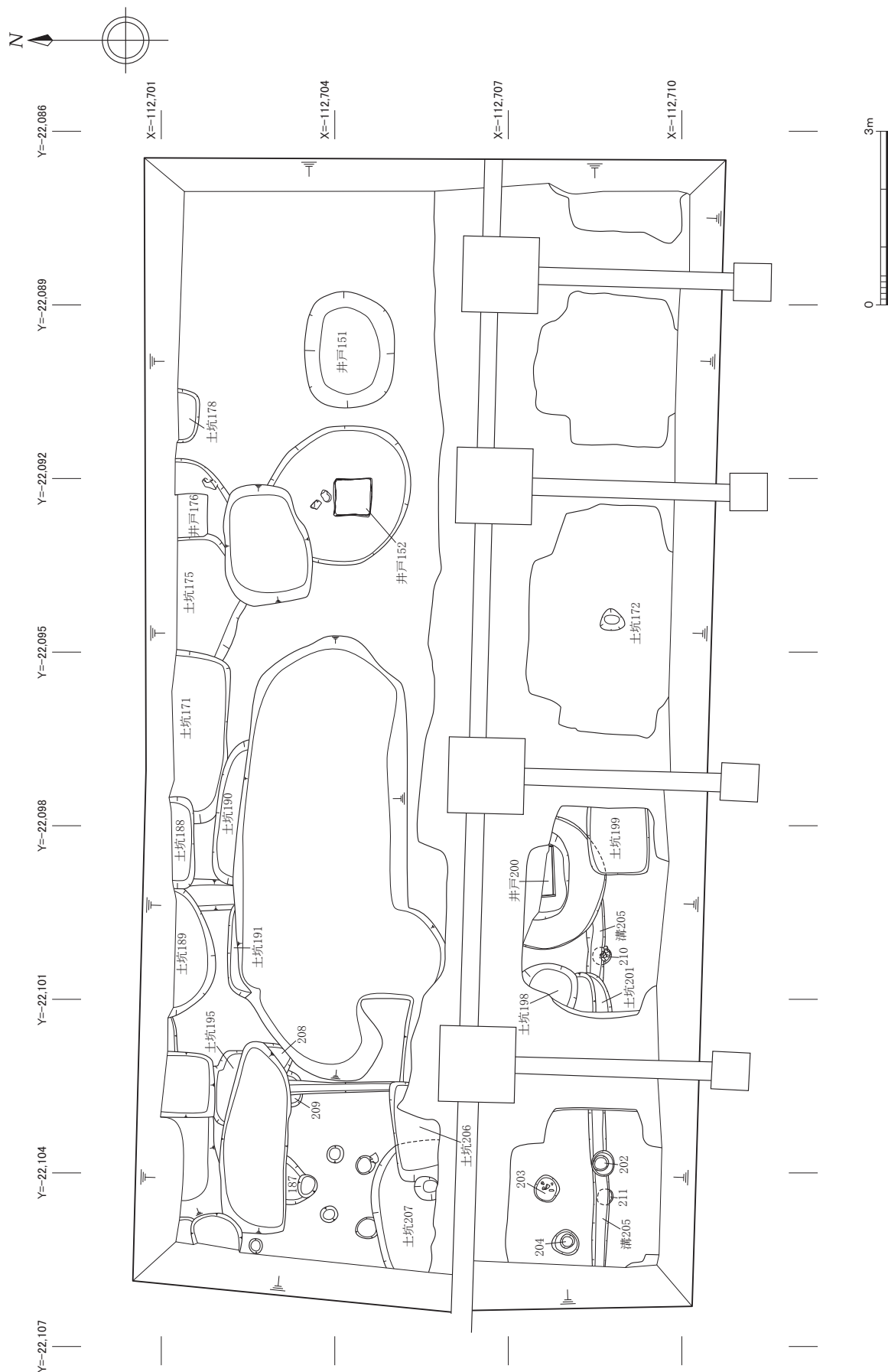




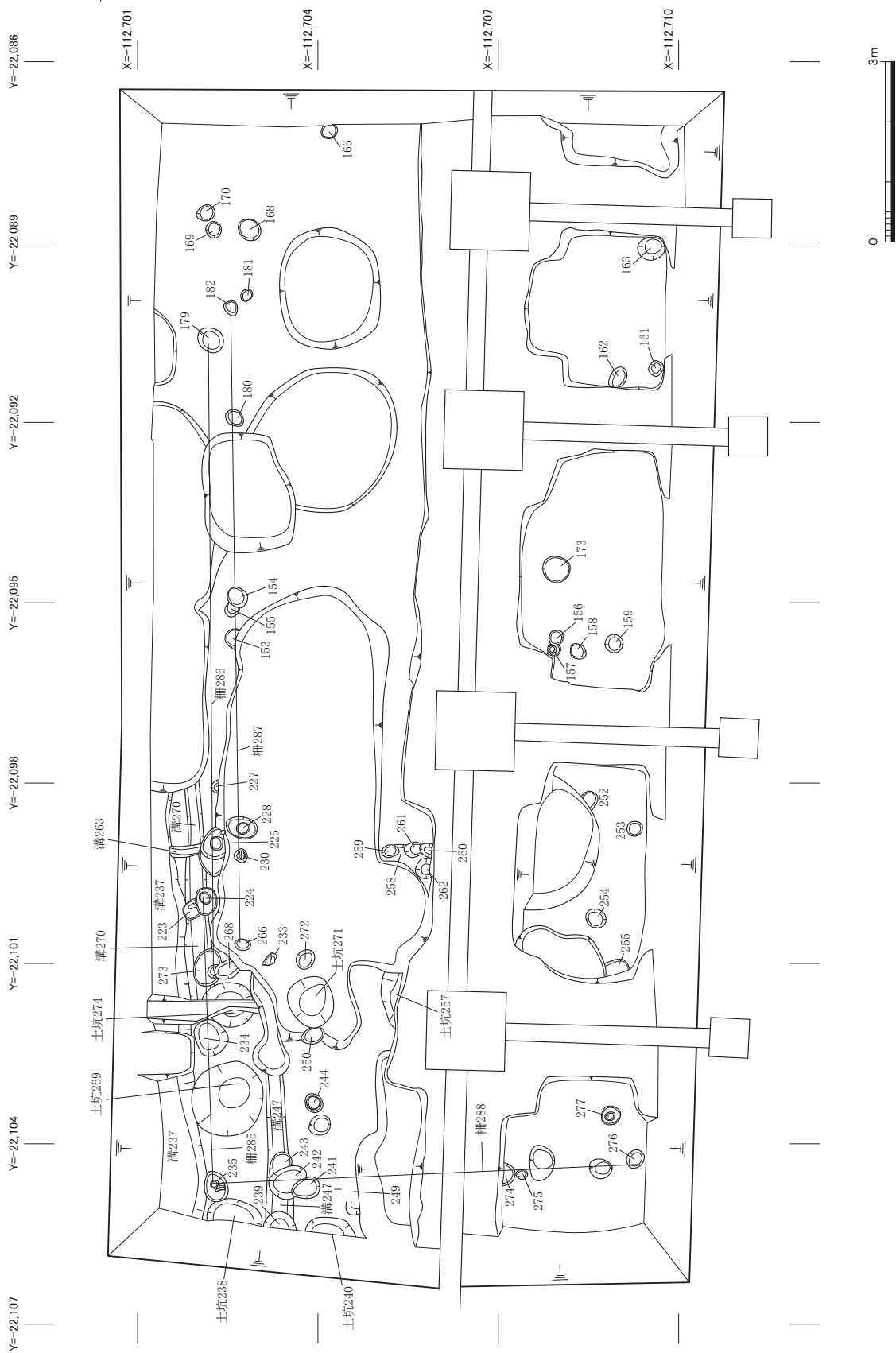
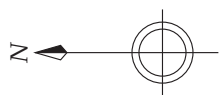
第1面平面图 (4層上面 1 : 100)



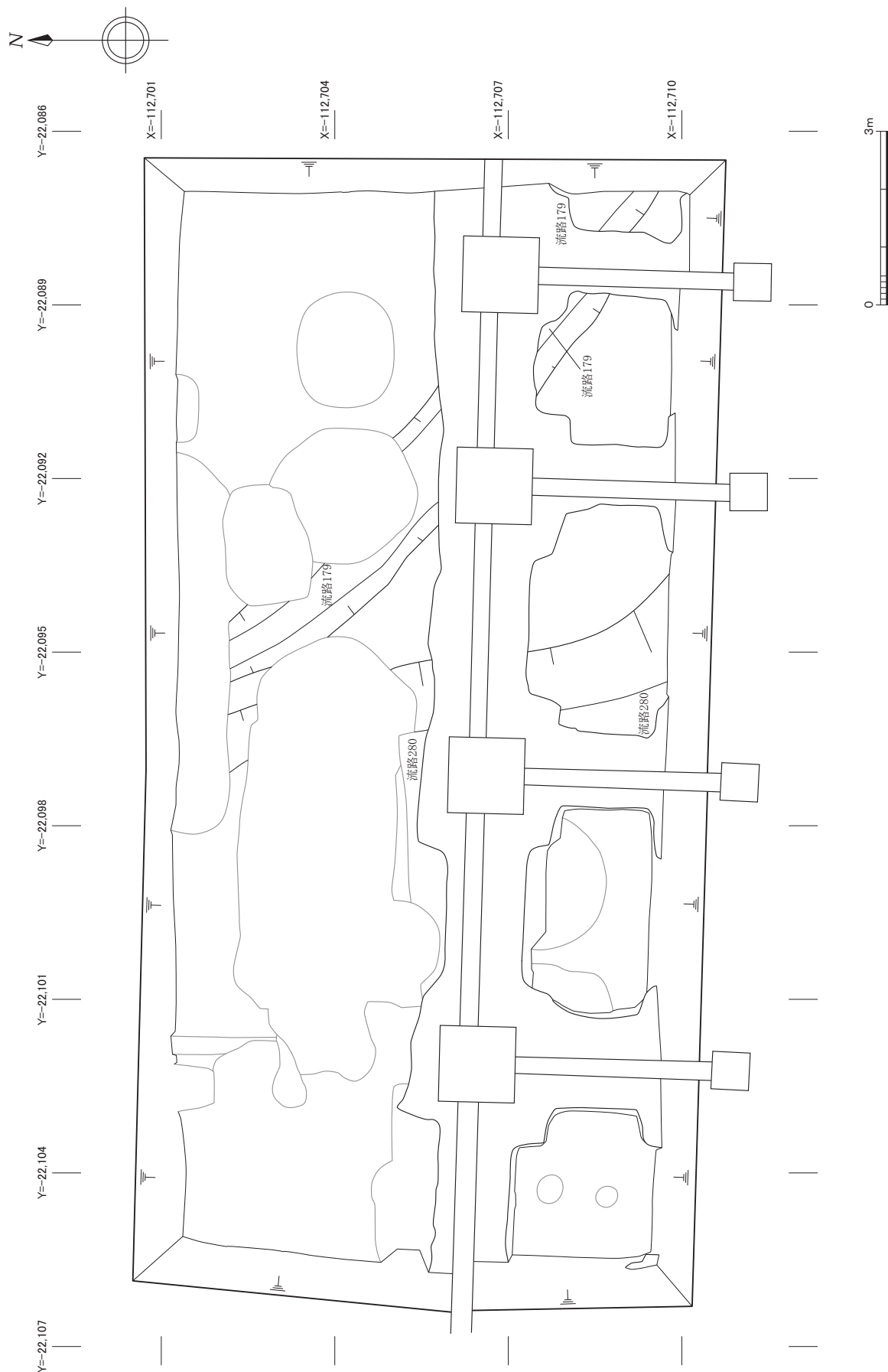
第2-1面平面图 (5a層上面 1:100)



第2-2面平面图 (5b層上面 1:100)



第3-1面平面图 (6·7层上面 1:100)



第3-2面平面图 (7層上面 1:100)



1. 東区 第1面全景（4層上面 西から）



2. 西区 第1面全景（4層上面 東から）



1. 東区 第2面全景（5a層上面 西から）



2. 集石107・108（西から）



1. 西区 第2-1面全景（5a層上面 東から）



2. 柱列140（北から）



1. 土坑117遺物出土状況（南から）



2. 土坑138遺物出土状況（東から）



1. 西区 第2-2面全景（5b層上面 東から）



2. 溝205（東から）



1. 井戸200（東から）



2. 井戸152（西から）



3. 井戸176（南西から）



3. 井戸151（東から）



1. 土坑172遺物出土状況（東から）



2. 土坑171・175（北西から）



3. 土坑171・188・189・190・191（北西から）



3. 土坑199（北から）



1. 東区 第3面全景（6・7層上面 西から）



2. 西区 第3面全景（6・7層上面 東から）



1. 柵 285・286、溝 237・247・270（西区 西から）



2. 柵 286・287（東区 西から）



3. 柵 288（南から）



1. 西区北半 第3面の状況（南東から）



2. 3C区 第3面の状況（北から）



3. 4C・5C区 第3面の状況（南から）



1. 溝270天目茶碗出土状況（北から）



2. 柱穴235軒平瓦出土状況（南から）



3. 柱穴235半裁状況（南から）



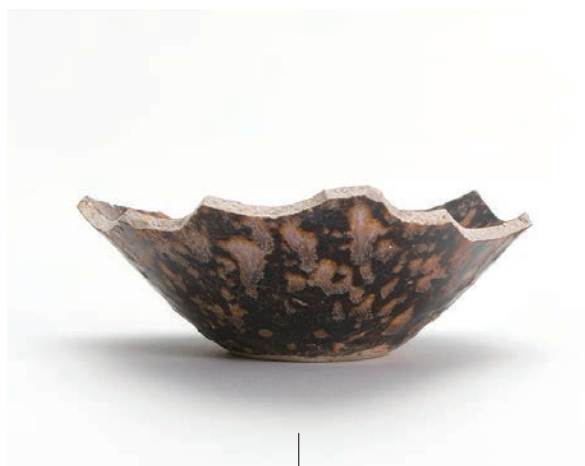
1. 東区第3面 流路179・280掘削後全景（西から）



2. 流路179（北西から）



3. 流路280 西區北壁付近掘削後の状況（南東から）



104



51



49



106

出土遺物 1 (輸入陶磁器、土師器、須恵器)



1. 出土遺物 2 (須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器)



2. 出土遺物 3 (井戸200出土遺物)



1. 出土遺物 4（井戸152出土遺物）



2. 出土遺物 5（井戸151出土遺物）



1. 出土遺物 6 (土坑138出土遺物)



2. 出土遺物 7 (輸入陶磁器)



1. 出土遺物 8 (瓦器)



2. 出土遺物 9 (軒瓦)

# 報告書抄録

|                   |                                                         |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
|-------------------|---------------------------------------------------------|----------|--------------------|-------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| ふりがな              | へいあんきょうさきょうくじょうさんぼうはっちょうあと・からすまちょういせきはつくつ<br>ちょうさほうこくしょ |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 書名                | 平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡発掘調査報告書                               |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| シリーズ名             | 文化財サービス発掘調査報告書                                          |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| シリーズ番号            | 第12集                                                    |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 編著者名              | 大西晃靖                                                    |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 編集機関              | 株式会社 文化財サービス                                            |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 所在地               | 〒612-8372 京都市伏見区北端町58                                   |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 発行所               | 株式会社 文化財サービス                                            |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 発行年月日             | 2020年12月28日                                             |          |                    |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 所収遺跡名             | 所在地                                                     | コード      |                    | 北緯                | 東経                                                    | 調査期間                                  | 調査面積                                                                                                                                                                                                                                                               | 調査原因 |
|                   |                                                         | 市町村      | 遺跡番号               |                   |                                                       |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| へいあんきょうあと<br>平安京跡 | きょうとしみなみく<br>京都市南区<br>ひがしくじょうむろまち<br>東九条室町4 8           | 26100    | 1                  | 34度<br>59分<br>01秒 | 135度<br>45分<br>28秒                                    | 2020年<br>7月15日<br>～<br>2020年<br>9月14日 | 200㎡                                                                                                                                                                                                                                                               | 建物建設 |
| 所収遺跡名             | 種別                                                      | 主な時代     | 主な遺構               |                   | 主な遺物                                                  |                                       | 特記事項                                                                                                                                                                                                                                                               |      |
| 平安京跡              | 都城                                                      | 古墳時代     |                    |                   | 古式土師器                                                 |                                       | ・平安時代では流路跡を検出した。出土遺物から10世紀頃に埋没したと考えられる。<br>・5 a層上面、5 b層上面、6・7層上面の3面で鎌倉時代前半の遺構を検出した。6・7層上面では柵・溝など区画に関する遺構、5 b層上面では井戸・土坑など、5 a層上面では柱穴、整地の一環と考えられる集石を検出した。<br>鎌倉時代の遺物は土師器、東播系須恵器、瓦器などが中心であるが、吉州窯産天目茶碗、青白磁托という高級輸入陶器が出土した。<br>・鎌倉時代後半以降は耕作に伴う素掘り溝群を検出し、耕地化していく状況を確認した。 |      |
|                   |                                                         | 平安時代     | 流路                 |                   | 須恵器<br>緑釉陶器<br>灰釉陶器                                   |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
|                   |                                                         | 鎌倉時代前半   | 柵、柱穴、溝<br>井戸、土坑、集石 |                   | 土師器、須恵器、<br>白色土器、青磁、<br>白磁、輸入陶器、<br>瓦器、焼締陶器、<br>瓦、石製品 |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
|                   |                                                         | 鎌倉時代後半以降 | 素掘り溝               |                   | 土師器、瓦質土器、<br>染付、近世陶磁器、<br>瓦                           |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |

文化財サービス発掘調査報告書第12集

# 平安京左京九条三坊八町跡・ 烏丸町遺跡発掘調査報告書

発行日 2020年12月28日

株式会社 文化財サービス  
編集 〒612-8372 京都市伏見区北端町58  
TEL 075-611-5800

三星商事印刷株式会社  
印刷 〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下る  
TEL 075-256-0961